

複式学級指導の手引き

(令和元年度改訂版)

令和2年3月

島根県教育委員会

はじめに

島根県教育委員会では、島根県内の複式学級を有する小学校の現状を踏まえ、複式学級指導の充実を図るため、平成26年3月に「複式学級指導の手引き」を発刊しました。平成29年3月に小学校学習指導要領が告示され、「何ができるようになるか」を念頭に、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理されました。今回発刊する手引きは、子どもたちがこれらの資質・能力を身に付けるために、複式学級における各教科等の教育課程及び指導の在り方を新しい学習指導要領にあわせて見直し、改訂版として発刊するものです。

少子高齢化、情報化、国際化等子どもたちを取り巻く環境は近年大きく変化しています。島根県も例外ではなく、少子高齢化による人口減少は大きな課題となっています。これからの変化の激しい社会を力強く生き抜いていくための力を子どもたちが身に付けられるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められています。

県内の約3分の1の小学校が複式学級を有している島根県では、過去から現在に至るまで、多くの優れた複式学級の授業実践が行われてきました。平成26年から継続して実施している「複式教育推進指定校事業」では、県内3小学校を推進指定校とし、複式学級における学年別指導の在り方の研究を進めています。複式学級の指導方法として「直接指導」「間接指導」があり、それに伴う「ガイド学習」があります。教師が一方の学年の子どもたちを指導している間、もう一方の学年の子どもたちはガイド役の子どもを中心に協働して自分たちで学習を進め、考えを広げ深めるものです。この「ガイド学習」によって課題に主体的に取り組む子どもたちの姿は、新しい学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」に通じるものであり、複式学級に限らずすべての学級での学習指導のヒントとなるものであります。

本手引きを活用し、異学年で学ぶことのよさに目を向け、一人一人の子どものよさや可能性を把握し、個に応じた指導が行われますとともに、複式学級指導の充実に努めていただきたいと思います。

最後になりましたが、本手引きの執筆にあたってご助言いただいた島根大学名誉教授有馬毅一郎先生に、心から感謝申し上げます。

令和2年3月

島根県教育庁教育指導課長

多々納 雄二

目 次

ページ

第1章 複式学級とは

- 1 複式学級とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 複式学級の特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - (1) 複式学級のよさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 複式学級指導上の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 複式学級指導の現状と課題

- 1 島根県のへき地指定校と複式学級を有する学校・・・・・・・・ 3
 - (1) 本県におけるへき地指定の小学校及び中学校・・・・・・・・ 3
 - (2) 本県における複式学級を有する小学校・・・・・・・・・・ 4
 - (3) 全国の複式学級を有する小学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 複式学級の学習指導の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (1) 「同単元同内容同程度（A・B年度方式）」と「異単元（学年別指導）」・・ 6
 - (2) 児童数の減少と複式学級を有する学校数の減少・・・・・・・・ 7

第3章 これからの学習指導と複式学級指導

- 1 学習指導要領の改訂より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 2 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善・・ 9
- 3 学力調査の分析結果より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 4 複式学級の特性を生かす・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第4章 複式学級を有する小学校の教育課程

- 1 教育課程の編成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 2 へき地・小規模学校における教育課程編成上の留意点・・ 11
- 3 複式学級における教育課程編成上の留意点・・・・・・・・・・ 11

第5章 複式学級の指導計画

- 1 指導の類型・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 2 島根県の類型別の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 3 島根県の複式学級指導の変遷と同単元同内容同程度（A・B年度方式）・・ 17
- 4 指導類型ごとの長所・短所と留意点・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - (1) 異教科（学年別指導）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - ① 異教科指導の長所と短所
 - ② 異教科指導を実施する際の留意点
 - (2) 同教科異単元（学年別指導）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
 - ① 同教科異単元指導の長所と短所
 - ② 同教科異単元指導を実施する際の留意点
 - (3) 同教科同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）・・ 20
 - ① 同教科同単元同内容同程度指導の長所と短所
 - ② 同教科同単元同内容同程度指導を実施する際の留意点
 - (4) 同教科同単元同内容異程度（完全1本案、くりかえし案）・・ 23

①同教科同単元同内容異程度指導の長所と短所	
②同教科同単元同内容異程度指導を実施する際の留意点	
(5)同教科同単元異内容（1 本案、くりかえし案）	24
①同教科同単元異内容指導の長所と短所	
②同教科同単元異内容指導を実施する際の留意点	
(6)折衷案	25
5 合同学習	26
6 集合学習	27
7 交流学習	28
第6章 授業時数の取扱い	
1 各教科等の年間授業時数と総授業時数	29
2 1日の生活時程や時間割作成における工夫	30
第7章 学年別指導における学習指導方法	
1 直接指導	31
2 間接指導	32
3 「わたり」と「ずらし」	34
(1)わたり	34
(2)ずらし	35
4 ガイド学習	37
(1)ガイドの役割	37
(2)ガイドの位置付け	38
①教師が中心となって授業が展開される場合	
②ガイドが中心となって授業が展開される場合（同時間接指導）	
(3)ガイド学習の留意点	38
第8章 複式学級の指導と評価	
1 学年別指導における評価の留意点	43
2 同単元（題材）同内容同程度（A・B年度方式、2 本案）指導における評価の留意点	43
3 同単元（題材）同内容異程度（完全1 本案、くりかえし案）、 同単元（題材）異内容（1 本案、くりかえし案）指導における評価の留意点	44
第9章 複式学級における学習指導方法の工夫・改善	
1 教師の心構え	45
2 ノートのとり方の指導の工夫	46
3 黒板やホワイトボードの使い方の工夫	46
4 多様な考えを引き出す工夫	47
5 効果的に学年別に学習する座席配置	47
第10章 複式学級を有する学校の学校経営・学級経営	
1 初めて複式学級を有する小学校に勤務する教職員の皆さんへ	49
2 管理職のリーダーシップのもと学校全体で取り組む	50
3 教科書無償給与に係る手続き	53
4 転出入児童に未学習が生じないために	54

第11章 各教科等における指導のポイント

1	複式学級における国語科指導のポイント	55
2	複式学級における社会科指導のポイント	55
3	複式学級における算数科指導のポイント	56
4	複式学級における理科指導のポイント	56
5	複式学級における生活科指導のポイント	56
6	複式学級における音楽科指導のポイント	57
7	複式学級における図画工作科指導のポイント	57
8	複式学級における家庭科指導のポイント	57
9	複式学級における体育科指導のポイント	58
10	複式学級における外国語科指導のポイント	58
11	複式学級における特別の教科 道徳指導のポイント	58
12	複式学級における外国語活動指導のポイント	58
13	複式学級における総合的な学習の時間指導のポイント	59
14	複式学級における特別活動（学級活動）指導のポイント	59

第12章 各教科等の年間指導計画例

	はじめに	60
1	国語科（同単元異内容、異単元、折衷案：同単元異内容・異単元）	61
2	国語科（折衷案：同単元同内容同程度・異単元）	66
3	社会科（異単元）	71
4	社会科（同単元同内容同程度）	76
5	算数科（異単元）	81
6	理科（異単元）	86
7	理科（同単元同内容同程度）	90
8	生活科（折衷案：異単元・同単元同内容異程度・同単元同内容同程度）	95
9	音楽科（同題材同内容異程度、同題材同内容同程度）	99
10	図画工作科（同題材同内容異程度、同題材同内容同程度）	103
11	家庭科（折衷案：同題材同内容同程度・同題材同内容異程度）	109
12	体育科（同単元同内容異程度・同単元同内容同程度）	112
13	外国語科（折衷案：同単元同内容異程度・同単元同内容同程度）	116
14	特別の教科 道徳（同主題同内容同程度）	125
15	外国語活動（折衷案：同単元同内容異程度・同単元同内容同程度）	131
16	総合的な学習の時間（折衷案：同単元異内容・同単元同内容同程度）	137
17	特別活動（同内容同程度）	142

◇	参考文献・引用文献等	147
---	------------	-----

第1章 複式学級とは

1 複式学級とは

児童又は生徒の数が著しく少ない場合、複数学年の児童又は生徒が1学級に編制されます。このような学級を複式学級といいます。

複式学級の法的根拠としては、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律(昭和33年5月1日法律第116号)第3条(学級編制の標準)の中に、

第三条 公立の義務教育諸学校の学級は、同学年の児童又は生徒で編制するものとする。ただし、当該義務教育諸学校の児童又は生徒の数が著しく少いかその他特別な事情がある場合においては、政令で定めるところにより、数学年の児童又は生徒を1学級に編制することができる。

と書かれています。

また、同法律第3条2項では、都道府県ごとの、公立小学校又は中学校の1学級の児童又は生徒数の基準は、次の表に掲げた数を基準として、都道府県の教育委員会が定めるとされています。

表1 学級編制の区分と1学級の児童又は生徒数

学校の種類	学級編制の区分	1学級の児童又は生徒の数
小学校	同学年の児童で編制する学級	40人(第1学年の児童で編制する学級にあっては、35人)
	二の学年の児童で編制する学級	16人(第1学年の児童を含む学級にあっては、8人)
中学校	同学年の生徒で編制する学級	40人
	二の学年の生徒で編制する学級	8人

島根県教育委員会では、この基準を受け独自に学級編制基準を定めています。このことにより、中学校においては、特別支援学級を除き、8人以下であってもすべて「単式学級」として編制され、現在中学校においては、複式学級は存在していません。小学校における複式学級は、すべて1・2年、3・4年、5・6年の組合せで編制されています。一方、他都道府県では、小学校の2・3年、4・5年の組合せ(変則複式)の複式学級が存在している場合があるというのが現状です。

2 複式学級の特徴

複式学級の特徴を知ることは、とても大切なことです。複式学級には次のような特徴があります。

- 2つの学年の児童によって編制されている学級である。
- 学年の枠を超えた社会を形成している学級である。
- 学年の組合せにより、学級の構成人数が毎年変わる学級である。
- 少人数学級である。
- へき地にあることが多い。
- 学年・性別の割合がアンバランスになりがちな学級である。

(1) 複式学級のよさ

- ・異年齢同士の協力的な態度を養いやすい。
- ・一人一人の存在感や役割をもたせやすく、リーダー性を育てやすい。
- ・自分たちで学習を進めていく場面が多く、自主的、協力的な学習態度を育てやすい。
- ・一人一人の児童によく目が行き届き、丁寧に指導することができる。指導の記録も丁寧に取やすい。
- ・児童同士や、児童と教師の関わりが濃く、温かい雰囲気が醸成されやすい。

(2) 複式学級指導上の課題

- ・当該学年の発達段階にそぐわない内容を学習する場合がある。
- ・直接指導を行う時間が短くなる場合が多い。
- ・下学年児童の依頼心が強くなる傾向があり、学級になじむまでは配慮を必要とする場合がある。
- ・等質的な行動や同調的な発言が多くなりがちで、多面的、発展的な考え方を育てる配慮を必要とする場合がある。
- ・実験や作業等、一人あたりの負担が大きくなりやすい。

この他にも、複式学級を有する小学校は、教職員集団も小規模となるため、学校においては、校長、教頭のリーダーシップが発揮しやすい、教員が個性を発揮しやすい、共通理解が図りやすい、といった長所があります。一方、会議や研修等の出張に出かけにくい、一人で多くの校務分掌を担当するため多忙になる、といった課題もあわせもっています。

このような複式学級の特徴、複式学級を有する学校の特徴を理解したうえで、複式学級で育つ児童のために、より豊かで充実した教育が積み上げられるよう工夫し、教育課程を編成する必要があります。

第2章 複式学級指導の現状と課題

1 島根県のへき地指定校と複式学級を有する学校

(1) 本県におけるへき地指定の小学校及び中学校

島根県内には、令和元年度4月1日現在、小学校55校、中学校28校、合計83校の国指定のへき地指定校があります。(図1)

近年は、少子化等による児童数減により小学校の統廃合が進んだり、社会資本の整備が行われたりして地域の開発が進み、国指定のへき地校は減少傾向にあります。(表2)

図1 令和元年度 国指定へき地小・中学校一覧

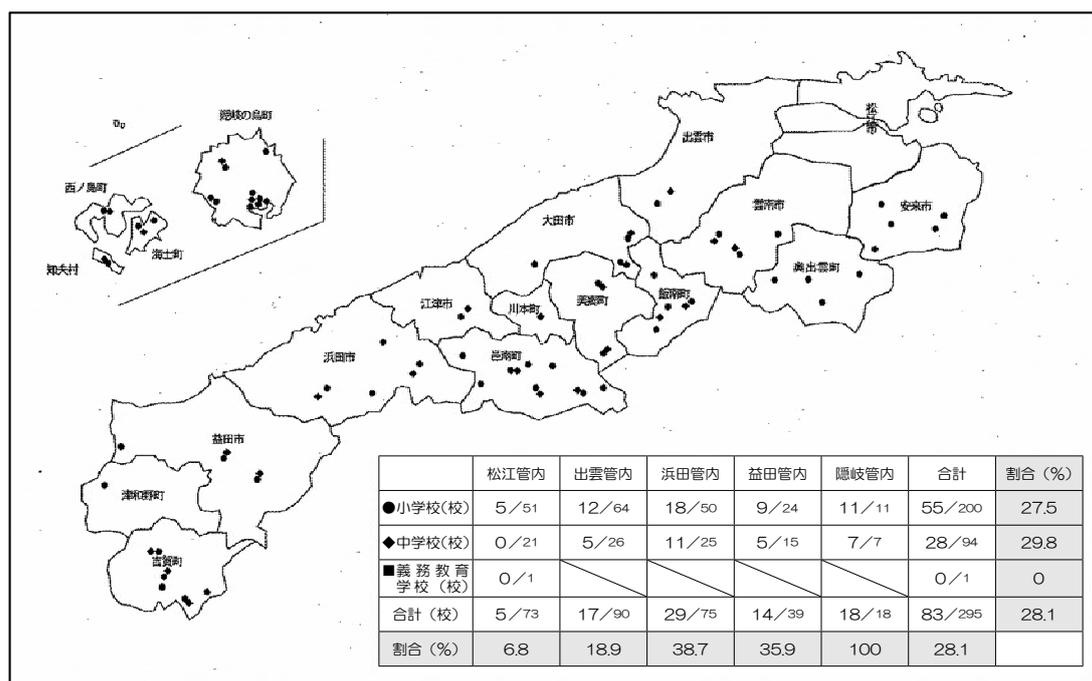


表2 教育事務所別・国指定へき地小・中学校数一覧

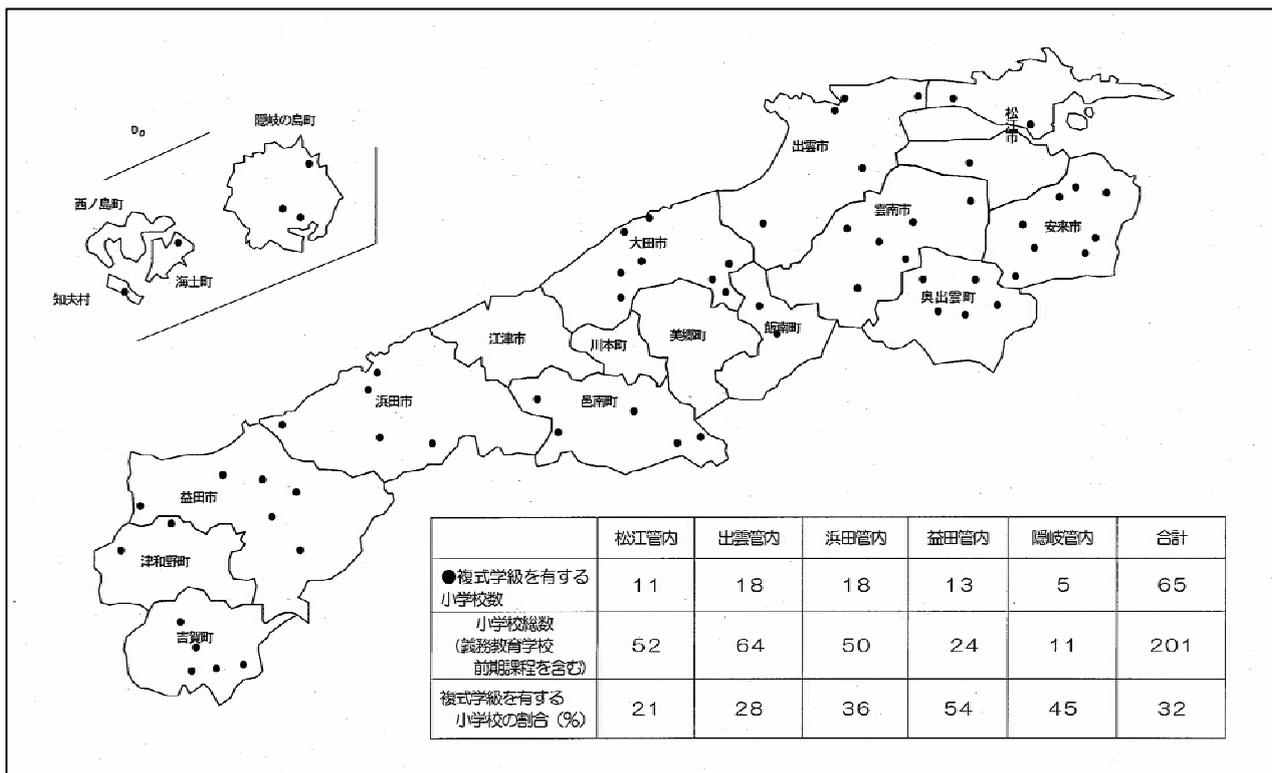
	平成10年度	平成15年度	平成20年度	平成25年度	平成27年度	令和元年度
松江管内	31	17	6	5	5	5
出雲管内	34	33	28	22	19	17
浜田管内	34	44	34	28	27	29
益田管内	30	26	23	19	18	14
隠岐管内	28	28	26	18	18	18
国指定へき地 小・中学校合計	157	148	117	92	87	83
市町村立 小・中学校等総数	412	394	356	320	308	295

(2) 本県における複式学級を有する小学校

令和元年度、島根県内には、65 校の複式学級を有する小学校があります。(図 2) そのうち、国指定のへき地校が占める割合は約 6 割で、36 校となっています。国指定のへき地校であっても、統廃合により複式学級が解消され、単式学級となった学校もあります。

島根県の複式学級を有する小学校の多くは、図 2 に示すとおり、中山間地や海辺に位置し、県内各地に分散しています。

図 2 令和元年度複式学級を有する小学校一覧



所管する教育事務所別にみると、出雲教育事務所管内、浜田教育事務所管内が 18 校と多く、隠岐教育事務所管内が一番少なく 5 校となっています。また、益田教育事務所管内では小学校数 24 校中ほぼ半数の 13 校が複式学級を有しており、割合では一番高くなっています。

表 3 は、本県の複式学級を有する学校数と複式学級に通う児童数の推移をまとめたものです。昭和 40 年度から平成 15 年度の間は、90 校から 100 校の間で、複式学校が安定して存在していたのがわかります。一方、ここ 10 年間で、児童数の減少等により統廃合が進められ、30 校近く減少しています。

昭和 50 年度の複式学級数が特に多かったのは、昭和 49 年度に改正標準法が施行され、それまで複式学級の編制基準が「2 学年複式 22 人、3 学年複式 15 人」であったのが、「3 学年複式」が解消され、「2 学年複式を 21 人、第 1 学年の児童を含む学級は 17 人」と変更されたためだと考えられます。この後、昭和 50 年代から平成元年頃までは、「2 学年複式 20 人、第 1 学年の児童を含む学級は 12 人」の基準で複式学級が編成され、平成 8 年には現在の「2 学年複式 16 人、第 1 学年の児童を含む学級は 8 人」という基準となりました。中学校の特別支援学級を除く複式学級については、平成 13 年度から解消されています。

表3 島根県の複式学級を有する小学校等数と複式学級に通う児童数の変遷（参照：文部科学省学校基本調査）

	市町村立小学校等 学校数（含分校）	複式学級を有す る小学校等数	市町村立小学校等 児童数	複式学級児童数
令和元年度	201	65	34,290	1,176
平成25年度	220	68	36,227	1,195
平成20年度	252	79	39,179	1,425
平成15年度	285	101	42,548	1,811
平成10年度	297	99	48,459	1,848
平成5年度	303	91	55,968	1,908
平成元年度	306	95	61,392	2,282
昭和60年度	314	91	68,975	2,085
昭和55年度	318	100	68,705	2,152
昭和50年度	333	145	64,713	2,578
昭和45年度	369	115	73,490	3,084
昭和40年度	421	109	90,019	3,738

(3) 全国の複式学級を有する小学校

表4は、令和元年度文部科学省学校基本調査のデータをもとに、全国の都道府県の編制方式別複式学級数をまとめたものです。まず、学級数が多い都道府県を見ると、北海道が目立って多く615学級あり、鹿児島県の490学級、福島県の207学級、山口県の186学級と続きます。少ない都道府県は、東京都の5学級、奈良県の6学級、神奈川県7学級となっています。中国5県では、鳥取県が24学級と少ないのですが、島根県を含めた他の4県には、約100~200学級の複式学級が存在しています。また全国を見ると、いくつかの県では、1つの学級で3個学年の児童が学ぶ複式学級もわずかですがあります。都道府県の地理的条件や歴史的条件等の違いにより、複式学級をとりまく環境がそれぞれ異なっていることがわかります。

表4 令和元年度全国都道府県編制方式別複式学級数（参照：文部科学省学校基本調査）

都道府県	複式学級					
	計	2個学年	3個学年	4個学年	5個学年	6個学年
北海道	615	615	-	-	-	-
青森	135	135	-	-	-	-
岩手	176	176	-	-	-	-
宮城	74	74	-	-	-	-
秋田	45	45	-	-	-	-
山形	88	87	1	-	-	-
福島	207	207	-	-	-	-
茨城	57	57	-	-	-	-
栃木	72	72	-	-	-	-
群馬	28	28	-	-	-	-
埼玉	23	23	-	-	-	-
千葉	38	38	-	-	-	-
東京都	5	5	-	-	-	-
神奈川県	7	7	-	-	-	-
新潟	116	115	1	-	-	-
富山	29	29	-	-	-	-
石川	60	60	-	-	-	-
福井	58	58	-	-	-	-
山梨	42	42	-	-	-	-
長野	26	26	-	-	-	-
岐阜	78	78	-	-	-	-
静岡県	95	95	-	-	-	-
愛知県	50	50	-	-	-	-
三重	72	72	-	-	-	-
滋賀	8	8	-	-	-	-
京都	28	28	-	-	-	-
大阪	10	10	-	-	-	-
兵庫	75	75	-	-	-	-
奈良	6	6	-	-	-	-
和歌山	124	124	-	-	-	-
鳥取	24	24	-	-	-	-
島根	130	130	-	-	-	-
岡山	131	131	-	-	-	-
広島	108	108	-	-	-	-
山口	186	186	-	-	-	-
徳島	31	31	-	-	-	-
香川	9	9	-	-	-	-
愛媛	134	134	-	-	-	-
高松	134	134	-	-	-	-
福岡	69	69	-	-	-	-
佐賀	36	36	-	-	-	-
長門	156	156	-	-	-	-
熊本	76	76	-	-	-	-
大分	100	100	-	-	-	-
宮崎	125	125	-	-	-	-
鹿児島	490	490	-	-	-	-
沖縄	106	106	-	-	-	-

2 複式学級の学習指導の現状と課題

複式学級が抱える一般的な課題は、第1章で述べた複式学級の特性を受け、そのよさを生かし、対応を工夫しながら、どう効果的に児童に力を付けていくかということです。このことについては、これまで様々な場で課題として取り上げられてきましたし、今後も研究を進めていく必要があります。

本手引きでは、複式学級の学習指導を中心に記述します。

島根県教育委員会では、平成25年6月に、平成25年度に複式学級を有する小学校と、平成26年度、平成27年度に複式学級を有する予定の小学校を対象に、複式学級における指導上の課題について調査を行いました。その中で、2つの学年を同時にもつ場合の指導上の課題として、次のような意見が多くあげられました。

- 下学年児童への指導が困難である。
- 児童の発達の段階や学習内容の系統性を踏まえた指導が行いにくい。
- 転校生がいた場合の対応が困難である。
- 単式になったり、複式になったりする学校においては、教育課程の編成が複雑になる。
- 算数科等の授業における学年別指導（いわゆる「わたりの指導」）が難しい。

これらは単式学級とは異なる複式学級特有の指導上の課題であると同時に、「同単元同内容同程度」、いわゆる「A・B年度方式」による教育課程の編成により生じる課題が多くあげられています。

「A・B年度方式」というのは、低・中・高、それぞれ2学年分の内容を、2年間に配当し目標を達成する方法です。つまり、3年生が4年生の教科書の内容を、4年生が3年生の教科書の内容を学習することもあります。ここで確認しておきたいことは、教科書が学年別に作成されている場合、各教科・学年ごとの指導内容が決まっているように見えますが、学習指導要領に学年ごとの内容が示されているのは、算数、理科、社会のみとなります。

(1) 「同単元同内容同程度（A・B年度方式）」と「異単元（学年別指導）」

「A・B年度方式」についての課題が多くあがるのは、県内の複式学級を有する小学校において、最も多くこの方式が採用されていることが理由だと考えられます。現在、県内の多くの複式学級で、算数科以外の教科等は「A・B年度方式」により教育課程が編成されています。これは、県独自の加配措置により、早くから低・中・高の完全複式で学級が長期にわたり安定的に編成されてきていたこと、また、島根大学教育学部附属小学校の複式学級において先進的に「A・B年度方式」について授業研究されていたことも大きく影響しています。しかしこの「A・B年度方式」は、2・3年、4・5年等の変則複式が存在する学校においては実施が困難な方式です。

一方、算数科の「異単元」等の学年別指導による授業に困難さを感じている学校も多くあります。学校によっては、算数科の時間だけは複式を解消し、2人の教員が単式学級と同様に指導していると回答した学校もありました。学年別指導だと2つの学年を1人の教員で指導するので、教師がついて指導する時間が単式学級の半分となるように感じられる点が課題の一つといえるかもしれません。また、同時に2つの学年を指導することによる教師の負担増加や、これまで単式学級での指導の経験しかないという教師の複式学級指導に係る指導力も課題となっているようです。

島根県では算数科以外は「A・B年度方式」で指導している学校が多くありますが、複式学級の指導には様々な指導形態があります。他県では、「同教科異単元」とどまらず、「異教科」の組合せで時間割を作成しているという学校もあります。それぞれの長所と短所を教師が理解し、学校をとりまく地域

環境や目の前にいる児童の実態、教師の指導経験、指導力等と照らし合わせ、もっとも成果をあげるこ
とのできる教育課程を編成する必要があります。

本手引きでは、第5章で複式学級の指導計画の類型とそれぞれの長所と短所を、第7章で「わたり」
や「ずらし」といった学習指導の留意点等をあげています。

(2) 児童数の減少と複式学級を有する学校数の減少

p. 5の表3からもわかるとおり、ここ10年で、島根県の複式学級児童数や複式学級を有する小学校
数は大きく減少しています。単式学級から複式学級になったり、複式学級の人数が減り欠学年を生じ単
式学級になったりする学校も多く、これらの学校では、これまで島根県ではあまり研究されてこなかっ
た「異単元（学年別指導）」等による指導が必要になることも考えられます。島根県の複式学級は、安定
的に複式学級が存在していた時期にはなかった新たな課題に直面しています。

この課題を解決するための1つの手掛かりとなるよう、本手引きの第12章では、各教科等の「異単元
（学年別指導）」や「同単元異内容」等の年間指導計画作成の留意点や年間指導計画例を示しています。
これらを参考に、各校の実態に合った年間指導計画を作成してください。

表5 令和元年度国指定へき地校・複式学級を有する学校一覧

教育事務所	教育委員会	国指定へき地学校	複式学級を有する学校	教育事務所	教育委員会	国指定へき地学校	複式学級を有する学校			
松江	松江市		朝酌小	益田	益田市	真砂小	真砂小			
		0	大野小			豊川小	豊川小			
			大谷小			桂平小	桂平小			
	安来市		宇賀荘小			5		東仙道小	6	東仙道小
			能義小					都茂小		都茂小
			飯梨小					匹見小		匹見小
			比田小					真砂中		
			比田小					匹見中		
			山佐小							
			山佐小				8			
	布部小									
	井尻小									
	赤屋小									
出雲	出雲市		上津小	2	津和野町	木部小	木部小			
			鰐淵小			1	青原小	2		
			北浜小							
			伊野小							
			窪田小							
		窪田小								
		佐田中								
	雲南市		阿用小	5	吉賀町	柿木小	柿木小			
			海潮小			7日市小	7日市小			
			西日登小			朝倉小	朝倉小			
			鍋山小			六日市小	六日市小			
			吉田小			蔵木小	蔵木小			
			田井小			蔵木小				
			田井小			6				
	奥出雲町		高尾小	4	海士町	福井小	海士小			
			亀嵩小			3	1			
			三沢小							
			鳥上小							
			鳥上小							
	飯南町		馬木小	6	西ノ島町	西ノ島小	0			
		頼原小	2			0				
		志々小								
		赤名小								
		来島小								
浜田	浜田市		志々小	2	知夫村	知夫小	知夫小			
			来島小			2	1			
	大田市		雲雀丘小	5	隠岐の島町	西郷小	3			
			美川小			中条小				
						有木小				
						磯小				
						北小				
						五箇小				
						都万小				
	江津市		五十猛小	2	西郷中	5箇中	都万中			
			鳥井小							
			北三瓶小							
	川本町		志学小	1	西郷南中	五箇中	都万中			
			池田小							
			久屋小							
			大森小							
美郷町		高山小	4	都万中	都万中	都万中				
		北三瓶中								
		志学中								
邑南町		桜江小	11	都万中	都万中	都万中				
		桜江中								
		川本中					0			
		川本中					1	0		
		邑智小					4	0		
		大和小								
		邑智中								
		大和中								
		口羽小					5	0		
		阿須那小							口羽小	
		高原小							阿須那小	
	瑞穂小	高原小								
	市木小									
	矢上小									
	日貫小									
	日貫小									
	石見東小									
	羽須美中									
	瑞穂中									
	石見中									

合計	国指定へき地学校	複式学級を有する学校
小学校	55	65
中学校	28	0
義務教育学校	0	0

※複式学級を有する小学校の内、国指定へき地小学校36校。

第3章 これからの学習指導と複式学級指導

学級編制が複式であるか単式であるかに関わらず、子どもたちに付けさせたい力は同じです。

1 学習指導要領の改訂より

平成19年の学校教育法の改正により学力の3要素が示され、これを踏まえ平成29年に告示された学習指導要領では育成を目指す資質・能力が明確にされました。これからの学習指導においては、次の3つの資質・能力の育成が求められます。

- 何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）
- 理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）
- どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進が示されています。さらに、新たに取り組むこと、これからも重視することとして、外国語教育、道徳教育、理数教育、伝統や文化に関する教育、主権者教育等、社会の変化への対応の観点から教科等横断的な取組の充実が求められています。

2 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

平成30年6月に閣議決定された第3期教育振興基本計画では、Society5.0の社会の実現に向けてAI（人工知能）やビッグデータの活用等急速な技術革新が進んでおり、そのような社会を生き抜くために必要な力を身に付けるには教育の力の果たす役割が大きいことが述べられています。

平成29年3月に告示された学習指導要領では、子どもたちに求められる資質・能力を身に付けさせる観点から、「何ができるようになるか」を明確にするとともに、「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「どのように学ぶか」という学習プロセスを重視した教育の実現を目指していくことが求められています。学ぶことと社会のつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視することが必要となってきます。そのために「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められています。そして、学びの「深まり」のカギとなるのが、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」です。この「見方・考え方」を習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることで、より質の高い深い学びにつながります。

3 学力調査の分析結果より

近年の全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）の分析結果によると、島根県の児童の学力の特徴としては、

- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することや、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。

○学力分布の上位層が少ない状況がある。

といった点があげられています。また、児童質問紙調査においては、「地域の行事に参加したり、地域や社会をよくするために何をすべきか考えたりする」児童の割合が高いことや、「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」児童の割合が増えてきていることがあげられます。算数への関心等をたずねる項目では、「算数の勉強は好きだ」「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合は前年度より上昇しているものの、全国平均と比べると低い状況にあります。

令和元年度の全国調査では、教科に関する調査と質問紙調査のクロス集計等により、学校の指導状況と学力の関係等を詳細に分析しています。その結果によると、以下の活動や指導を積極的に行った児童や学校ほど、平均正答率が高い傾向が見られることがわかっています。

- 学級の友達との間で話し合う活動
- 自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動
- 総合的な学習の時間で、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導
- 今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導
- 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導
- 各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設ける授業
- 国語において、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業
- 算数において、実生活における事象との関連を図った授業

これらの結果から、単式学級、複式学級にかかわらず、授業づくりや学習指導のあり方を、改めて再検討する必要に迫られているといえます。

4 複式学級の特性を生かす

複式学級では、授業において学年別に授業することがあります。2つの授業を1人の教員が担当するわけですから、必然的に、単式学級以上に児童だけで学習を進めなければならない状況が生まれます。これは短所のようなのですが、児童の主体的な学びの場面として生かせば長所となります。

複式学級指導にあたって、教師は、児童が自分たちで学習が展開できるよう、事前に本時の目標を明確にし、直接指導しなくとも児童が学習できるような展開を考え、それを児童によく理解させたり、慣れさせたりするとともに、学習をリードするガイドを育成していく等の方法上の工夫をしていく必要があります。このことにより、教師が一方的に教えるのではなく、児童自らが進行し、考えを発表し、話し合う、児童が主体的に学ぶ授業となります。また、間接指導の時間を通してどのようなことを児童が考えたのか捉えられるように、ノートに振り返りを書いてまとめる活動を行うことで、その振り返りをもとに次時を展開することができます。

このような複式学級の指導は、教育基本法や学校教育法、学習指導要領等が求めている主体的に学習に取り組む態度を養い、学力向上につながる可能性に満ちた指導であるといえます。複式学級のよさを生かすためにも、教師は、単式学級と同じ指導法を複式学級に持ち込むのではなく、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、指導観を見直し、児童の実態に適した複式学級にふさわしい指導を実践する必要があります。

第4章 複式学級を有する小学校の教育課程

1 教育課程の編成

教育課程を編成するとき、まず法令で定められている学校教育の目的や目標に基づき、児童や地域、学校の実態を踏まえて教育目標を設定します。次にそれらの目標を達成するために、各教科等について、授業時数との関連において総合的に組織した教育計画を作成します。

教育課程は、全教職員の協力のもと、校長の責任において編成します。(第10章参照) ※以下章のみ記載

さらに、学校全体として、教育目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実現状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと等を通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(カリキュラム・マネジメント)に努める必要があります。

2 へき地・小規模学校における教育課程編成上の留意点

複式学級は、へき地に位置することが多く、また小規模であるという特性をもっています。へき地・小規模学校における教育課程編成については、次の点に留意する必要があります。

- へき地・小規模校の特性を生かす教育課程の編成を工夫します。少人数のよさに目を向け、児童一人一人のよさや可能性を把握し、個に応じた指導を可能な限り実施します。また、恵まれた自然環境や伝統的行事・文化等、地域の資源を生かし、特色ある教育活動を展開します。さらに、地域における開かれた学校をめざし、地域連携の在り方を検討し、地域の教育力を生かします。
- 1日の生活時程や週当たりの授業時間表を作成する場合には、児童の通学距離や交通条件あるいは季節等に十分配慮します。(第6章)
- 現状より、多人数での活動がより効果的であると判断される場合には、合同での学習を工夫します。
【合同学習】(第5章)
- 近隣の小学校や中学校との交流や地域との交流を積極的に行います。【集合学習】【交流学习】(第5章)
- コンピュータ等の情報機器の活用を工夫し、情報の活用、発信を通して児童の視野を広げるとともに他校との交流を図り、幅広い見方・考え方を身に付けさせ、多くの人々とのかかわりを通して自主性や積極性を育みます。

3 複式学級における教育課程編成上の留意点

複式学級では、2つの学年の児童で1つの学級が編成されている関係上、異なる学年が、同じ内容によって同時に学習する等、単式学級とは異なった学習形態や指導方法で学習する場合があります。

そのため、学習指導要領に示されている各教科の学年別の目標、内容や学年別に編集された教科書の内容の順序によりがたいことが生じます。そこで、学習指導要領総則「第2教育課程の編成 3教育課程の編成における共通的事項 (1)内容等の取扱い 才」において、

学校において2以上の学年の児童で編制する学級について特に必要がある場合には、各教科及び道徳科の目標の達成に支障のない範囲内で、各教科及び道徳科の目標及び内容について学年別の順序によらないことができる。

と規定し、特例として認めています。

教科等によっては、学年別の順序によらない同単元同内容同程度（A・B年度方式）等の指導計画を作成して指導する場合がありますが、その法的な根拠は、この学習指導要領総則の記述にあります。

ただし、学年別の順序によらないことが認められているのは、「2以上の学年の児童で編制する学級について特に必要がある場合」のみであり、単式学級においては、学年別の順序による必要があります。

複式学級の教育課程編成については、この特例の趣旨を踏まえ、次の点に留意する必要があります。

○複式学級においても、「特に必要がある場合には」、「目標の達成に支障のない範囲内で」という趣旨に留意する必要があります。学年ごとに目標や内容が示されているのは、順序性や系統性に配慮されているからです。例えば、理科の「電気の通り道」（3年）と「電気の働き」（4年）、「物の溶けかた」（5年）と「水溶液の性質」（6年）等、学習に順序性や系統性がある内容については、学習の順序が逆にならないようにしなければなりません。

○複式学級における教育課程の編成の特例の趣旨を踏まえ、各教科等の複式学級の年間指導計画を作成します。（第11章、第12章）

- ・学校教育法施行規則第51条の別表第1で示されているとおり、各学年において標準授業時間数が異なっていることに配慮すると同時に、第1学年と第2学年、第3学年と第4学年においては、学年の年間総授業時数が異なってくることに留意して年間指導計画を作成します。（第6章）

○教科の特性や児童の実態に応じて指導形態や指導方法を工夫します。（第5章）

- ・教科や児童の状況に応じ、弾力的に考えます。
- ・間接指導の時間に十分学習効果をあげるために、児童が主体的に学習する力を高めます。

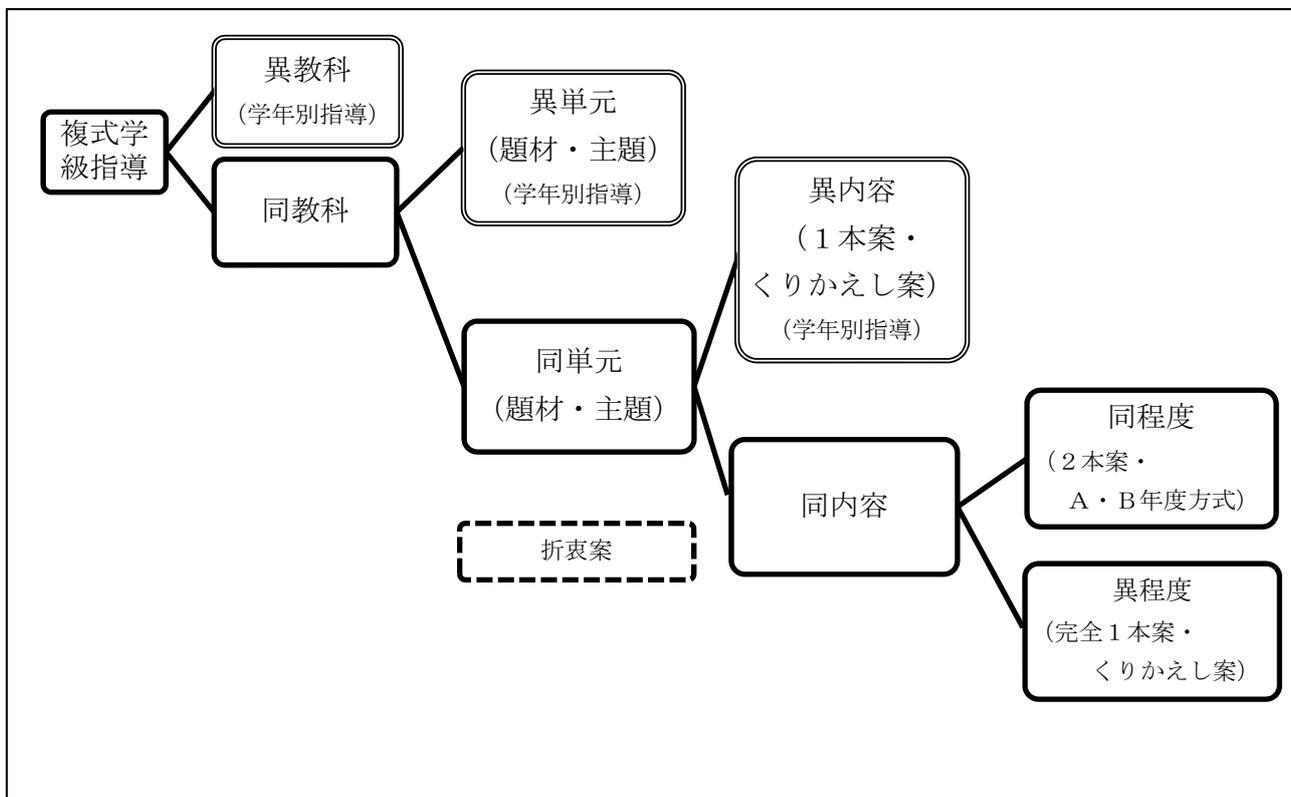
第5章 複式学級の指導計画

1 指導の類型

本手引きでは、複式学級の指導の類型を、「教科」、「単元（題材）」、「内容」、「程度」の4つの観点から、大きく6つに分けて説明します（図3）。単元（題材）、内容、程度、教材等の言葉の使い方については都道府県ごとに、微妙な差異があるように思われます。また、教科によっても異なります。国語や算数等という「単元」と、音楽や図工、家庭科でいう「題材」には微妙な差異があります。さらに、同じ「単元」という言葉の表すものも、国語と算数では異なります。「内容」については、学習指導要領解説に教科等の内容を整理するために示されている「内容」と、本手引きで指導類型の名称として使用する場合の「内容」では、意味が異なります。指導類型の名称にある「内容」については、上学年と下学年が取り組む活動内容という意味での「内容」とし、単式学級と同様に上学年と下学年が全く同じ教材で同じ活動をする場合を「同内容」、上学年と下学年が異なる教材で、または同じ教材でも異なる活動をする場合を「異内容」として整理するものです。「単元」や「題材」、「主題」という言葉がそれぞれその教科で何を指し示すのかについては、第11章の各教科の具体例を参考にしてください。

まず、2つの学年それぞれが「異教科」で学ぶのか「同教科」で学ぶのかに分けられます。「異教科」は学年別指導を示すこととなります。「同教科」指導は、さらに「異単元（題材）」と「同単元（題材）」に分けられ、「同教科異単元（題材）」の場合も「異教科」と同様に学年別指導を指します。また、「同単元（題材）」指導は、さらに「異内容」と「同内容」の2つに分けられます。そして、「同内容」はさらに「同程度」と「異程度」に分けられます。

図3 本手引きの複式学級指導の類型



「同単元（題材）」指導は、2つの学年を上下学年一緒に同じ単元で指導します。

「同単元（題材）」指導は、さらに「異内容」と「同内容」に分けられますが、「異内容」は、可能な

限り共通指導場面を設定し指導する類型で、「1 本案」といわれることがあります。

「同単元（題材）同内容同程度」指導は、形態だけから見ると、単式学級の授業と同じです。2 学年の内容を A 年度と B 年度の 2 年間に平均的に配分し、いずれの年度においても両学年に同時に同じ内容を同じ目標のもとに同程度に指導することから、A・B 年度方式といわれます。また、2 年分の年間指導計画を A 年度案、B 年度案とし、2 案あることから、2 本案といわれることもあります。

「同単元（題材）同内容異程度」指導は、2 学年分の学習指導要領に示された内容を圧縮して 1 年間で学習できるよう単元を構成し、異程度で 2 年間くりかえして指導することから、「くりかえし案」といわれます。また、「完全 1 本案」といわれることもあります。

本県では、「同単元（題材）同内容同程度」のみを A・B 年度方式として整理します。単元（題材）配列上は一見、A 年度と B 年度をくりかえすように見える指導類型でも、異程度により評価規準が異なる場合は、「A・B 年度方式」ではなく「くりかえし案」として整理する必要があります。

また、これらの類型をいくつかを組み合わせる場合もあり、「折衷案」といわれます。

この類型の呼称については、必ずしも全国的に統一されているわけではありません。また、特別の教科 道徳や特別活動（学級活動）のように「単元」という見方のない教科等もあります。あくまで、説明のための類型であって、実際には、それぞれ様々な工夫が加えられ、アレンジされて実践されている点に注意する必要があります。

本手引きで示す類型は、昭和 61 年度改訂版として発行された「複式学級の指導」（島根県教育委員会）をもとに整理しています。

前回発行された昭和 61 年以後、平成元年の改訂で生活科が、平成 10 年の改訂で総合的な学習の時間が、平成 20 年の改訂で外国語活動が、平成 29 年の改訂で外国語科、特別の教科 道徳が新たに教科等として加わっています。特に総合的な学習の時間においては、目標が全学年（第 3 学年～第 6 学年）共通で示されており内容は示されていません。そのため、県内の多くの学校が「同単元同内容同程度」又は「同単元同内容異程度」の指導類型をとっています。場合によっては、「異単元」として上学年と下学年が異なる単元及び内容で学習し、学年別に指導しながらも評価規準を同じにするという「異単元異内容同程度」をとることも可能ですが、一般的でないため、図 3 には記載していません。「同単元異内容同程度」の場合も同様です。

以上の類型に指導の具体例をあてはめると、次の表 6 のようになります。

表6 複式学級の指導類型と具体例

類 型				その他の言い方	例	
					上学年	下学年
異教科				学年別指導	◆国語	◆算数
同教科	異単元 (題材)	異内容	異程度		◆算数	◆算数
					◇「図形」	◇「かけ算」
	同単元 (題材)	同内容	同程度	A・B年度方式 2本案	◆理科	◆理科
				◇「ものの溶け方」	◇「ものの溶け方」	
			異程度	完全1本案 くりかえし案	◆音楽	◆音楽
	◇「楽譜を読もう」	◇「楽譜を読もう」				
	★『一輪の赤い花』 (器楽)	★『一輪の赤い花』 (器楽)				
異内容	異程度	1本案 くりかえし案	☆イ短調の特徴を意識して、音楽の流れを感じ取りながら視奏する。	☆イ短調の視奏に慣れ親しむようにする。		
			◆算数	◆算数		
			◇「わり算」	◇「わり算」		
				★『筆算』	★『2位数÷1位数』	

◆教科 ◇単元(題材) ★内容 ☆程度

なお、本章においては、以後、「単元(題材)」を「単元」として表記します。

2 島根県の類型別の実施状況

本県の学校で作成されている年間指導計画にはどのような類型のものが多いか、島根県教育庁教育指導課が令和元年12月に、県内の複式学級を有する学校を対象に実施した「小学校複式学級における教育課程の調査」の結果によると、その実態は、次のとおりです。

表7 令和元年度の1・2年複式学級の実施状況(複式学級総数26学級)

	国語	算数	社会	理科	生活	音楽	図画工作	体育	家庭	外国語活動	道徳	総合	特活
同教科異単元異内容 (学年別指導)	42%	88%			4%	4%	4%	0%			4%		0%
同教科同単元同内容 (A・B年度方式)	23%	0%			88%	88%	96%	96%			96%		100%
その他	35%	12%			8%	8%	0%	4%			0%		0%

表 8 令和元年度の3・4年複式学級の実施状況（複式学級総数 57 学級）

	国語	算数	社会	理科	生活	音楽	図画工作	体育	家庭	外国語活動	道徳	総合	特活
同教科異単元異内容 （学年別指導）	28%	82%	5%	4%		3%	4%	0%		0%	0%	0%	0%
同教科同単元同内容 （A・B年度方式）	58%	0%	72%	70%		95%	93%	93%		91%	98%	100%	98%
その他	14%	18%	23%	26%		2%	3%	7%		9%	2%	0%	2%

表 9 令和元年度の5・6年複式学級の実施状況（複式学級総数 52 学級）

	国語	算数	社会	理科	生活	音楽	図画工作	体育	家庭	外国語活動	道徳	総合	特活
同教科異単元異内容 （学年別指導）	31%	87%	4%	6%		2%	6%	2%	6%	2%	4%	6%	4%
同教科同単元同内容 （A・B年度方式）	60%	0%	77%	69%		96%	94%	94%	88%	92%	96%	92%	96%
その他	9%	13%	19%	25%		2%	0%	4%	6%	6%	0%	2%	0%

表 7～9にあるように、令和元年度においては、低・中・高学年ともに、ほとんどの学級において、算数は異単元（学年別指導）により行われており、その他の教科等は、同単元同内容同程度（A・B年度方式）が主流です。ただし、低学年の国語においては、入門期であることから第1学年と第2学年がともに学ぶことが難しく、異単元（学年別指導）で指導している学校の割合の方が高くなっています。その他を選択した学校は、合併等により複式学級を解消することを見込む等A・B年度方式ではなく特別な指導計画で指導を行っています。

全体的に、前回調査の平成 25 年より、各学年及び各教科等の多くで学年別指導の割合が増えてきています。

次に示すのは、昭和 53 年 3 月に、県内の複式学級を有する小学校を対象に実施した「複式学級の学習指導に関する調査」の結果です。（表 10）

表 10 昭和 53 年度の実施状況（複式学級総数約 200 学級） 単位（％）

	国語	算数	社会	理科	生活	音楽	図画工作	体育	家庭	外国語活動	道徳	特活
学年別指導	26	87	16	34		15	12	10	23		3	2
同教科異単元異内容 （学年別指導）	14	40	13	9		5	3	1	4		2	2
同教科同単元異内容 （学年別指導）	12	47	3	25		10	9	9	19		1	0
同教科同単元同内容 （A・B年度方式）	64	4	78	61		74	83	79	71		95	98
その他	10	9	6	5		11	5	11	6		2	0

この表からは、今から約 40 年前の昭和 53 年度においても、令和元年度と同様に、算数は学年別による指導が、その他の教科等についてはA・B年度方式が主流であるということがわかります。しかし、その割合は若干異なり、特に国語、理科において、約 30%が、道徳と学級活動（特活）を除くその他の教科等についても 10%～20 数%が学年別指導を行っています。また、学年別指導の中でも、現在行われ

ることの少ない同単元異内容の指導が行われていたこともわかります。これは、文部科学省が昭和 40 年代に発行していた複式学級用教科書の影響を少なからず受けていたことによると考えられます。なお、令和元年度の調査と質問の形式が異なるため、表ではその他の欄にまとめて計上していますが、様々な類型を組み合わせた折衷案による指導も展開されており、国語、音楽、体育では約 10%の学校が折衷案により指導していました。

3 島根県の複式学級指導の変遷と同単元同内容同程度（A・B年度方式）

明治 5 年から始まった小学校教育においては、児童が家から歩いて通える範囲に小学校が設置されたため少人数の学校もあり、しかも、教員の配置も不十分であったため全ての学年を 1 学級として 1 人の教員が指導にあっている学校「単級学校」や、3 個学年以上を 1 学級とする「複々式学級」も多く見られました。単級学校や複々式学級をもつ学校は、戦後になってもまだ多く存在しました。それが現在までに少しずつ形を変え、島根県では現在の小学校における低・中・高の複式学級へと落ち着いてきました。

複式学級における指導法も、戦前は「異教科」「異単元」による学年別の指導方法が主流だったものが、戦後の民主化の流れの中で、学級の成員が一緒に学習することが尊重されたこともあって、まずは同単元異内容による研究が進みました。さらに昭和 40 年代以降、安定的な低・中・高学年学級の編制が継続し、単元だけでなく内容も同じくして同単元同内容が主流となっていきました。文部省（現文部科学省）から出された「複式学級指導資料理科編」（平成 6 年 12 月）には、「同単元異内容」を中心に、「同単元同内容異程度」（くりかえし案）や同単元同内容同程度（A・B年度方式）の折衷案が紹介されており、他の教科でも、同単元学習が全国的に広がっていったことがうかがえます。

第 1 章でもふれたように、島根県内では県独自の加配により、複式学級は 1・2 年、3・4 年、5・6 年の複式により編制され、2・3 年、4・5 年といった変則複式学級が存在しません。このように、比較的安定的な複式学級編制がなされていたことと、平成 19 年度を最後に廃止となった島根大学教育学部附属小学校複式学級において、先進的に同単元同内容同程度（A・B年度方式）を中心とした研究が進められていたこと等から、令和元年度の実施状況の表からもわかるように、算数を除く教科等においてほとんどの学級で同単元同内容同程度（A・B年度方式）により指導されるようになったと考えられます。

島根県では、複式学級を有する多くの小学校において、長期間にわたり、算数以外は同単元同内容同程度（A・B年度方式）による指導が行われてきました。これだけ浸透しているのは、良さがあるからに他なりません。しかし、長年、同方式のもつ特色や指導上の留意点等が十分に検討されることなく採用されてきたことから、発達段階の異なる 2 学年の児童が在籍する複式学級であるにもかかわらず、2 学年を一斉に同じように指導すればよいという安易な意識や、少人数でありながら個別への対応が充分ではないといった、学年差や能力差への配慮が弱まってきているという現状を指摘する声もあります。

近年、複式学級に通う児童をとりまく環境も、学力観も大きく変容しています。上述したように、各学年及び各教科等の多くで学年別指導が増えてきています。今一度、目の前の児童や地域の実態を見つめ、本手引きで紹介する類型の長所や短所、留意点をふまえたうえで、年間指導計画を見直し、児童の成長につながる教育課程を編成することが求められます。

4 指導類型ごとの長所・短所と留意点

(1) 異教科（学年別指導）

① 異教科指導の長所と短所

異教科指導とは、例えば一方の学年が算数を、もう一方の学年が国語を学習するといった、異教科の組合せで行う方式です。

全国的に、変則複式学級のある学校や、単複をくりかえす傾向のある学校、欠学年がある学校、児童の転出入が多い学校において行われることが多い方式です。戦前に多く見られた指導方式でもあります。

長所は、当該学年の目標及び標準授業時数で、当該学年の教科書を用いて指導することができること等です。複式学級の特例として、2年間の合計時数が、2学年の標準授業時数の合計を下回らなければよいことになっています。学校教育法施行規則第51条で定められた授業時数は、次の表のとおりとなっており、第1学年と第2学年で60時間、第3学年と第4学年で35時間の違いがあります。

表 11 小学校の各学年の授業時数

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
総授業時数	850	910	980	1015	1015	1015

低学年複式学級では、第2学年の方が、算数の週当たりの時数が1時間多く、中学年複式学級では、第4学年の方が、社会と理科を合わせた時数が週当たりの時数で1時間多くなっています。多くの複式学級では、下の学年の総授業時数を上の学年の総授業時数に合わせて年間指導計画を作成しているようですが、異教科指導によって、より発達段階を考慮して年間指導計画が作成できるという長所があります。つまり、当該学年の時数を当該学年の総授業時数に合わせて行うことができることから、週1日、下学年は上学年より1時間早く下校することが可能になります。また、別々の教科であることから、児童によっては、同教科を1つの教室で学んでいる時より学習に集中しやすいという長所もあります。

短所としては、「異教科」の占める割合が多くなるほど、学級が分断される時間も多くなり、複式学級の特性である2学年の児童による協働的な学習の場の設定が難しいことです。また、学年別指導により、直接指導と間接指導等の方法が複雑で難しくなること、直接指導の時間が少なくなること、教材の研究時間が2つの教科にまたがるため、2倍かかることにより教師の負担が増加すること等があげられます。

以上のことから、これまでは実施されることが少なかった方法でしたが、近年は発達段階を考慮した指導を重視する観点や、教育効果が上がる方法として見直された「同教科」との併用等の実践も見られています。

② 異教科指導を実施する際の留意点

異教科指導を実施するにあたって留意する必要があるのは、どの教科を組み合わせるかという点です。

組合せを考える時には、特に、学習の場に配慮する必要があります。例えば、国語と体育の組合せでは、学習の場が全く異なり、実質的には不可能に近い組合せとなります。理科、音楽、図工、家庭、体育等、特別教室を使うことの多い教科は、異教科指導には向かない教科といえます。低学年は教室を使って授業することが多いことから、より多くの教科での組合せの検討が可能でしょう。また、高学年では、国語と算数が年間175時間と同時数であるため組合せがしやすくなっています。

以上のような点に配慮し、各小学校における学習環境の実態に即して学習効果を最重要視して時間割を作成します。

(2) 同教科異単元（学年別指導）

① 同教科異単元指導の長所と短所

同教科異単元とは、同じ教科ではあるが、学年で異なる単元、異なる内容で行う方法です。異教科と同様に、教師が一方の学年を指導している間は、もう一方の学年は児童だけで学ぶこととなります。島根県で一般的に学年別指導と呼ばれているのがこの方法で、特に内容の系統性の強い算数においては、本県の複式学級の80～90%がこの方法で行っています。異教科指導と同様に、単複をくりかえす傾向のある学校や、欠学年がある学校、児童の転出入が多い学校では、行われることが多い方法です。近年、国語、算数、理科、社会においては、より内容の系統性を重視し、同教科異単元（学年別指導）をとる小学校が少しずつ増えてきています。

長所としては、教科の系統性を踏まえた指導がしやすい、転出入児童へ学年を超えた内容についての未履修対応の必要がなくなる、より学年の発達段階に応じた指導ができる、低学年では特に同単元指導よりも指導がしやすいといった点があげられます。加えて、同単元同内容指導の場合ほどは多くありませんが、異教科指導と比較して、両学年の協働的な学習の場が設定しやすいこともよさとしてあげられるでしょう。また、第7章でもふれますが、必然的に生まれる間接指導の時間は、児童の学びの主体性を育む可能性のある指導類型だといえます。

短所としては、異教科指導と同様に、学年別による指導となるため、直接指導と間接指導等の方法が複雑で難しい、直接指導の時間が少なくなる、一緒に学習する人数が少なくなる、教材の研究時間が2倍かかることにより教師の負担が増加するといった点があげられます。

② 同教科異単元指導を実施する際の留意点

同教科異単元を実施するにあたって、教師は、間接指導についての考え方を整理しておかなければなりません。間接指導の時間を、教師がもう一方の学年を直接指導している間の待ち時間としてとらえるのか、児童の主体的に学習に取り組む態度を育む絶好の機会ととらえるのかで、教育効果は大きく異なります。学年別指導における直接指導、間接指導、わたり、ずらしといった方法で指導をする際の留意点については、第7章で詳しく説明します。

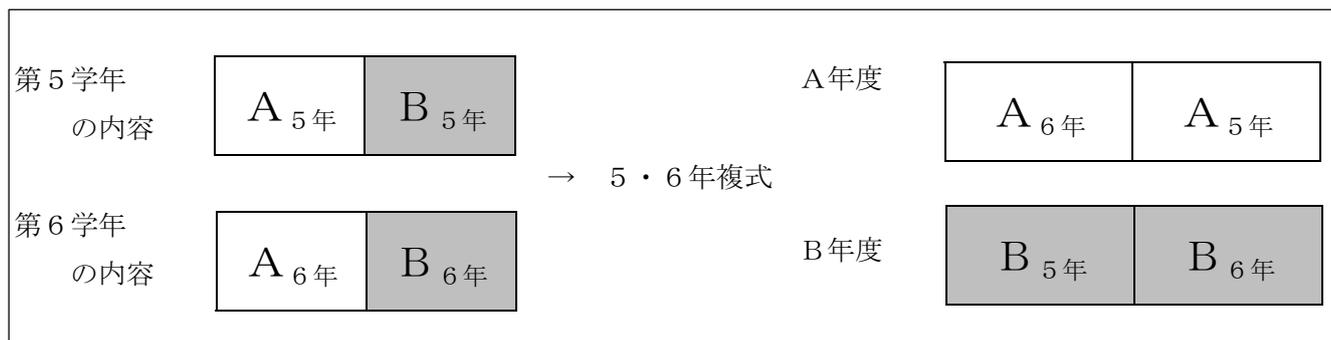
(3) 同教科同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）

① 同教科同単元同内容同程度指導の長所と短所

同教科同単元同内容同程度指導は、2学年の内容をA年度とB年度の2年間に配分し、いずれの年度においても両学年に同時に同じ内容を同じ目標のもとに同程度に指導することから、A・B年度方式といわれます。また、2年分の年間指導計画をA年度案、B年度案とし、2案あることから、2本案といわれることもあります。

模式的に図で表すと、図4のようになります。

図4 同教科同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）説明図



この案によって学習すると、単式学級であれば第6学年で学習する内容を複式学級においては第5学年で学習したり、逆に単式学級であれば第5学年で学習する内容を複式学級においては第6学年で学習したりすることがあります。第4章でふれたとおり、複式学級の特例により、複式学級においては学習指導要領に示されている順序によらない教育課程を編成することが可能であることから、このような年間指導計画が作成可能となります。

長所は、児童の側から考えると、複式学級であっても学習内容の上からは単式学級と同じような協働的な学習となることによって、より多く的人数で学べ、多様な見方や考え方が出される可能性が大きくなること、教師の側から考えると、個に応じた指導をする時間を生み出しやすいこと、学習の準備等が単式学級と同じになり負担が少ないことがあげられます。

短所は、系統的な内容の指導、特に技術的な面の指導が難しいこと、下学年の児童に対して上学年の児童との能力差や経験差が埋められないままに授業が展開された場合に、目標の達成が難しいことがあげられます。

ここで、各教科等の「学年の内容」について整理しておく必要があります。その学年で学習すべき内容は、学習指導要領に示されていますが、平成29年改訂の学習指導要領において目標と内容が学年ごとに示されているのは、算数、理科、社会のみとなっています。表12に、学習指導要領に示された目標と内容を整理しました。目標や内容が2学年共通で示されるようになったのは、道徳を除いて、平成元年改訂の学習指導要領からです。

昭和52年改訂の学習指導要領までは、国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、家庭、体育の8教科全てが、目標、内容ともに学年別に設定されていました。しかし、平成元年改訂、平成10年改訂と改訂を重ねるごとに目標と内容が2学年共通で示される教科等が増え、現行の算数、理科、社会のみとなりました。

表 12 各教科等の小学校学習指導要領における目標と内容の示され方

	昭和 52 年改訂	平成元年改訂	平成 10 年改訂	平成 20 年改訂	平成 29 年改訂
目標と内容が学年別に示されている教科等	国語、社会 算数、理科 音楽、図画工作 家庭、体育	国語、社会 算数、理科	算数 理科 社会（5・6年）	算数 理科 社会（5・6年）	算数 理科 社会
目標は2学年共通で、内容は学年別に示されている教科等		生活、音楽 図画工作、家庭 (体育5・6年保健)	(音楽の共通教材) (国語の漢字) (体育5・6年保健)	(音楽の共通教材) (国語の漢字・ローマ字) (体育3・4年、5・6年保健)	(音楽の共通教材) (国語の漢字・ローマ字) (体育3・4年、5・6年保健)
目標と内容が2学年共通で示されている教科等		体育	国語、生活、音楽 図画工作、家庭 体育 社会（3・4年）	国語、生活、音楽 図画工作、家庭 体育 社会（3・4年）	国語、生活、音楽 図画工作、家庭 体育、外国語 外国語活動
目標は全学年共通で、内容が2学年共通で示されている教科等		道徳	道徳	道徳 外国語活動 特別活動（学級活動）	道徳
目標と内容が全学年共通で示されている教科等	道徳 特別活動（学級活動）	特別活動（学級活動）	特別活動（学級活動）		特別活動（学級活動）
目標が全学年共通で示され、内容が示されていない教科等				総合的な学習の時間	総合的な学習の時間
その他			(総合的な学習の時間)については、総則でねらいは示されたが、目標及び内容は学校で定めることとされていた。		

②同教科同単元同内容同程度指導を実施する際の留意点

まず、複式学級における同教科同単元同内容同程度指導（A・B年度方式、2本案）を単式学級と同様であると考えのではなく、児童の実態を十分に踏まえたうえで指導する必要があります。

近年、特別支援教育の観点から、児童一人一人の実態に応じた指導が重視されており、単式学級における一斉指導の際も、個に応じた支援が行われています。そういう意味では、単式学級における指導は、同単元同内容同程度ではありますが、実際には異程度の指導が展開されているといえます。同様に、複式学級における同教科同単元同内容同程度指導においても、同じ目標のもとに同程度で指導を展開していても、学級の児童数が少ないことを生かして、一層個に応じた支援がなされています。その際、単式学級で指導する時以上に、一人一人の実態把握が可能であることも意識して、指導することが大切です。

次に、単元の配列にあたっては、以下の点に留意します。

- 学習の難易度を考え、順序性も配慮して、A・B両年度に等しく分けて配列します。
- 学習の内容（領域・分野等）をA・B両年度に等しく分けて配列します。ただし、例えば社会科の我が国の歴史についての学習のようにA・B年度に分けて配列するよりもいずれかの年次に配列して時代の流れに沿って学習した方が良いと判断される場合もあることから、必ずしも二等分にこだわらないことも大切です。

○単元の目標や学習内容の系統を質と量の面から研究して配分を考えます。指導計画を作成する際は、教科書が重要な参考資料となるわけですが、その場合、単元名だけを見てA・B年次に配分してバランスがとれていると判断してはいけません。単元のねらいや学習内容等、学習の質や量、順序性等について十分に検討して作成することが大切です。

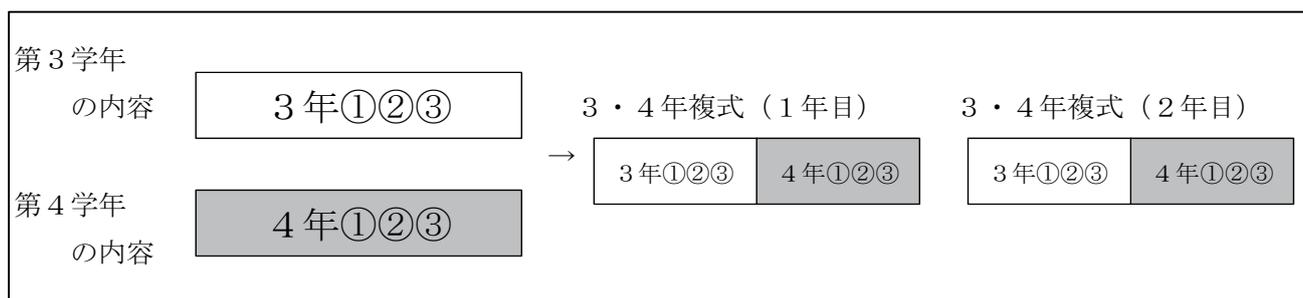
(4) 同教科同単元同内容異程度（完全1本案、くりかえし案）

①同教科同単元同内容異程度指導の長所と短所

同教科同単元同内容異程度とは、2学年分の内容を1年間に圧縮して単元を構成し、2年間くりかえして指導することから、くりかえし案といわれます。また、完全1本案といわれることがあります。例えば、表6で示したように、音楽の学習で同じ題材で同じ内容（曲）を扱いながらも、一方はイ短調の特徴を意識して、音楽の流れを感じ取りながら視奏する、一方はイ短調の視奏に慣れ親しむようにする、と程度を変えて学習をするといった類型になります。

模式的に表すと、次の図5のようになります。

図5 同教科同単元同内容異程度（完全1本案、くりかえし案）説明図



この案によって学習する長所は、両学年の単元や内容を同じくし、同じ雰囲気でも学習しながらも、学年差に応じた指導が可能になる、上学年の児童が1年目に目標に到達できていない場合には、実態に応じて2年目に下学年の児童とともにもう一度学習することができる、学級編制の変動に対処することができる、教材研究を系統的発展的に行うことができるといった点があげられます。

短所としては、教科によって差はありますが、圧縮により時間的な余裕がなくなる場合があること、下学年児童や人数が多い学年への指導時間が多くなること等があげられます。圧縮にあたっては、例えば1年目は工場Aの見学、2年目は工場Bの見学をする等、全く同じ活動の繰り返しをさけるよう工夫します。

②同教科同単元同内容異程度指導を実施する際の留意点

同教科同単元同内容異程度指導を実施する際には、両学年の間接指導の時間配分に特に留意します。また、上学年で配慮が必要な児童に目が向きにくくなるので、意識的にはたらきかけるようにします。年間指導計画の作成にあたっては、学習指導要領解説に示されている系統や内容に留意して作成します。特に音楽では、共通教材の扱いや、いずれの学年でも取り扱う内容に留意します。その他にも、目標の設定にあたっては、2学年の共通目標と学年別の目標をそれぞれ明確にする必要があります。

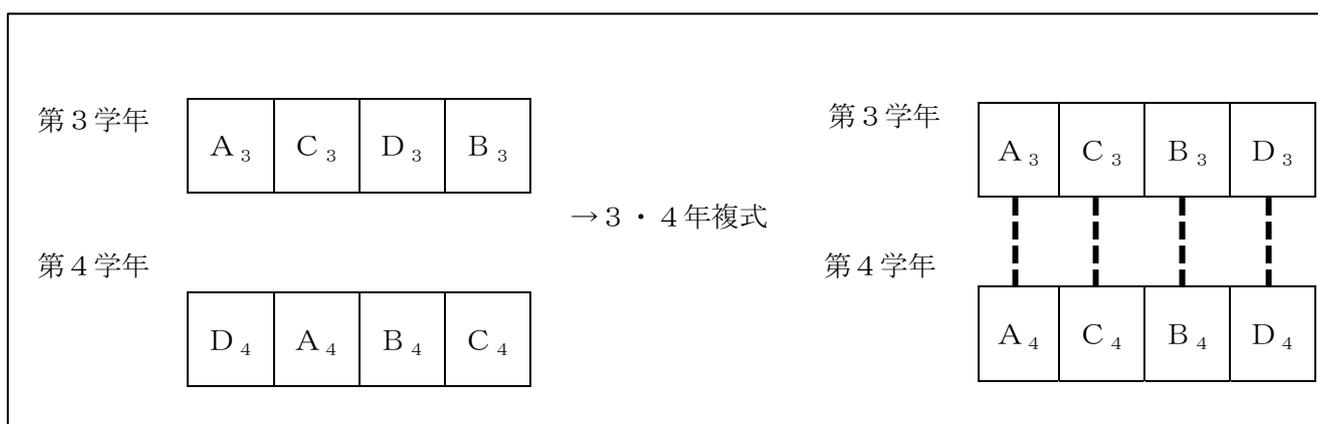
(5) 同教科同単元異内容（1本案、くりかえし案）

①同教科同単元異内容指導の長所と短所

同教科同単元異内容の指導は、同教科同単元同内容異程度と同様に、同じ単元を2年間くりかえす指導の類型となります。異なるのは、単元は同じであっても、上下両学年の学習目標を達成することができるよう学習の内容や程度をかえて、可能な限り共通指導場面を設定し指導する方法です。例えば、理科において「電気」という同じ単元について、第3学年は豆電球に明かりをつける内容を、第4学年は直列つなぎ、並列つなぎについての内容を学習するといった方法です。実質的には、異内容異程度の学年別指導を2年間くりかえします。

模式的に図で表すと、次の図6のようになります。

図6 同教科同単元異内容（1本案、くりかえし案）説明図



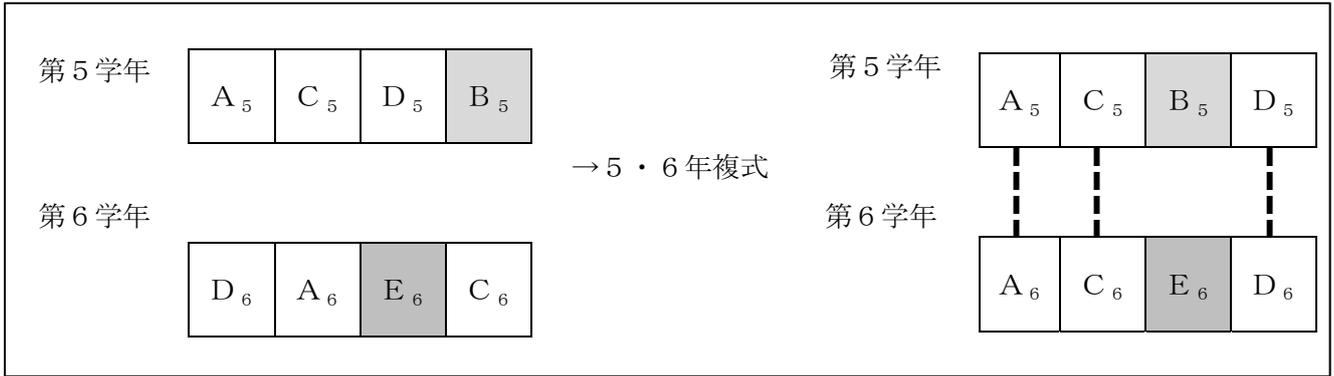
長所としては、同教科同単元同内容異程度（完全1本案、くりかえし案）と同様に、両学年の単元や内容を同じくし、同じ雰囲気でも学習しながらも、学年差に応じた指導が可能になる、学級編制の変動に対処することができる、教材研究を系統的、発展的に行うことができるといった長所に加え、同教科異単元指導の場合と比較して当該学年においてそれぞれの学年の内容を学習しながらも、両学年共通の話し合い場面が多くなり、学級としての一体感が生まれやすいといった良さがあります。

短所としては、異教科指導や同教科異単元の学年別による指導と同様に、直接指導と間接指導等の方法が複雑で難しい、直接指導の時間が減ることや、教材の研究に時間を要し、教師の負担が増加するといった点があげられます。また、完全な学年別の指導になりやすい、単位時間の指導で共通指導場面を設定するために教材研究が必要で教師の負担が増えるといった短所もあります。

②同教科同単元異内容指導を実施する際の留意点

同教科同単元異内容の指導に当たっては、学年別指導における直接指導、間接指導に関わる留意点（第7章参照）に加え、年間指導計画の作成にあたっては、学習指導要領解説に示されている系統性や内容に留意し無理なく入れ替えをします。教科内の系統性だけでなく、第4学年の理科「気温の変わり方」の単元と算数「折れ線グラフ」の単元等、他教科等との関連のあるものもあるので気を付けます。また、特に、組合せのない単元がある場合は、次の図7のように一部が異単元の指導となります。

図7 同教科同単元異内容（1本案、くりかえし案）年間指導計画作成説明図



(6) 折衷案

折衷案とは、1本案を主体に、一部2本案を取り入れた指導計画、また、2本案を主体に、一部1本案を取り入れた指導計画等を指します。つまり、新たな類型というわけではなく、それぞれの長所を生かしながら短所を補った指導計画で様々な案が成立します。そういう意味で、同教科異単元指導で学年別に指導していたところに一部同単元指導を取り入れた場合も折衷案といわれることがあります。

折衷案作成にあたっては、一般的に複雑な年間指導計画となるので、作成の意図（ねらい）が明確になるよう配慮し、学校内で教師間の共通理解を図ることも大切になります。また、指導内容に未履修等のないよう留意します。

5 合同学習

複式学級や欠学年があり少人数の学級で学習しなければならないという実態がある場合に、多人数での学びによってもっと学習意欲を高めたい、経験領域を広げたい、社会性を伸ばしたいという意図で、学級や学年の枠をはずした学習集団を編成して学習する形態を合同学習といいます。例えば、低学年と中学年が一緒に学習したり、下学年（1・2・3年）と上学年（4・5・6年）に分かれたりして学習する形態があります。集団の規模を大きくすることによって、集団で思考する力を伸ばしたり、多人数での活動を楽しんだり、協力して活動するよさを感じたりすることができるようになります。少人数であるために、学習活動を十分行うことができない活動の例としては、

- ・多様な考えを交流させ、新たな見方や考え方を構築する学習活動
- ・体育でチームプレーを必要とする活動
- ・音楽の合奏や合唱 等

があげられます。

合同学習の実施にあたっては、以下の点に配慮します。

○合同学習のねらいを明確にする。

○学習効果を高めるために各学級担任の協働体制を築く。

合同学習においては、複数の教師による指導体制がとられますが、指導の立案、実施にあたっては、主担当を中心に、その他の教師による協働によって進めます。

○各教科等に留まらず、学校経営全体の計画へ位置付ける。

合同学習は、「写生会」「音楽会」「運動会」等の学校行事に関連して、教科の学習が全校一緒に行われる場合がありますが、各学校において十分検討し、年度当初に綿密な指導計画を立てて実施することによって、効果があがります。

○学年差や個人差等を考慮し、一人一人の児童に細かく配慮する。

学年により能力差の異なる児童が共通の学習課題に取り組み、充実感、満足感をもって学習の喜びを味わえるようにするため、教師は一人一人の実態を的確にとらえ、それをふまえた指導計画を立て、適切な指導法を用いる必要があります。

○下学年の児童の自主性・主体性が伸ばせるよう配慮する。

上学年と下学年の組合せで行う合同学習では、下学年の児童は上学年の児童に頼りきってしまう姿がよくみられます。そのため、下学年の児童の自主性・主体性を培うためには、十分な配慮をすることが大切です。

○時間割の編成を工夫する。

合同学習は、音楽、図工、体育、特別活動（単式学級であっても小規模の場合は生活の学習も）等幅広く行われていますが、時間割も合同学習を行いやすいよう配慮しておきます。

例えば、中学年と高学年の合同で音楽を行うことが予想される場合、中学年の音楽を3時間目に、高学年の音楽を4時間目に配当しておき、中学年の4時間目は担任の担当教科を、高学年の3時間目は高学年の担任教科を位置付けておくことで、自由に動かすことができるようになります。（図8）

図8 合同学習を想定した時間割作成例

	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時
中学年	国語 (担)	社会 (担)	音楽 (担)	算数 (担)	図工 (専)	図工 (専)
高学年	体育 (担)	算数 (担)	国語 (担)	音楽 (担)	理科 (専)	理科 (専)

↓

	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時
中学年	国語 (担)	社会 (担)	音楽 (合同学習)		図工 (専)	図工 (専)
高学年	体育 (担)	算数 (担)			理科 (専)	理科 (専)

※ (担)・・・担任の授業 (専)・・・専科教員の授業
 ※専科教員の授業時数確保に影響しない。
 ※音楽室の確保ができる。

6 集合学習

合同学習の実施によって集団の規模を大きくし学習を進めれば効果はありますが、身体差、能力差の問題を解消するためには困難な面もあるようです。そこで、同一学年の集団規模を大きくし、高め合うために考えられたのが、隣接校との集合学習です。明治以来、本県においても近隣校同士で工夫して行われてきている例が多数見られます。2校以上の児童が集合し学習するため配慮することも多くありますが、児童にとっては新鮮な活動経験にもなるとともに、能力を発揮するよい機会となりますし、複数校の集合であるため教員の専門性をより生かすこともできます。総合的な学習の時間で毎年一緒に活動する等、実施校同士の連携により集合学習が定着しているところもあります。

主な活動には、学校行事や、各教科等の学習があげられます。

集合学習のできる望ましい学校間の条件には、

- (1) 両校が近距離にあり、移動のための交通機関が確保できること。
- (2) 学校の立地条件（海辺の学校、山の学校等）が似かよっていること。
- (3) 児童の生活環境、生活経験がおおよそ共通していること。
- (4) 両校の児童保護者に理解があること。

があげられます。(1)の移動のための交通機関が確保できることが、集合学習を可能にするうえで特に大切な条件となります。

集合学習の実施にあたっては、以下の点に留意します。

- 集合学習のねらいを明確にする。
- 年間指導計画に位置付け、計画的に取り組む。
- 協力的な指導組織づくりをする。

指導の効果が高められるよう各校の教師の指導組織づくりをし、指導案にも位置付けます。

○事前・事後の指導を充実させる。

集合学習のねらい等を児童に伝え、事前指導を十分に行い、進んで学習できるようにします。

また、事後には振り返りを行い、以後の学習に自信と意欲をもたせるようにします。

○活動の記録をとり、児童の姿をもとにした振り返りを教師間で共有し、次の活動に生かす。

7 交流学習

全く異なった環境の中で学習や生活を体験させることにより、児童の生活経験を広げ、豊かな人間性を育てたいという意図により生まれた学習形態です。ICTや先端技術を活用し、遠隔での授業により一緒に学習することも可能になってきました。へき地の学校と都市の学校、山間地の学校と海辺の学校が交流し、互いの学級で学習したり生活したりします。本県でも、県内同士、または県境を越えて、交流学習を行ってきた実績があります。日数は、一日の場合や数日間ということもあります。他校と交流することによって、多様な情報による視野の拡大や、社会性がより豊かになる等、互いの学校の学習の質を高めるうえでも効果があります。

交流学習を実施するにあたっては、以下の点に留意します。

○交流学習のねらいを明確にする。

○学校間で協議したうえで、年間指導計画に位置付け、計画的に取り組む。

○交流する学校のある地域や学校の実態について、事前の打ち合わせで、教師が十分に把握しておく。

○協力的な指導組織づくりをする。

○事前・事後指導を行い、交流学習をより効果的に実施する。

交流する学校のある地域や、学校の実態、実施のねらい等を児童に事前に伝え、さらに保護者や地域の理解、協力も得て交流学習を行うことで、児童がより主体的に取り組むことができるようにします。交流学習の後も、手紙や電子メールによって各校での学習の成果等を継続して交流することで、それぞれの学校での学びの深まりが期待できます。

第6章 授業時数の取扱い

1 各教科等の年間授業時数と総授業時数

各教科等の標準授業時数は、年間35週（小学校第1学年については34週）以上にわたって行うことを原則としています。これは、学校教育法施行規則において定められており、小学校の各教科等の標準授業時数は、次の表13のとおりです。この授業時数は、1単位時間を小学校45分としたものとなっています。低・中・高学年複式学級別に見ると、次の表14のような違いがあります。

表13 小学校の各教科等の標準時数

区分	各教科										特別の教科 道徳	外国語活動	学習の時間 総合的な	特別活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語					
第1学年	306		136		102	68	68		102		34			34	850
第2学年	315		175		105	70	70		105		35			35	910
第3学年	245	70	175	90		60	60		105		35	35	70	35	980
第4学年	245	90	175	105		60	60		105		35	35	70	35	1015
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35		70	35	1015
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	70	35		70	35	1015

表14 低・中・高学年複式学級における上学年と下学年の週当たりの授業時数の違い

	学年	総時数	週時数	週当たりの 時数	週当たりの 時数の違い	違いのある教科と時数
低学年 複式学級	第1学年	850	34	25	1	第1学年が年間34週計算であることから生じる違い25時間以外では、算数が35時間、第2学年の方が多い。
	第2学年	910	35	26		
中学年 複式学級	第3学年	980	35	28	1	社会が20時間、理科が15時間、第4学年の方が多い。
	第4学年	1015	35	29		
高学年 複式学級	第5学年	1015	35	29	0	社会が5時間、第6学年の方が多く、家庭が5時間、第5学年の方が多い。
	第6学年	1015	35	29		

複式学級では、2学年で学級を編制することから、標準授業時数を踏まえつつ、学校や地域の実態を十分考慮し、授業時数を定めることとなります。

同単元同内容同程度（A・B年度方式・2本案）で年間計画を作成した場合、当該学年の標準時数を下回ったり、上回ったりすることがあります。2か年を通して2学年分の標準時数を確保することが重

要です。このことは、複式学級の場合の教育課程編成の特例として、2以上の学年の児童で編制する学級については、特に必要がある場合には、各教科等の目標の達成に支障のない範囲内で、学年別の順序によらないことが認められていることによります。例えば、小学校理科の第3・4学年の場合、第3学年は90時間、第4学年は105時間となっています。同単元同内容同程度（A・B年度方式・2本案）で教育課程を編成した場合、第3学年でA年度を実施し、年間95時間行った場合は、2か年を通算して2学年分の195時間を確保しなければならないので、次年度の第4学年では100時間実施する必要があります。この場合、第3学年では5時間当該学年の標準時数を上回り、第4学年では5時間当該学年の標準時数を下回っていますが、2か年で195時間となっているので必要な時数が確保されたこととなります。

当該学年の標準授業時数を上回る授業時数で教育課程を編成する場合、大幅に時間を増やして、児童の負担過重にならないよう配慮する必要があります。

2 1日の生活時程や時間割作成における工夫

<生活時程>

- 児童数の減少による統合等により、複式学級を有する小学校でも、遠方からバスで通学する児童が多くなっています。朝夕の通学バスの運行時刻は児童の生活時程に大きく影響します。児童の家庭生活・学校生活に無理がないよう生活時程に配慮する必要があります。
- 清掃の時間の設定においては、清掃活動の教育的価値、ねらいを明らかにし、清掃区域と児童数や労力の関係を考慮し、役割分担や時間設定を工夫します。

<時間割>

- 山間地の学校では、冬期に積雪が多いため、1年間を前期と後期に分けて生活時程や週の授業時間の配当を変える等の工夫も見られます。
- 学年別の年間指導計画を作成する場合、下学年児童の下校後に上学年の指導をする時間が生じますが、地理的条件、兄弟姉妹関係や近隣関係等から一緒に下校させた方がよい場合もあるので、各学校の実態に応じて適切な工夫を行うことが大切です。

第7章 学年別指導における学習指導方法

複式学級で同時に両学年に指導を行おうとすると、どうしても学年別に交互に指導することになります。この方法を「わたり」といっています。その際、一方の学年に指導している間、もう一方の学年は自学自習の学習方法をとっています。前者を直接指導、後者を間接指導といっています。

間接指導は、学年別指導をした場合に、直接教師が言葉かけをしていない状況をいいます。間接指導といわれるのは、児童の自学自習の時間にも教師の指導が及んでいるからです。直接に言葉かけはしてなくても、その自学自習の進行について他の学年の指導にあたりながら、常に気を配る必要がありますし、自学自習の前に直接指導等によって、児童が学習の見通しをもてるようにしなければなりません。

このように、直接指導、間接指導は、学年別指導における学習指導の方法を表す複式指導の専門用語となっていますが、「直接」「間接」にもそれぞれ様々な形態がありますし、その中間にあたる方法等、多様な方法があるのが実態です。また、授業時間内だけでなく、時間外にも、児童との直接的な打ち合わせや、掲示、プリントによる間接的な連絡等の工夫が行われます。

1 直接指導

複式学級の学習指導では、直接指導の場面だけを「指導」と考えてしまいがちであることから、次のような状況を招くことがあります。間接指導の有用性を踏まえた直接指導の在り方について考える必要があります。

- (1) 直接指導の時間の指導内容が量的に多くなりがちになったり、指導の進度が速くなりがちになったりする。
- (2) 児童の思考の流れを無視した教師の一方的な教授が多くなり、結論だけが強調されがちになる。
- (3) 教具や資料等を用いた指導が行われず、教師の言葉だけの指導が多くなりがちになる。
- (4) 内容が精選されていない発問が多くなり、何を考え、何を答えるべきかがわからず、児童が反応できない状況が生まれやすく、理解も不十分になりがちになる。
- (5) 指導が一斉指導の形態に固定され、個に応じた指導がなされにくくなる。
- (6) 学習指導が一方の学年のみに行われがちになる。

2 間接指導

間接指導の時間は指導が「空白」になる時間と捉えられてしまうことがあります。そのため、複式学級は単式学級の半分の学習効果しかあがらないのではないかという心配が生まれてくるわけです。実際の指導でも、間接指導の時間は直接指導とつながらないドリルや作業に終始してしまう事例もあるようです。

複式学級の学習指導の効果を高めるためには、児童がこの間接指導の時間に積極的に学習できるようにすることが大切です。そのためには、教師自身がこの間接指導の時間の意義を認めることが必要です。つまり、間接指導の場は、児童の自発的な学習態度を育てるための絶好の指導の場であるという指導観に立って、毎時間の指導過程を考えることが大切です。なお、間接指導の時間に限らず、直接指導や単式学級の指導においても、一人でじっくり考える、数人で話し合う、討論する、繰り返し練習する等、様々な「間接指導」を取り入れる必要があります、間接指導の有用性について改めて考える必要があります。

間接指導の時間に、児童が自発的・自主的に学習するためには、少なくとも次の4点について留意することが必要です。

(1) 学習の目標や流れをはっきりつかませるようにすること

教師は間接指導の時間にも、その学習進行についてたえず注意をはらっているとはいえ、個々の児童の表情や理解の程度等まではなかなか把握しにくい場合も生じます。一方で、個や学年別グループ等の自発的・自主的な学習活動が単式学級以上に、より効果的に行われる必要があります。そのため、学習の目標や学習の流れについて児童がきちんと理解することができるようにすること、また、学校全体で、または、複式学級を担当する教師間で、1時間の授業構成や展開をよく協議しておくことが大切です。そのことが、児童にとっても見通しをもった安心できる学習展開につながります。

(2) 間接指導の時間における学習のきまりについて、児童とよく話し合っておくこと

複式学級において、教師が一方の学年やグループの指導にあたっている時は、もう一方の学年やグループの児童は原則として教師に話しかけないというような簡単なきまりや、声の大きさを各自がその場の状況によって調節することによって、上下両学年の声が錯そうすることで生じる混乱や停滞を克服することが可能となります。また、個人学習からペア学習へ、さらにグループの学習へとといった学習形態に関わるきまりがあると、話し合い方に見通しをもって学習することができます。

複式の学習効果を高めるためには、こうした学習のためのきまりづくりを大切にする必要があります。もちろん、学習規律づくりだけに力が入りすぎて、子どもらしい自由な活動を極度に制限することのないよう注意することも大切です。

また、間接指導の時間に学習する内容は、その時間の直接指導の内容と関連のあるものの方が好ましいといえます。よく、他教科のプリント等、その時間の直接指導の内容と全然関連のないものが取り上げられることがあります。このような方法をとる場合、複式学級の指導の良さが生かされないということになって、学習の効果は期待できません。

(3) 間接指導における学習指導の効果をあげるために、課題提示の仕方を工夫すること

間接指導の時間における学習の効果をあげることは、そのまま複式学級の学習指導の効果をあげることに直結します。そのためには課題提示の仕方を工夫し、間接指導における児童の取組の充実を図る必

要があります。間接指導の課題提示にあたっては、少なくとも次の事項に留意することが大切です。

①間接指導の課題は、児童にとって解決の見通しのあるものを提示すること

間接指導の時間に学習する内容が、本時の学習目標に直結し、直接指導に深い関連をもっているとしても、個々の児童にとって、あまりにも難しい内容である場合は、学習は成り立ちません。特に、教師が一方の直接指導にあたっているため、児童の取組の様子がつかみにくく、また、個々の状況に応じたきめ細かい指導もできにくいので、この点に留意することが大切です。

②間接指導の課題は、質、量ともに児童の実態に応じて設定すること

間接指導の時間は、ガイド学習によって協働的に学習を進める場合もありますが、児童が自分の力に応じ、自分のペースで学習することを基本にした時間でもあります。したがって、課題の質、量ともに児童の実態に応じることができるように配慮することが大切です。

③課題は児童によくわかるように提示すること

間接指導の時間は教師の直接の言葉かけなしに学習をすることになります。そのため、課題そのものが、質的にも、量的にもほどよいものであっても、児童は時間の進行とともに本来の課題を見失ってしまう場合があります。そこで、板書やプリント等を利用して、「話し言葉」ではっきりと、詳しく課題の内容を伝えるようにすると有効です。

④間接指導の課題は、児童が課題解決の喜びを味わうことができるように配慮すること

間接指導の時間は、ガイド学習によって協働的に学習を進める場合もありますが、児童が自分の力に応じ、自分のペースで学習することを基本にした時間でもあります。したがって、自ら学び、自ら課題解決を目指すことができるように配慮することが大切です。

⑤間接指導の時間における学習は、自己評価あるいは、グループの評価ができるようにしておくこと

間接指導の時間における学習が、目標に向かって進行しているかどうかを自分で評価したり、グループ内で評価したりできるようにしておくことが大切です。

また、ドリル学習をするような場合には、学習の方法とともに、答えの正誤がすぐその場で評価できるようにしておくことも大切です。直接指導の時間に移ってからの答え合わせより、解答を自分でチェックしながら、自己評価する方法が積極的に自学自習に取り組もうとする態度を育むうえでも効果的です。

間接指導の時間が、一定の思考操作が終わったら次の直接指導まで待たなければ学習が進まないということにならないように、間接指導の時間にあらためて問題を発見しグループで検討したり、自分の活動やドリル学習が終われば、類似の問題や発展的な問題ができたりするような配慮も必要となります。このような学習形態での間接指導であれば、必ずしも教師がいなくても、個人やグループで目標に向かった学習の進行が可能となります。

(4) 直接指導の時間に学習の進め方のモデルを教師が姿で示す

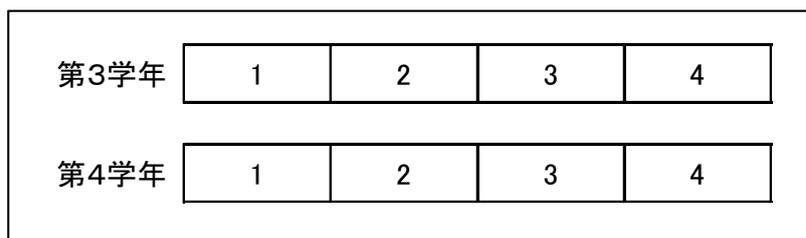
間接指導において、児童が自分たちで学習を進めるにあたっての一番のモデルは、直接指導時の教師の姿です。間接指導時の児童の学びを意識して、話し方、意見の広げ方、板書の仕方を示しましょう。

(2) ずらし

わたりの指導形態においては、直接指導と間接指導の時間があります。そのためには、学習過程を組むとき、両学年あるいは各グループが同時に直接指導の時間にならないよう、どちらか一方を「ずらし」、交互にわたりができるようにするわけです。学習過程の場면을「ずらす」ためには、各場面の学習内容や学習時間に無理のないようにすることが大切です。このように、学習の場면을ずらすことを「ずらし」とよんでいます。

各学年の1単位時間の中での学習過程の場면을、1 課題把握→2 追究Ⅰ→3 追究Ⅱ→4 考察の4場面として考えたとします。単式学級で授業をするならば、図10のように1から4の場面がそれぞれの教室で同時に展開されます。

図10 単式学級の学習過程の場面例



しかし、複式学級において、課題把握の場면을教師が直接指導したいと考えた場合、図11に示すように、一方の学年が課題把握を行っている間、もう一方の学年は場면을ずらして、別の場面の内容に取り組みます。これが「ずらし」です。ずらすことにより、どちらの学年の課題把握も教師による直接指導が可能となります。

図11 複式学級の「ずらし」の学習過程の場面例

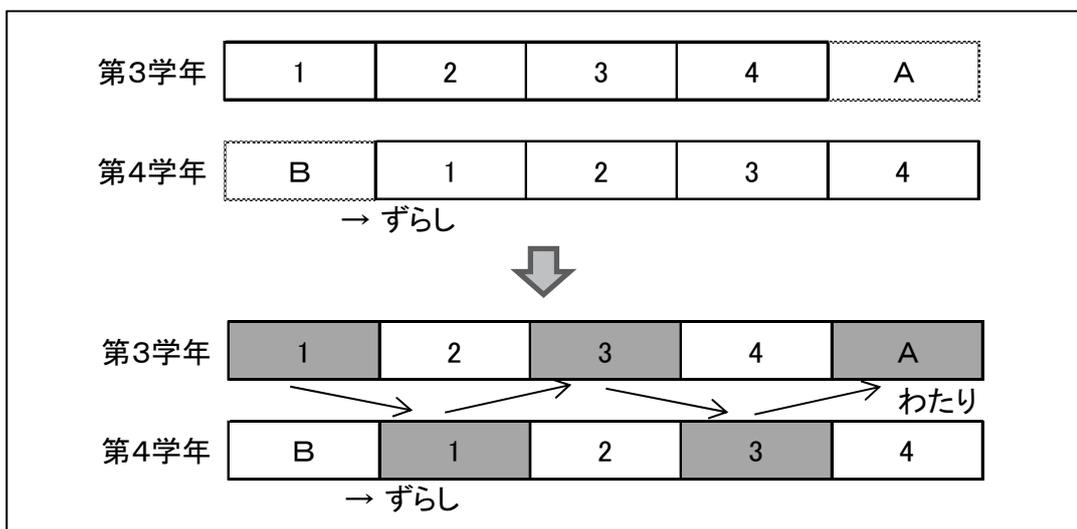


図11では第4学年をずらしていますが、学習の進展過程や内容によって、どちらをずらしてもかまいません。いずれにしても、ずらしたことによって、時間的にAとBのような間接指導の時間が生じます。そこで、たとえば、Aの時間は発展的な問題を設定したり、次時の導入として課題把握の時間にしたりするといった工夫が考えられます。一方、Bでは前時までの学習を振り返る時間や、前時の学習内容の発展課題に取り組む時間にするといった工夫が考えられます。この図はあくまで基本型であり、弾力的に考える必要があります。

これらの「わたり」「ずらし」といった複式学級の学習指導特有の用語があることから、複式学級指導は特別な指導であるといった印象をもつかもかもしれません。複式学級指導に取り組んだばかりの時期には、「今日は計画通りうまくわたれた」といった教師自身の動きのみを取り上げ授業を評価しがちになります。授業を振り返る際に大切なのは、「その時間の目標を児童が達成するための教師の支援としてわたるタイミングは有効であったか」、「ずらしは効果的であったか」ということであることを忘れてはいけません。よい授業は、「教師がうまくわたれた授業」ではなく、「児童が目標を達成できた授業」です。

4 ガイド学習

ガイド学習は、間接指導をより充実させるために考え出された学習の形態の1つで、学習集団の中から「ガイド」役の児童を決め、そのガイドが教師との話し合い等により立てた学習進行計画にそって授業を進める方式です。学年別指導の中で、以前から様々に工夫され、取り入れられてきました。

ガイドを中心に児童が協力して学習することで、間接指導の質を高めることをねらいとしています。ガイド学習は、間接指導を効果的に進めるだけでなく、児童の集団意識を高め、社会性を育てることや、教師の指導による受け身の学習ではなく、主体的、能動的に学習する態度を養うことを目指します。学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」というキーワードに代表されるように、単式、複式といった学級編制の形態に関わらず、主体的、能動的な学びの充実が求められています。1時間中教師の声が響く授業スタイル、教師のこまかな指示を受け児童が活動する授業スタイルから、児童が主体となって児童の声で学習を進める授業への転換が必要です。そういった意味で、このガイド学習は今求められている授業のスタイルそのものともいえるでしょう。

ガイド学習は、低学年、中学年、高学年と、発達の段階に即して、単純な学習から複雑な学習へと移行していきます。低学年や初めて複式学級となった学級においては、ガイドは例えば教師の作成した「学習ガイド」(カード)をもとに進行する経験を重ね、ガイド中心に学ぶ学習集団づくりの基礎を養います。そのような経験を積み重ねながら、中学年、高学年と進む中で、学習ガイド(カード)がなくても進行できるようになり、さらには、話し合いの学習において、話し方や聞き方の積み上げによって、既習の知識と関連させながら、また他者の発言と自らの考えを関連させながら考えたり発言したりできるようになっていきます。学級のだれもがガイドとしての役割が果たせるように順番に経験を重ねていくことで、より協力的に、主体的に学ぶことのできる集団に育ちます。

(1) ガイドの役割

ガイドには、表15に示すような役割(例示)があります。

表15 ガイド学習におけるガイドの役割(例示)

1 学習の準備	複式学級においては、特に児童が学習準備に参加することが大切です。ガイドに限らず、児童全員が準備をしながらどんな資料や教材を使って、どんな活動を行うか予想することができ、主体的な学びへつなげることができます。
2 学習の進行	学習の進行は、ガイドの役割の中心といえます。学習を進行するには、学習のねらいや内容の見通しがもっていることはもちろん、進行の手順も定まっている方が好ましいといえます。
3 学習規律を整える	学習技能の定着と同時に、話し合い活動を展開するガイド学習においては、学習規律を整える仕事がとても重要です。ガイドを中心に互いに声をかけあいながら学習規律を整えていけるようにします。
4 学習の目標を達成する	学習を進めていく中で、早く目標が達成できる児童や、じっくり時間をかけて取り組む児童等、個によって違いがあります。ガイドは、他の児童とも協力しながら、全員が目標を達成できることを目指します。

[参照：へき地・小規模・複式学校の特性を生かした学習指導(指導方法)。全国へき地教育研究連盟編。平成元年3月31日]

これらは、一般的なガイドの役割として示したのですが、実際には、学級の実態や条件の違いに応じてアレンジされ、創意工夫を加えていくことが望まれます。学級集団の成長とともに、ガイドの役割も変化していくことになります。

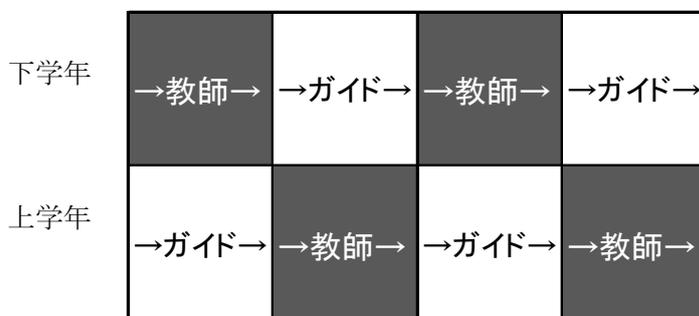
(2) ガイドの位置付け

図 12、図 13 は、1 単位時間の学習過程におけるガイドの位置付けを模式的に表したものです。ガイド学習の経験差や、教科等の学習内容により柔軟に位置付けていく必要があります。

①教師が中心となって授業が展開される場合

- ・・・直接指導の間は教師が進行し、間接指導の間は、教師との事前の話し合いをもとにガイドが中心となり進行します。

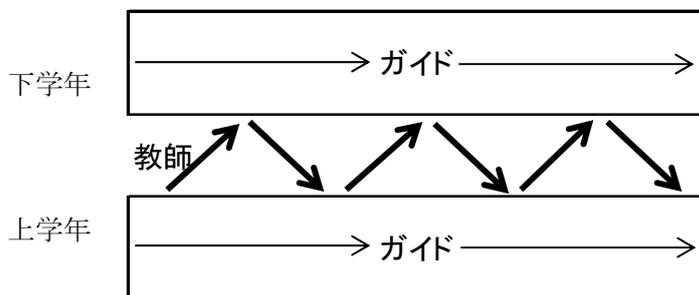
図 12 教師が中心となって授業が展開される場合の教師とガイドの位置付け



②ガイドが中心となって授業が展開される場合（同時間接指導）

- ・・・1 単位時間全体をガイドが進行し、教師は個別に支援したり、ガイドにはたらきかけたりして、全体には間接指導を行います。このように、教師が個別指導にあたり、同時に両学年を間接指導する方式は、同時間接指導とよべれます。

図 13 ガイドが中心となって授業が展開される場合の教師とガイドの位置付け（同時間接指導）



(3) ガイド学習の留意点

- 学習ガイド（カード）には、ガイドがそのまま読んで進行できるよう、図 14 に示すように、話し言葉で流れを書いておく等の工夫をします。経験を重ねれば、簡単な進行メモで学習が進められるようになります。
- ガイド学習は、始めて間もなくの慣れない間は、ガイドだけでなく学習集団全員に学習ガイド（カー

ド)を配付する等し、だれもが流れを理解し、助け合いながら学習を進められるようにします。

- ガイド学習を始めて間もなくは、リーダー性のある児童をガイドにすると学習が進めやすいですが、学級のだれもが順番にガイドとしての役割ができるように経験を重ねていくことで、より協力的に、主体的に学ぶことのできる集団に育ちます。
- ガイドの進行がうまくいかず、話し合い等の学習活動が停滞していた場合、すぐに教師がガイドにとって代わるのではなく、どう進めたらよいかについてガイドを支援します。時には教師がガイド役をやって見せる(例示する)方法もあります。教師が、ガイドの進行のよさをほめ、価値付けることで、ガイドが自信をもって進行できるようになっていきます。ガイド学習は、ガイドの児童が教師との分業で学習を進行することだけが目的ではなく、学習の仕方を学んだり、主体的な学習態度を身に付けたりすることを目指して取り組んでいくことが大切です。
- 両学年ともにガイド学習をする同時間接指導においては、教師はどちらの学年にも気を配り、全体を見渡し、必要に応じてガイドやそれぞれの学習集団を支援する必要があります。学級のガイド学習についての成熟度が高まり、経験を重ねる中で、学習集団が「自ら学ぶ集団」へと育っていき、教師の出番も少なくなってきました。児童の主体的な活動を通して、よりねらいにせまる学習となるよう支援することが大切です。

図 14 学習ガイド(カード)記入例

- | | |
|----|---|
| 1 | 「今日の学習をはじめます。今日のめあてを読みましょう。」 |
| 2 | 「今日の日付けとめあてをノートに書きましょう。」 |
| 3 | 「今日の問題を読みましょう。」 |
| 4 | 「意味の分からないところはありませんか。」 |
| 5 | 「15分まで、考えてください。」 |
| | (中 略) |
| 9 | 「自分のとき方を発表してください。」 |
| 10 | 「付けくわえや別の考えはありませんか。」 |
| 11 | 「質問はありませんか。」 |
| 12 | 「今日のめあてをもとに、学習をふりかえります。ふりかえりをノートに書きましょう。」 |
| | (後 略) |

図 15 低学年の展開例 算数 第1学年 「3つのかずのけいさん」 第2学年 「ふえたり へったり」

(出典：複式学級新任担当者研修（隠岐会場第2回）、隠岐の島町立北小学校、令和元年10月)

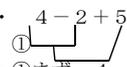
第1学年	主な学習活動		第2学年	主な学習活動	□支援 ★評価
<p>□支援 ★評価</p> <p>□見通しを持って学習に取り組むことができるように、学習の流れを全体で確認する。(掲示)</p> <p>□題意を正確に捉えるために次のような流れで、問題文の確認をする。</p> <p>①線を引く。 わかっていないこと→青 問い→赤</p> <p>②1文ずつ、増えるか減るかを考えて問題文に書きこむ。</p> <p>③バスの模型から実際に動物を下ろし、全体を確認する。</p> <p>□思考の軌跡を残すために、降りた人を表すブロックは、ホワイトボードに残し、降りたことがわかるようにすることを助言する。</p> <p>□机間支援をして、わかりにくい表現については、真意を問い、考えを整理する。</p> <p>□質問のパターンを示し、式の意味や計算の仕方を児童同士のやりとりで整理できるようにする。</p> <p>・～は、何の数ですか。</p> <p>・どうして、～をするのですか。</p> <p>★減増の場面でも、一つの式に表すことができたか。(ワークシート)</p>	<p>1、百玉そろばん・プリント</p> <p>2、前時までの学習を振り返る。</p> <p>・はじめの数から増えるときは順番にたす、減るときは順番にひくと、答えがわかったよ。</p> <p>3、本時の問題場面と学習課題を把握する。</p> <p>【問題】 きたっこバスには、はじめに4にのっていました。 きたしょうで、2りおりました。 いごのバスで、5にのってきました。 バスには、いま なんにのっていますか。 バスには、いま何人乗っていますか。</p> <p>【学習のめあて】へって、ふえるおはなしのときも、1つのしきにあらわせるか考えよう。</p> <p>4、ブロックを操作して、問題を解く。</p> <p>5、全体で話し合う。</p> <p>はじめ4にん □□ □□→ ←■●■■■</p> <p>2りおりのる 5にんのる バスにのっているのは、7にん。</p> <p>6、ブロックの操作を式に表し、計算する。</p> <p>7、全体で話し合う。</p> <p>●一つの式で</p> <p>・$4 - 2 + 5 = 7$</p> <p>・はじめ4人のバスから2人おりのから $4 - 2$、そのあと5人乗るから $4 - 2 + 5 = 7$で、バスには7人乗っています。(予想されるその他の考え)</p> <p>・$4 - 2 = 2$ $2 + 5 = 7$ ○順番に表している 2つの式で解く・・・</p> <p>・$4 - 2 + 5$ ○式に表している 立式できたが、計算していない。</p> <p>・$4 + 2 + 5 = 11$ ○前時の学習を使おうとしている</p> <p>・$4 - 2 - 5$ ○前時の学習を使おうとしている</p> <p>8、計算の仕方を確認する。</p> <p>・ $4 - 2 + 5 = 7$</p> <p>①  ②</p> <p>・①まず、$4 - 2 = 2$ ②つぎに、$2 + 5 = 7$ 答えは、7人。</p> <p>【学習のまとめ】へってふえるときは、ひいたあと、たす一つのしきにかくことができる。</p> <p>9、練習問題を解く。</p> <p>10、学習を振り返る。</p>	<p>⑥</p> <p>つかむ</p> <p>⑥</p> <p>つかむ</p> <p>④</p> <p>やってみる</p> <p>⑦</p> <p>やってみる</p> <p>③</p> <p>学び合い</p> <p>⑦</p> <p>やってみる</p> <p>③</p> <p>学び合い</p> <p>⑦</p> <p>深める・まとめる</p> <p>⑮</p>	<p>1、前時の学習を振り返り、本時の学習課題を把握する。</p> <p>【問題】 北っ子バスには、はじめに24人乗っていました。 ふせのバスで、8人おりました。 うずきのバスで、2人おりました。 バスには、いま何人乗っていますか。</p> <p>【学習のめあて】 こたえの人ずうを計算するいろいろな方法を見つけよう。</p> <p>2、問題を解く。</p> <p>3、全体で話し合う。(出会わせたい考え)</p> <p>はじめ24人 □□□□□□□□□□</p> <p>■●■■■■■■■■■→←■■■</p> <p>8人おりと2人おりと 10人おりのる</p> <p>・$8 + 2 = 10$</p> <p>・$24 - 10 = 14$ <u>14人</u> バスを降りた人を全部たしてまとめます。 $8 + 2 = 10$ その次に、はじめの24人から降りた人10人をひくと、バスに乗っている人は、14人です。</p> <p>(予想されるその他の考え)</p> <p>・$8 + 2 = 10$ ○おりの人は捉えている $24 + 10 = 34$</p> <p>・$8 - 2 = 6$ $24 - 6 = 18$ ○ひき算の意味理解</p> <p>・$8 + 2 = 10$ $24 - 8 - 2 = 14$ ○時系列での式表現</p> <p>4、学び合いでわかった問題の解き方を整理する。</p> <p>【学習のまとめ】順番にひくやり方やへった数をたしてまとめて、そのあと、はじめの数からひくやり方もある。</p> <p>5、練習問題を解く。</p> <p>6、学習を振り返る。</p>	<p>□見通しを持って学習に取り組むことができるように、学習の流れを全体で確認する。(掲示)</p> <p>□題意を正確に捉え、自力で解決できるように、次のような流れを取り入れる。</p> <p>①線を引く。 わかっていないこと→青 問い→赤</p> <p>②図を描いて考える。</p> <p>③式を立てる。</p> <p>□児童の思考を助けるために、考えをまとめるワークシートに、</p> <p>①降りた人の数は何人かな。</p> <p>②順番に計算する方法もできるかな？ の視点を示しておく。</p> <p>□出会わせたい考えが出ないときは、視点①と図を用意しておく。様子を見て提示する。</p> <p>□1年生のやってみようの時間を使って2年生の学習の様子を見る。必要に応じて声をかける。</p> <p>□主体的に学び合いが進められるように、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ途中の人、よくわからない人から発表する。 ・発表者は、「～でしょう。」「ここまで、わかりましたか。」等の言葉を使い、短い間隔で確認する。 ・聞き手は、発表者の確認に対して、意見や質問があれば、発表する。 ・発表者の考えが誤答の場合、やり取り取りをしながら訂正していく。発表者が訂正することが難しい時は、交代する。 <p>□どの考えも良いところと分からないところとあることを書き残すよう助言する。</p> <p>□学び合いの様子から、意図的に指名する。</p> <p>□何も書いてない用紙を準備する。 補助発問 どんなやり方が見つかりましたか。</p> <p>★順にひく式と、減量をまとめた式に表すことができたか。(観察・ワークシート)</p>	

図 16 中学年の展開例 算数 第3学年 「大きい数のしくみ」 第4学年 「わり算の筆算(2)」

(出典：複式学級新任担当者研修(西部会場第2回)、邑南町立阿須那小学校、令和元年9月)

■：直接指導 ▨：同時間接指導(網掛けは軸足を置く学年。) ◎：活動の見通し

3年生【展開例A：基本展開例】		関わり	4年生【展開例B：思考力を伸ばす授業展開例】	
支援(○) 評価(・)	学習活動 予想される児童の反応(・)		学習活動 予想される児童の反応(・)	支援(○) 評価(・)
<p>○桁数を予想した後で位ごとに数を示す。</p> <p>○数直線を使ってゲームをして問題をつかむ。 16000を行きすぎるなど変化を加え、集中を促す。</p> <p>○数直線のカードを用意しておく。</p> <p>・数の構成を基に、数の多様な見方について考え、表現している。</p> <p>【考】(観察、発言、記述)</p> <p>○なるべくたくさん出すように声をかけける。(式で表すと同じでも、式、言葉、図それぞれを認める。)</p> <p>○友だちの考えを聞きながら、自分の考えを書き加える姿を称賛する。</p> <p>○式の簡便さに触れる発言があれば称賛する。</p> <p>○数直線でも確認する。</p> <p>○代表が発表した考え以外にも発表できるようにする。</p> <p>○新たな表現ができるように意識づける。</p> <p>○身近なものから数を取り上げる。</p> <p>○+、-、いくつつ分(×)の見方など意識して書けるようにする。</p>	<p>【つかむ・見通す】(5分程度) 問題場面を知る。</p> <p>◎たまったお小遣いを、どんなふうにもらいたいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5桁なら○万円だ。 ・百の位は0か。 ・16000円か。 ・2万から4千戻ればいい。 ・千ずつ進むと、16こだ。 <p>16000はどんな数と言えるかな。</p> <p>【解決・創造(自分で)】(3分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16000は1万と6千を合わせた数。 ・16000は2万引く4千。 ・16000は千が16個。 など ・16000=15999+1 <p>【解決・創造(関わり合って)】</p> <p>①グループで考えを紹介しあい、他のグループが出しそうでない考えを一つ選ぶ。(5分程度)</p> <p>②ガイドが中心となり、全体で考えをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16000=10000+6000 ・16000は100が160個。 ・言葉や数直線や式などで同じことを表せるね。 <p>【まとめる】(予想)</p> <p>数はたし算やひき算などいろんな見方ができる。式にすると言葉より短く表せる。</p> <p>【広げる】</p> <p>「23000人」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23000=20000+3000 ・23000=30000-7000 ・23000=1000が23個 <p>学習感想をノートに書く。(自ま)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん見方があって面白かった。 ・買い物でも使えそうだな。 	<p>【復習】(5分程度)。 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんどん解けるぞ。 ・498÷6なども解けた。 ・まとめると、2けたや3けた÷1桁はとけた。 ・割られる数の桁数が増えても、同じことを繰り返せば解けそうだ。 <p>【つかむ・見通す】 問題場面を知る。</p> <p>色紙が60枚あります。この色紙を1人に□枚ずつ分けると、何人に分けられますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆算で解けば、÷5は12人。 ・÷8は十の位には商がたたない。あまりが出て、7あまり4だ。7人に分けられて、4枚あまる。 ・20はどうするといいかな。 <p>60÷20の計算はどうするといいいかな。</p> <p>【解決・創造(自分で)】(5分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆算で考えると、十の位には商がたたないぞ。 ・図をかいて考えよう。 ・10の束で考えると〜。 <p>【解決・創造(関わり合って)】 全体で考えをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図で考えると、20枚セットが2個。 ・筆算ではどう考えるといいいかな。 <p>60÷20の筆算の仕方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わる数が2桁でも、これまでと同じで商がたたなければ、位を下げるといいいよ。 <p>【まとめる・広げる】 まとめを書く。(予想)</p> <p>わる数が2桁でもこれまでと同じように計算することができる。(何十と考えると商をたてやすい。)</p> <p>発展問題を解く。(90÷20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・90÷20は10の束で考えて、4あまり1だ。 ・あまりは1ではなくて10だ。 <p>90÷20のあまりは1かな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまりの1は、10の束で考えているので、10枚だ。 ・筆算でとくと、90-80で10だ。 <p>学習感想をノートに書く。(自ま)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わる数が2桁でも解けてうれしかった。 ・計算は大体、前の勉強を使えば解けるな。 	<p>○既習事項の振り返りをさせる。</p> <p>○既習事項をまとめられるものを用意しておく。</p> <p>○情報ボックスからカードを引くことで、本時の問題に意識が向かうようにする。(5, 8, 20)</p> <p>○式の単位を確認させる。</p> <p>・10を単位としたり、筆算を使ったりして、何十である計算の仕方を考え、説明している。</p> <p>【考】(観察、発言、記述)</p> <p>○途中まででも考えを伝え合い、深めあう姿を称賛する。</p> <p>○筆算の仕方に疑問がわいていれば、それを共有する。</p> <p>○時間を短く設定して、疑問を共有しやすいようにする。</p> <p>○算数の世界を広げられたことを価値づける。</p>	

※「自ま」…自分でまとめる活動

図 17 高学年の展開例 算数 第5学年「百分率とグラフ」 第6学年「資料の調べ方」

(出典：複式教育推進指定校事業授業公開、雲南市立西日登小学校、平成30年12月)

学習活動と予想される反応 [5年]	指導上の留意点 (★：評価)	学習活動と予想される反応 [6年]
<p>1 問題を読み、みんなで話し合う。 問①：3試合の中でシュートがいちばんよく成功した試合はどれですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入った数やシュートした数が同じ試合は比べやすそう。 ・ 2試合めと3試合めはシュートした数が同じだから、入った数が多い方がよく成功しているね。 ・ 1試合めと2試合めは入った数が同じで、シュートした数がちがうから・・・。 ・ 半分より多いかどうかで比べられるよ。 <p>2 本時のめあてを確かめる。 問②：3試合めと4試合めを比べると、どちらがよく成功していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入った数とシュートした数もちがうから、どうやって比べたらいいのかな。 ・ どちらも半分より多く入ってるけど・・・。 	<p>[5年]図表を示し、入った数とシュートした数を一緒に確認する。</p> <p>[6年]ワークシートの数直線上に卵の重さを表すことで散らばりの様子に目を向きやすくする。</p> <p>[5年]学習リーダーを中心にどのように比べたのかが分かるように、大事な言葉を板書に残しておくよう伝えておく。</p> <p>[6年]東小屋と西小屋の2つの立場に分かれて考えさせる。卵のサイズ規格を伝え、アピールポイントを考えるヒントにする。</p>	<p>1 東小屋と西小屋の卵の重さを、数直線の上に表す。</p> <p>2 問題を読み、本時のめあてを確かめる。 問：にわとり小屋の経営者になって、○小屋の卵を売るためのアピールポイントを話し合いました。</p> <p><u>卵のサイズ規格</u> S:46~52 未満 MS:52~58 未満 M:58~64 未満 L:64~70 未満 LL:70~76 未満</p> <p>数直線を見て、どんなことがアピールできるのかたくさん考えよう。</p>
<p>入った数とシュートした数がちがうときの比べ方を考えよう。</p>	<p>[5年] 児童の言葉から3試合めと4試合めは入った数とシュートした数がちがうことを引き出し、めあてを確認する。</p> <p>[6年]自分の考えがもちにくい児童には、前時に考えた比べ方や規格に合った卵がいくつあるかなど一緒に確認する。</p>	<p>3 自分の考えをかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平均を使って考えられないかな。 ・ 卵のサイズごとに考えたらどうだろう。 ・ 東小屋は真ん中の方に重さが集まっているのが特徴かな。 ・ 西小屋にはいちばん軽い卵と重い卵があるからそこがアピールできそう。
<p>3 自分の考えをかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図で並べて考えてみようかな。 ・ シュートした数から入った数をひいて、入らなかった数で比べてみよう。 ・ 3試合めに1本ずつ入った数と入らなかった数をたしたら4試合めと一緒になるから同じじゃないかな。 ・ 入った数かシュートした数を同じにすることはできないかな。 ・ シュートした数を1とみて、式で考えよう。 <p>4 みんなで比べ方を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シュートした数から入った数をひくと、どちらも差が6本だから同じになると思う。 ・ 1ずつたした数になっても同じとは言えなかったよ。 ・ こみぐあいを比べたときは、差で比べることはできなかったよ。 ・ シュートした数を60で考えると、入った数は3試合めが48、4試合めが45になるよ。 ・ どうやって数をそろえればいいのか。 ・ シュートした数を1とみると、入った数は3試合め 式 $8 \div 10 = 0.8$ 4試合め 式 $9 \div 12 = 0.75$ になるよ。 ・ 0.8や0.75って何を表しているの。 	<p>[5年] シュートの数を1とみて、入った数がどれくらいにあたるかといった割合の考え方が理解しにくいときには、こみぐあいの学習でも単位量あたりの大きさで比べたことを思い出させる。</p> <p>[5年] 小数の意味がとらえられないときは、半分入っているときの入った数はシュートした数の何倍になっているのかを考えさせる。</p> <p>[5・6年] まとめでは、児童が板書した言葉を用いるようにする。振り返りでは、分かったことや友達の良いところ、次の学習につながるものを取り上げたい。</p>	<p>4 みんなでアピールポイントを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東小屋はMSサイズになる重さの数が多いから、MSサイズをたくさん売ることができるよ。 ・ 西小屋には73gで一番重い卵があるからLサイズを売れるのはこっちだけだよ。 ・ 東小屋は全体の数や重さの合計が多いからたくさん売り出すことができるよ。 ・ 西小屋はいろいろな重さの卵があるからどのサイズの卵もとれるよ。 ・ 東小屋はMサイズの重さの卵が多いから、Mサイズを売ることができるし、ちょうど一日で6個入りのパックができるよ。 ・ 西小屋は平均が58gだから、西小屋もMサイズをたくさん売ることができるよ。 ・ 西小屋の平均は58gだけどMサイズは3個だけだよ。 <p>平均や散らばりの様子を見ると、アピールポイントがたくさん見つかる。</p>
<p>数がちがうときは、数をそろえたり、1とみたりすると比べられる。</p>	<p>★[5年]シュートがよく成功した試合を考えると、基準量をそろえる妥当性に気付き、比べようとしている。</p> <p>★[6年]アピールポイントを、平均や散らばりの様子など資料の特徴から考えている。</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東小屋のアピールポイントをたくさん見つけることができよかった。 ・ 平均は近くても、アピールできるところがちがっておもしろかった。 ・ 私が考えなかったことを友達は見つけていてすごいと思った。 ・ 散らばりの様子を見ると、いろいろなことが分かった。他の特徴も見つけてみたい。
<p>5 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入った数とシュートした数がちがうときは、数をそろえて解けばいいということが分かってよかった。 ・ シュートした数を1とみて、入った数がどれだけにあたるかを考えればいいのか分かった。 	<p>★[5年]シュートがよく成功した試合を考えると、基準量をそろえる妥当性に気付き、比べようとしている。</p> <p>★[6年]アピールポイントを、平均や散らばりの様子など資料の特徴から考えている。</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東小屋のアピールポイントをたくさん見つけることができよかった。 ・ 平均は近くても、アピールできるところがちがっておもしろかった。 ・ 私が考えなかったことを友達は見つけていてすごいと思った。 ・ 散らばりの様子を見ると、いろいろなことが分かった。他の特徴も見つけてみたい。

第8章 複式学級の指導と評価

学習評価には、児童の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能があり、学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すこと、個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善すること等ができます。これが、いわゆる「指導と評価の一体化」です。

そして、学習指導と学習評価のPDCAサイクルを、日常の授業、単元等の指導、学校における教育活動全体等の様々な段階で繰り返しながら展開することが必要です。

複式学級においても、以下を参考に、自校の指導計画に基づいて、単元（題材等）ごとの観点別の評価規準と、学習活動に即した具体的な評価規準を作成する必要があります。

- 学習指導要領に示された各教科の目標、学年の目標及び内容
- 平成31年3月29日付け30文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（通知）で示された、「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨」
- 設置者が作成する指導要録における各教科等の「評価の観点及びその趣旨」

複式学級は、少人数であるという特性をもっていますが、少人数だからこそ、多人数の学級では難しい、児童のノートやプリントへのコメント書きや、児童の発言や行動のとらえを充実させることが可能です。この複式学級の特性を評価に十分生かし、学習指導と学習評価のPDCAサイクルにより学習を展開することで、複式学級で学ぶ児童を伸ばしていくことができます。

また、複式学級においては、単式学級における評価の留意点に加え、以下の点に留意する必要があります。

1 学年別指導における評価の留意点

学年別指導を行う場合は、間接指導の間、教師は児童の発言や行動の観察をすることが直接指導と比べて難しくなります。間接指導の間の児童の評価は、ノートやワークシートへの記述をもとにした評価等が有効である場合が多くなるでしょう。日ごろから、ノート指導を積極的に行い、児童が間接指導の間に取り組んだことや、話し合いによる見方や考え方の変容を書くようにさせ、記述をもとに評価し、次の授業に生かします。

2 同単元（題材）同内容同程度（A・B年度方式、2本案）指導における評価の留意点

同単元（題材）同内容同程度の指導をする場合は、同じ目標、評価規準のもとに授業が展開されることとなります。同程度で指導をする際は、特に複式学級が単式学級以上に個人差の大きな異年齢集団であることに留意する必要があります。下学年の児童は、単元によっては当該学年の目標及び内容ではなく、上学年の目標及び内容で学習することもあります。評価規準は同じであっても、一人一人の児童の取組を丁寧にとらえ、評価し、個に応じた指導の充実を図り、次時へ生かす必要があります。

3 同単元（題材）同内容異程度（完全1本案、くりかえし案）、同単元（題材）異内容（1本案、くりかえし案）指導における評価の留意点

同単元（題材）同内容異程度や同単元（題材）異内容異程度により指導する場合は、単元（題材）又は内容が同じであっても、学年により程度（単元・題材の目標、本時の目標）が異なるため、学年ごとの評価規準を設定する必要があります。しかし、特に同内容の場合は両方の学年に共通する目標もあり、共通の目標と学年別の目標をもとに、それぞれ共通の目標に対する評価規準と、学年別の目標に対する評価規準を設定し、児童の学習状況を評価します。

第9章 複式学級における学習指導方法の工夫・改善

1 教師の心構え

(1) 一人一人をよく理解すること

少人数であっても、一人一人の学習や生活の状況を理解することは、決して簡単なことではありません。学校内外の全ての時間的空間的諸条件が、一人一人をよく理解する材料となります。詳しく知るために、学習面や生活面等様々な角度から児童を観察し、よく理解することが大切です。

一にも二にも、児童を丁寧に見取ることが、複式学級の指導では全ての出発点です。

(2) 「じっと待つ」心のゆとりをもつこと

少し困っている姿を見かけたら、それが児童の成長の好機ととらえ、まずしっかり見守りましょう。すぐに手助けしたり、早く進めようと引っ張りすぎたりしないようにします。学習の主体は児童です。教師は時に後方から見守り、しゃべりすぎないように気を付け、児童の学びの状況を見極めようとする心のゆとりをもちましょう。

(3) 過保護にしないこと

教師の親切心が知らず知らずのうちに、児童のやる気をそいだり、依頼心を高めたりすることがあります。特に、極小規模の複式学級の場合に気を付けます。今まで単式学級にいた教師が急に人数の少ない複式学級の担任になると、人数が少ないのだからしっかりはたらきかけようと思い、かえって児童の成長を阻害してしまうことがあります。

教師が指導することと、児童にまかせることを、はっきり分けることが大切です。あくまでも、児童の主体性、自主性、創造性を育むことに主眼をおいた教育活動に取り組むことが大切です。

(4) きびしさとやさしさを備えること

家庭的な雰囲気の中にも、教師は指導者であることを忘れないようにします。きびしさ、やさしさを合わせもった教師であることが大切です。

(5) しっかりほめること

限られた人間関係の中で、教師の関わりが児童に与える影響はたいへん大きなものです。ほめるべき時にはしっかりほめ、児童の自己肯定感を高めていくはたらきかけをしていくことが大切です。自己肯定感を高めていくことは、児童が中学校、高校、大学と規模の大きな学校や社会に出ても、ひるまずに、自信をもって学んでいくための原動力になります。

(6) 児童と一緒に活動すること

複式学級のように少人数の学級においては、教師が身をもって示したり、児童とともに活動したりすることが、児童の活動への意欲を高めたり活動の幅を広げたりすることにつながります。特に、低学年や学年初めは、児童とともに活動することが大切です。

(7) 教師間の協議・情報交換をすること

(1)～(6)は、複式学級指導にあたる教師の一般的な心構えとして示しましたが、複式学級だけでなく、へき地・小規模の単式学級や、大規模校の単式学級にもあてはまります。

上記の教師の心構えを参考に、学校や学級の実情に応じて、教師間でよく語り合うことが大切です。楽しく、有意義な「職員会議」「研修会」になるようにし、授業の進め方、児童への対応等を話し合ひましょう。また参考図書や「手引き」、実践事例等を読んだり、県内外の研究会等に出かけたりし、複式学

級の指導についての研修、研究を深めましょう。

2 ノートのとり方の指導の工夫

ノートをとることは様々な意味やねらいがありますが、複式学級の間接指導においては、教師が児童一人一人の考えを捉えるための特に重要な材料となります。ノートに書かれた児童の取組の様子や考え方のよさをもとに、次の授業を展開したり、取組のよさをほめ、価値付け、学びの質を高めたりすることが大切です。児童の学習ノートを上手に活用する工夫をしましょう。

そこで、ノートには、日付、学習のめあて、自分の考え、友達の考え、学習のめあてをもとにした振り返り等を書くよう指導します。日付を書く位置や、学習のめあての書き方、色鉛筆の使い方、振り返りの書き方等を、学校全体で共通のものにし、学び方の積み重ねにより記録の仕方や考えの書き方が深まるようにします。

また、間違っただけの解答や、不十分である考えもそのまま残し、大切にしよう伝えます。このことにより、教師は間接指導の際の児童のつまづきがわかり、その後の指導に生かすことができます。児童にとっても自分の学習の課題を振り返ることができる好機となります。低学年のうちから、「間違い」を大切にすることを伝えていきます。

これらは、個別の指導をより有効に進めるための方法の1つで、学年間で共通性を持たせた各学校独自のノート使用の工夫が望まれます。

3 黒板やホワイトボードの使い方の工夫

(1) 児童が学習に見通しをもてる学習のめあてを書くこと

学習を進行する際、黒板に書かれた内容によって、児童は学習の見通しをもつことができます。本時の学習に見通しをもつことは、主体的な学びとなる契機となります。学習が始まる前に、教師またはガイド役の児童が、黒板に本時のめあてを書いておきます。

(2) 児童も黒板を利用し、板書をうまく書けるよう指導すること

間接指導の間の児童の発表の様子や話合いの深まりをとらえるために、児童による板書はとても重要な材料となります。板書から読み取った児童の捉えをもとに、教師はさらに学びが深まるよう直接指導において声かけすることができるようになります。そのためにも、児童がうまく板書できるよう指導することが大切です。

チョークを使って書くことの困難さから時間がかかるといったマイナス面もありますが、多くの児童が黒板に書く活動を好み、積極的に取り組みます。教師は、チョークの握り方や書く文字の大きさ等を年度当初に確認しておきます。また、考えを出し合う際は、どの児童の考えかわかるように名前を明記することも大切です。その他にも、慣れてくれば発言した内容を全て書くのではなく、要約して書いたり、付け加えは黄、反対意見は赤で囲むといったように、色チョークをうまく使ってまとめたりするよう工夫していきます。経験を重ねれば、ガイドが進行と板書を同時に行えますが、初めは板書担当を決めて行う方法もあります。また、黒板に比べてホワイトボードは鉛筆と同じ感覚で書くことができるので、比較的速く書くことができます。小型のホワイトボードを各自が持って、うまく活用している事例もあります。

このように、黒板でもホワイトボードでも、板書に慣れて学習に有効に活用されるよう工夫することが大切です。

4 多様な考えを引き出す工夫

(1) 教師が児童役となる

極小規模の複式学級においては、学年別指導において1人で学習しなければならない場合もあります。そういった場合には、1人の考えでは限界があるので、教師が児童役となって考えを出すことも多様な考え方にふれさせる方法の1つです。しかし、当然、児童が考える時間を十分確保したうえでの教師の発言でなければなりません。また、内容によっては学級外の児童、校内、家庭、地域の方々の考えにふれる機会を設けるなどして、様々な意見や考えを求める姿勢を育てることも大切です。

(2) ノートに考えを書く時間を確保する

児童からできるだけ多くの見方や考え方を引き出せるよう、書いて考える時間を確保します。ノートに書かれた考えをもとに声かけし、さらに考えを引き出せるようにします。

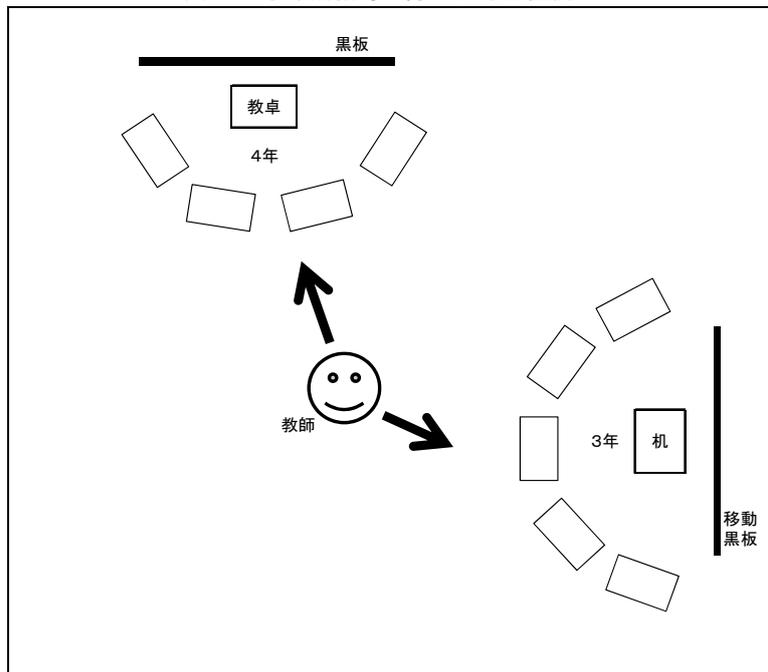
(3) 引き出したい考えを事前に教師が予想する

児童に多様な考えを出させたいと願うならば、何をもって多様な考えとするのか、教師は事前に予想しておく必要があります。児童にふれさせたい考えを教師が材料としてもっていなければ、児童に提案することはできません。また、考えを広げたり深めたりできる教材や発問の工夫が必要です。

5 効果的に学年別に学習する座席配置

図18は、同じ教室で2つの学年が別々に学習し、1人の教員がその指導にあたる場合の教室の座席配置の例です。

図18 学年別指導の際の座席配置例



一方の学年は移動黒板を用いて学習します。前面と側面を利用することによって、互いの学習が視界に入りづらく集中しやすい、ガイド役の声の干渉がさけられるというよさがあります。教師の立ち位置は、両学年の間とし、ガイド学習をする際は、児童の実態にもよりますが後ろから見守り、必要に応じて支援できるようにします。また、それぞれに教卓やそれに代わる机を用意しておくこと、教材の提示やガイド用の席として使用できます。

このような配置にした場合、前面や側面の掲示物はできるだけ少なくし、学習に集中できるようにします。ついでがあれば、2つの学年の間に置くと効果的です。また、発表の仕方や学習の約束等を前面、側面の児童から見えやすいところに掲示すると、間接指導の場面で生かれます。

座席配置については学校全体でよく協議して、児童の学びを低・中・高でつなげる等、教室環境を工夫することが大切です。

また、教科や学習内容・活動の違いに応じて、ふさわしい座席配置を工夫する等柔軟に変更する姿勢も大切でしょう。座席配置の変更を児童が自ら提案していくことも望ましいといえるでしょう。

第10章 複式学級を有する学校の学校経営・学級経営

第1章から第9章までは、複式学級の教育課程の編成や学習指導方法について説明してきました。

本章では、複式学級で学ぶ児童が、複式学級で学ぶよさを実感し、そのことを誇りに思い、主体的に学び、様々な資質・能力を身に付けていけるような学校づくり、学級づくりをする際の留意点についてまとめています。

1 初めて複式学級を有する小学校に勤務する教職員の皆さんへ

複式学級を有する小学校に初めて勤務する教職員の皆さんの中には、単式学級が主流で標準的であると考え、複式学級は傍流で例外的であるといった意識をもっている人はいませんか。また、単式学級での教育経験をそのまま複式学級に持ち込もうとしたり、単式学級と同じように展開できないことで複式学級では十分な教育ができないという思い込みに縛られたりしていることはありませんか。もしそうだとしたら、その学校で学ぶ児童に十分な教育を行うことはできません。

まずは教師が、複式教育に対するマイナスイメージを払しょくする必要があります。

第1章で触れたように、複式学級には単式学級や大規模校とは異なるよさや課題があり、それを教師がしっかり認識して指導にあたれば、複式学級は、単式学級での学びを上回る教育効果が期待できます。逆に、教師が、複式学級であることを悲観したり、単式学級に及ばないと思い込んだりして指導にあたれば、教育効果を十分にあげることができないでしょう。「単式学級だったら・・・。」と教師が複式学級であるという現実を日々後ろ向きに捉えて児童の指導にあたるとすれば、その指導を受ける児童は自信をもって学ぶことができないでしょうし、自分たちの学校や地域に誇りをもつことさえ到底できなくなるでしょう。

複式学級指導に熱心に取り組んでいる先進校を訪問し、授業を参観すると、教師の指示による受け身の学習ではなく児童自身が進んで自分たちで授業を進めている姿に驚かされます。そして、授業協議の場では、授業者をはじめ教職員の皆さんがいかに児童の主体的な学びを実現するために努力しているか、また、複式学級指導にやりがいをもって教育にあたっているのかが伝わってきます。先生方からは「複式学級指導は本当におもしろいんですよ。確かに大変ですけどね。」といった声が聞かれます。さらに、保護者の方からは「授業公開日に、うちの子らが自分たちで授業を進めているのを見ると我が子ながらすごいなあと思うんですよ。」といった声が聞かれます。教職員がそのよさを実感し、課題を認識して指導にあたれば、複式学級ではとても質の高い教育を実現できるのです。

第1章で説明したように、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」により、日本には、単式学級と複式学級があります。私たち教師は、担当する学級が単式学級であろうと複式学級であろうと、多人数の学級であろうと数名の極小規模の学級であろうと、教育のプロとして、目の前の児童に対し、今置かれている状況において最善の教育を提供する責務があります。単式学級を担任している教員は、日々、1時間の授業の中で学級全員が目標を達成できるようにと様々な指導の工夫をしたり、提出物の確認やテストの採点等で方法を工夫したりするでしょう。このように学級には多人数の児童を指導する教師としての専門性があるのと同様に、複式学級には複式学級を指導する教師としての専門性があるのです。複式学級を有する小学校に赴任したならば、日々の研鑽を通じ、複式学級指導の専門性を高めていく必要があります。第9章までに説明されている複式学級指導の留意点を十分理解するとともに実践に生かして、教育のプロとしての誇りと自覚をもって児童の指導にあたるよう努

力しましょう。

2 管理職のリーダーシップのもと学校全体で取り組む

学級編制や規模に関わらず、どのような小学校においても、管理職のリーダーシップのもと学校経営がなされていますが、特に、複式学級を有する小学校において必要で特有な配慮事項について検討してみましょう。

(1) 管理職が複式学級指導のよさと課題を理解して教育課程を編成する

まず、何よりも大切なことは、管理職である校長及び教頭が、複式学級のよさに目を向けることが大切です。

第5章で述べた「島根県の類型別の実施状況」の表にもあるように、島根県では算数において多くの学級で学年別指導の指導類型が採用されています。学校によっては学年別指導に不慣れな担任教師の困り感を解消しようと、専科教員や教頭がどちらか一方の学年を受け持ち、単式と同様に指導しているという学校もあるようです。様々な状況があるため一概にはいえませんが、このことが、間接指導により主体的に学ぶ場を児童から奪ってしまう面があることも考慮しておく必要があります。

もちろん、経験の少ない教員がいきなり学年別指導をすることは難しい場合もあるかもしれません。そういった状況で学ぶ児童の学力の定着面を心配する向きもあるでしょう。しかし、少人数と一緒に学び合う異学年の存在を生かした学年別指導をさけた教育課程を編成してばかりいけば、いつまでも学年別指導を理解し、指導する力をもつことはできません。複式学級指導の経験が浅い教員に対するフォローを学校全体ですることが、その教員だけでなく児童を育てることにもつながるのです。安易に2人の教員で別々に指導する教育課程を実施するのではなく、1人の教員が2つの学年を学年別に指導する教育課程を編成することを検討しましょう。

(2) 年度当初には複式学級指導の有効性と留意点について教職員が共通理解をもつ

校長は、年度初めに複式学級のよさを生かした学校経営について全教職員に説明したり、協議したりする場を設けたりすることが大切です。附属学校に複式学級を有する小学校をもたない大学も多く、教員の中には複式学級指導について実習等を経ないままに教壇に立っている場合が多いようです。また、教員として採用された後も、研修の機会は決して多くないのが現状です。そういった教職員に対し、校長としては、始業式を迎える前に複式学級のよさや課題、複式学級を有する小学校に勤める教職員としての心構え等を理解しあう機会をもつ必要があります。全ての教職員が、目指す児童像を同じくし、同じ方向を向いて指導にあたることは、単式学級、複式学級に関わらず、教育目標を達成するうえでとても大切です。小規模校としてのよさを生かして、大規模校ではできないほどの教職員間の意思の疎通を密接に図っていきましょう。

(3) 移行期には5年先、10年先を見通して教育課程を編成する

第2章「複式学級指導の現状と課題」でふれたように、島根県では近年、少子化による児童減少に伴い、単式学級から複式学級に移行したり、複式学級から極小複式学級を経てさらに欠学年が生じ単式学級に移行したりするといった、単複を繰り返す学級をもつ学校が多くあります。このように単複を繰り返す学校においては、教科書無償給与の関係等を含め、単式学級の時には複式学級の特例が認められないことから、必然的に学年別指導を選択する必要が生じる場合があります。単複を数年繰り返し、その

後は安定的に複式学級になる学校もあれば、いったん複式学級になっても児童数が安定せず、欠学年が生じたり単式学級へと移行したりする学校もあり、それぞれの学校によって状況は様々です。

そこで校長は、今後の児童数をふまえ、学級編制の変化を見通した教育課程編成の準備を始める必要があります。教育課程の編成は、その年だけとか、1～2年先といった短いスパンではなく、5年先、10年先を見通すことが求められます。小学校に入学してから卒業するまでは6年間あるわけですから、入学した1年生が小学校6年間どのような教育課程を経て卒業するのか、説明できる必要があります。

複式学級になる場合は、どのような指導類型をとっていくかということについても校長は教職員とともに決定しなければなりません。例えば、国語を学年別で指導するのか、A・B年度方式で指導するのかといったことは、教務主任や複式学級の担任一人に任されるようなことではなく、校長がリーダーシップをもってそれぞれの指導類型の長所短所を十分に理解し、数年先を見越して決定するようにします。

特に、児童数の増減が続く移行期にある学校においては教育課程編成や指導類型の検討を迫られることとなりますが、年度が変わるごとに教育課程編成の方針が変わると、児童や保護者は戸惑うこととなりますし、一貫性のない教育課程となります。児童の学びの連続性を考慮した教育課程の編成を心掛ける必要があります。

(4) 単式学級から複式学級への移行期の指導や学校経営で大切にしたいこと

① 複式学級になる数年前から見通しをもって、児童育成の方針の転換を図る

複式学級になり学年別指導を行う場合には間接指導があり、児童が自分たちだけで授業を進める時間が生じます。複式学級に移行する前に単式学級の時から、教師の指示だけではなく例えばガイドにより児童が自分たちで進める授業スタイルで学習する経験を積むことにより、複式学級になった際のとまどいが軽減できると考えられますし、教師にとっても、間接指導の際の支援等を研究する機会になります。

また、複式学級指導で一番難しいのが、つい手や口を出してしまい児童の主体的に取り組もうとする意欲をそいでしまうことです。もちろん必要なときには教師が支援しなければなりません、児童にまかせ待つという視点からの授業改善をこの期間に意識し、実践していくことが大切です。児童の主体的な学習を検討・工夫するよい機会としたいものです。

このような対応は、複式学級に移行する学級だけでなく、1学級でも複式学級になる予定ならば、その学校の他の単式学級でも同じように児童が主体的に学習を進める授業スタイルに変えていくと効果的です。教職員全員で間接指導の在り方について研究を深めることにもなります。

② 初めて複式学級を担任する教員、初めて複式学級になった学級を担任する教員への支援

初めて複式学級の担任となった場合、複式学級特有の学年別指導に最もとまどいを抱くでしょう。また、教員だけでなく、児童も新しい学び方にとまどうことと思います。

そのような場合の初期段階において、教頭や専科教員等による効果的な支援をする方法があります。様々な方法があると考えられますが、効果的な方法の1つとして、学年別指導をする授業をT2が支援する方法があります。慣れないうちは、1人で2学年を指導すると、一方の学年が何をしてもよいかわからない状況になったり、個への支援が十分でない状況になったりすることが生じます。そこでT2の教員は、両学年を俯瞰しながら見守り、例えば困っているガイド役の児童を支援する担当をします。そして、少しずつT2の出番を減らし、最後にはT1の教員1人で学年別指導ができるよう移行していきます。支援の際は、あくまで授業を進めるのはT1であることを忘れないようにします。そして、児童

にも、目標は自分たちで授業を進められるようになることで、できるだけT2の教員には頼らないで進められるようにすることが大切であることを意識させる必要もあります。

初めて複式学級を担当することになった教員の中には、自分の学級以外は単式学級というケースもあります。そういった先生方から多く聞かれるのは、自分だけが複式学級で、なかなか他の教員と課題を共有できず孤独を感じるといった感想です。特定の教員だけでなく、校内の全教職員がT2として授業にかかわることで、皆で授業者と課題を共有しながら学校全体で支援していくことが大切です。

また、初めて複式学級を担当する教員の学級と同様に、たとえ複式学級指導の経験がある担任が授業する場合においても、単式学級から初めて複式学級になった学級の場合は、児童が学習スタイルにとまどうことが予想されます。そういった児童の支援のために、年度当初は慣れるまでT2が支援をすると効果的です。

(5) 保護者や地域の方々へ複式学級指導について情報を発信する

教職員が同じ方向を向いて指導にあたることと同様に、保護者や地域の方々も複式学級指導のよさを共有することが大切です。保護者や地域の方々が、学校の複式学級のよさに目を向けた取組を知れば、家庭や地域で児童の主体的な学びの姿が認められ、相乗効果により児童の学びはさらに伸びていきます。一方、学校の複式学級指導が不十分であれば、保護者の方は学校の教育へ不安感や不信感を抱くことにつながりかねません。

単式学級編制だった学校に初めて複式学級ができる際、その事実を保護者に伝えるタイミングは、当該年度当初、1年前、2年前と様々な時期が考えられますが、初めに伝えることができるのは、対象となる児童が入学した時でしょう。児童が入学する時には、その児童が卒業する時の児童数は推定できる状況にあります。例えば小学校3年生で複式学級になることが推測されたならば、入学時の説明会において、その事実を伝えておくことが望まれます。加えて、複式学級指導のよさと課題について、あるいはそれまでの学校の準備体制について伝えていくことが、保護者の方々の安心につながります。

地域の方々への発信も大切です。少子化による児童減少は、学校だけでなく地域にとっても大きな課題です。児童数の減少を受け、市町村によっては統廃合が進んでいるところもあります。時には保護者や地域の方々から複式学級指導の是非について問われることもあるかもしれません。その際に、私たちは教育のプロとして、胸を張って、複式学級、単式学級それぞれによさと課題があり、いずれの学級編制であってもそれぞれのよさを生かした最善の教育をしているのだということを、自信をもって説明できなければなりません。

また、もともと複式学級を有する小学校の場合も、学校便りや学級便り等で機を捉えて複式学級指導のよさや学校の取組について発信します。小学校1年生が入学する際は、前述の場合と同様に保護者に対し丁寧に説明する必要があります。

最後に、中学校への発信についてもふれます。学年別指導の様子を中学校の教職員に授業公開し、中学校区で主体的な学びのスタイルを共有し、中学校での学びにつなげていくことが大切です。

以上、保護者や地域の方々、中学校への説明についてふれてきましたが、小学校の教職員誰もが同じスタンスで説明できるようにすることが大切です。

(6) 複式教育に係る校内研修・校内研究

これまでも述べてきたように、複式学級指導は複式学級を担当する教員だけでなく、今後1学級でも

複式学級になる学年があるならば、学校全体で研修を深める必要があります。複式学級になる数年前から、複式学級指導を核とした校内研修や校内研究を実施することでより研究が深まります。

特に、先進校への視察は効果的です。複式学級指導により、主体的に学ぶ児童の姿や複式学級であることを誇りに思い日々指導に取り組む教員の姿にふれることは、自分たちの目指す姿がイメージできることにつながります。1人よりも2人、可能ならば学校の教職員全員で出かけることで、複式学級指導のイメージを共有でき、その後の研究の推進につながられます。なお、他都道府県に出かける際は、学級編制や教員の加配等が本県とは異なる場合があることに留意しておく必要があります。

複式学級指導に係る研修や研究は、単式学級のそれ以上に教育課程の編成や学校経営に大きく関わってきます。研究主任だけではなく、管理職こそ積極的に研修や研究に関わっていくことが大切です。

(7) 複式学級を有する学校間の協力

学校内で課題を抱え込まず、複式学級を有する近隣の学校との協力体制をつくることも大切です。教育課程の編成や、授業協議の交流等で情報を共有していくことで、複式学級指導についての研修や研究を深めていくことができます。

国指定のへき地校の場合は、県へき地教育研究会や全国へき地教育研究連盟が開催する授業研修会等に参加する機会があります。理事会等もあって校長同士の意見交換も行われやすい状況にあります。しかし、国指定のへき地校ではない学校は、他の学校との交流の機会が少なくなりやすいようです。情報不足等により、教育課程の編成や教科書の無償給与事務等で課題が生じている状況もあります。より意識して市町村教育委員会や他の学校との連携を密にし、情報交換をするとよいでしょう。

市郡教育研究会単位で各教科の年間指導計画等を共同で作成していたところもあったようです。年間指導計画だけでなく、同じ教科書で学ぶ学校同士が協力して学習ガイドを作成したり、共同で教材研究をして教材の精度をあげたりすれば、準備に係る負担を減らすことができます。

3 教科書無償給与に係る手続き

複式学級において特別な教育課程を編成している場合は、他学年の教科書を合わせて給与することができます。

しかし、単式学級にはこの特例は適用されません。

文部科学省通知「義務教育諸学校用教科書の無償給与事務について」の「別紙1 無償給与事務の適正な処理についての留意事項 3学校」において、以下のように記述されています。

翌年度以降複式学級になることを見込んでの過剰な給与や、1つの学年のみで編制された学級に対して、複式学級のように他学年の教科書を合わせて給与するといったことは決して許されないこと。

単複を繰り返す学校において、翌年度複式学級になる単式学級に他学年の教科書を給与することはできません。移行期の学校においては特に留意する必要があります。今後、文部科学省教科書課から出される教科書無償給与に係る通知に毎年目を通し、複式学級への給与の変更点等がないか各校の担当者は確認しましょう。

また、特別支援学級に在籍する児童に、複式学級において特別な教育課程を編成する場合の特例は適用されません。よって、特別支援学級に在籍する児童には、上学年の教科書は無償給与されないことに

留意する必要があります。

4 転出入児童に未学習が生じないために

(1) 複式学級から単式学級へ児童が転出する場合

複式学級の担任は、履修状況を書面にまとめ、転出先の学校（担任）へ伝えます。特に、同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）で指導していた場合は、2年間の履修状況をもれなくまとめます。そして、未学習の内容について、転出先の学校において補習等に対応し、児童に未学習が生じないようにする必要がありますを必ず伝えましょう。また、複式学級の担任は、所属校の管理職に、履修状況等を伝えたことを報告することも必要です。

なお、児童の転出がわかった時点から、転出先の学校での学習に少しでも支障が出ないように、できるだけ補習等で補充をする対策をとることが好ましいことはいうまでもないことです。

(2) 単式学級から複式学級へ児童が転入する場合

複式学級の担任は、転入前の学校から履修状況を確認します。特に同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）により指導している教科等については、履修状況と照らし合わせ、未学習が生じないように補習等に対応します。複式学級の担任は、補習の必要な内容について、所属校の管理職に報告します。担任一人に対応するのではなく、必要に応じて校内の教職員で連携し対応することも大切です。

第11章 各教科等における指導のポイント

2つの学年で編制され、少人数構成の複式学級においては、各教科等を指導する場合、様々な課題があります。そして、これらの課題は、その学級により様相が異なり、一般論だけでは解決することは困難です。そのため、教師が一人一人の児童に配慮した指導方法の工夫改善をすることによって、はじめて効果的な学習指導を展開することができます。

参考までに、学習形態、学習過程、教材等、授業について創意工夫を図るうえでのポイントを以下にあげます。その他、巻末にまとめてある参考資料等を十分活用され、複式学級のより良い授業を創造していただきたいと思います。

1 複式学級における国語科指導のポイント

- 国語科は、異単元（学年別指導）、同単元異内容、同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）の3類型から選択されることが多いです。その際、第5章で述べた長所と短所を踏まえて、学校や児童の実態を考慮しながら指導計画を立てていく必要があります。
- 近年、異単元（学年別指導）で指導する学校が増えてきています。特に、第1学年の入門期は、第2学年と異単元（学年別指導）で指導するほうが学習効果が高いと考えられ実践されています。しかし、この場合でも、できるだけ共通のねらいをもたせることで効果的な学習が展開できます。また、学習内容や学級（学校）の実態等を考え、単元によっては同単元による指導計画を立てるということも考えられます。
- 同単元異内容においては、同領域の関連のある教材を組み合わせる一つの単元を構成します。両学年に共通の目標と、学年別の目標とを設定します。課題をつかむ場面や終末部分等を一緒に行ったり、同様の言語活動を行ったり、共通のワークシートを利用したりすることも考えられます。上学年が下学年の学習を振り返ったり、下学年が上学年の学習を参考にしたりする良さもあります。反面、学習活動が全く別になり、同単元指導の意味が薄くなることもあるため、工夫する必要があります。
- 同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）指導においては、学年別の評価規準は設定しません。学年差に配慮して授業をする必要がある場合は、学年別指導あるいは同単元異内容の指導計画を作成しましょう。

2 複式学級における社会科指導のポイント

- 複式学級において、第3・4学年の社会科の教材研究を行う際、教科書が、事例として市街地や都市部の社会現象を多く取り上げている場合が多いことを承知したうえで、教材研究をすすめる必要があります。
- 異単元（学年別指導）で指導計画を立てる場合は、観察、見学、調査等を行おうとする場合の制約を受けるので単調な学習活動に流れやすいといった課題がありますが、学校周辺から、市町村、県、日本全国へとといった空間の広がり等、学年の系統性を大切に展開が可能となります。
- 同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）で指導計画を立てる場合は、学級にまとまった学習の雰囲気を得られ、活動も活発となる利点がありますが、児童の経験や社会的事象について考える力等についていかに調整を図るかが課題としてあげられます。教科書資料の使用等、学年差に応じて十分に配慮されなければ効率のあがる学習にはなり得ません。

3 複式学級における算数科指導のポイント

- 算数科では、異単元（学年別指導）により指導計画を立てるのが一般的です。算数科の場合、系統性が重視されるため、同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）や、同単元異内容（1本案、くりかえし案）で年間指導計画を作成することは難しくなります。しかし、部分的に両学年の内容が共通する単元において、同単元異内容（1本案、くりかえし案）の指導計画を取り入れていくことは可能です。
- 異単元（学年別指導）においては、間接指導の時間における学習内容や学習方法について検討します。算数科においては、間接指導の時間における学習課題にはドリル学習が多く用いられますが、本時の学習の目標とつながる内容であることが必要です。また、ドリル学習も必要ですが、ドリル学習だけが間接指導の内容ではありません。話し合い活動等、児童が主体的・対話的に取り組む学習の方法を検討し、指導過程を工夫することが大切です。
- 異単元（学年別指導）においては、2つの学年をわたらなければならないという意識が強すぎると、教師が一方的に説明を行い、児童の「考える活動」が十分でないケースも出てきます。むしろ、学年別指導を「児童が自ら学習を深める好機」と捉え、教師の説明をできるだけ少なくする一方、児童の考えや表現が見えるようにしたり、ゆさぶる問い返しを行ったりする等、児童同士が互いの意見を伝え合うための教師の関わり方について考えておくことが必要です。

4 複式学級における理科指導のポイント

- 異単元（学年別指導）においては、理科は目標が学年別に示されており、内容の系統性と児童の発達段階を考慮して指導が展開できるという利点がありますが、指導計画の作成、教材研究等で教師の負担が増加したり、実験や観察においても間接指導が必要な場面があることから安全面での配慮が必要となったりします。
- 同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）においては、理科は、観察や実験が学習活動の中心となることから、集中的に教材の研究をすることができ準備も容易になります。また、両学年の児童が互いに協力して、考えを深められるという良さがあります。一方、他教科と同様に、学年差、個人差の大きい学習集団であるという実態を十分認識して、能力差に着目した授業展開をしなければなりません。また、特に理科では、自然を認識していく段階や、内容の順序性等、教材の系統性を見極めた指導が必要となります。
- 同単元異内容（1本案、くりかえし案）は、昭和43年度から昭和54年度にかけて発刊されていた複式学級用の理科教科書で採用されていた年間指導計画で、その間、島根県内の複式学級をもつ学校の多くがこの教科書を採用し、学習指導に活用されていました。同じ領域の学習を、程度を変えて学習するもので、系統的な学習が比較的無理なくでき、技能的なものについてはくりかえして徹底を図ることができるという利点があります。一方、異単元（学年別指導）と同様に、教師の負担が増加したり、同時に異なる実験を行う場合もあり安全面への配慮も必要となったりします。

5 複式学級における生活科指導のポイント

- 複式学級における生活科の指導計画を作成するにあたって、異単元（学年別指導）か、同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）か、同単元異内容（1本案、くりかえし案）かのいずれの指導類型が適切かは一概にいえません。学校や児童の実態に応じて弾力的に取り扱う必要があるでしょう。
- 異単元（学年別指導）では、学年初めの経験差の大きい時期には、学年差に配慮して展開することが

できるという利点があります。また、学年末においては、第1学年は入学してからの1年をふりかえり、新1年生を迎える内容を、第2学年は生まれてから現在までの自分の成長を確かめる内容と、学年別に指導をすることができます。異単元の場合も、合同での発表会を設ける等、学級集団を生かした指導計画となるよう配慮します。

- 同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）においては、活動のまとまりを、A年度とB年度で偏りのないようバランスよく配列する必要があります。また、同単元同内容同程度による年間指導計画であった場合も、第1学年の入門期や年度末の単元は、くりかえしによる単元、または学年別指導による単元にする方法もあるでしょう。
- 同単元異内容（1本案、くりかえし案）においては、毎年飼育栽培活動を行う際には、例えば、飼育については対象にはたらきかけて遊べるものを第1学年で扱い、工夫して育てることができるものを第2学年で扱う、また、栽培については草花を第1学年で扱い、野菜を第2学年で扱うようにする等の工夫をすることもできます。

6 複式学級における音楽科指導のポイント

- 異題材（学年別指導）での指導は、1つの教室の中で学習する児童に、異なる2つの音楽（教材）を同時に提示すると音が重なるため、音楽科では異題材異内容での指導は難しい面が多くあります。
- 同題材同内容同程度（A・B年度方式、2本案）の指導においては、同題材による指導といっても、両学年の学びの差に配慮した指導が必要となります。複式学級であることの利点を生かし、表現や鑑賞の活動において、上学年の音楽表現の工夫や音楽を味わって聴く姿、音楽に親しむ態度等を下学年と共有し、関心や意欲を高めるといった工夫もできるでしょう。
- 同題材同内容異程度（完全1本案、くりかえし案）の指導においては、学習を発展的に行うことにより音楽に対する感性が徐々に身に付いていくので、同じ題材を2年繰り返して設定する際も、それぞれの学年で、学習が積み重ねられるよう、指導する内容や扱う教材を検討する必要があります。

7 複式学級における図画工作科指導のポイント

- 異題材（学年別指導）による指導は、指導計画の作成、教材研究等で教師の負担が大きいことや、図画工作科の場合は、単に題材がそのまま当該学年の学習内容を表しているとはいえないことから、異題材による指導よりも、同題材による指導の方が多く行われているようです。しかし、第1学年の入門期や、第6学年の卒業期においては、異題材で扱われることもあります。彫刻刀等を使用する場合は、安全面での配慮が必要です。
- 同題材同内容同程度（A・B年度方式、2本案）による指導では、学年の差を考え、同じ題材でも学年差や個人差に応じて指導内容に変化をもたせて指導する必要があります。
- 同題材同内容異程度（完全1本案、くりかえし案）による指導では、同じ題材、例えばお話の絵を描く場合は、両学年で異なる目標を設定する等、造形的な能力や態度が児童の発達段階に応じて伸ばされるよう特に配慮する必要があります。

8 複式学級における家庭科指導のポイント

- 異題材（学年別指導）を行う場合は、「B衣食住の生活」の製作実習の領域を組み合わせることにより、調理実習や製作を同じ時間に行うことができ、安全面での配慮がしやすくなります。
- 同題材同内容同程度（A・B年度方式、2本案）による指導では、教師の教材準備の負担が軽減され

る良さがあります。また、第6学年の児童が第5学年の児童にアドバイスすることで、上下学年が1つの学級で学ぶ良さを生かすことができるという利点があります。一方で、内容によっては知識及び技能の系統性の考慮が必要なものがあります。題材によって、同題材異内容（1本案、くりかえし案）による指導をする等、実態に合わせて工夫するとよいでしょう。

- 同題材異内容（1本案、くりかえし案）においては、学年ごとに異なった内容を扱いながら、両学年に共通の目標と、それぞれの内容に即した学年別の目標との2つを設定します。

9 複式学級における体育科指導のポイント

- 保健の内容については、内容の系統性があるものもあるので、同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）、同単元同内容異程度（完全1本案、くりかえし案）どちらで年間指導計画を作成する場合も、領域ごとのまとまりを重視して単元を構成することが大切です。
- 同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）の場合、低学年、高学年と比較して、中学年における運動の学習では学年差が大きいといわれています。また、学年の違いを超えた個人差もかなり見られます。したがって、教師は運動の種別に応じて、学年差を特に重視すべき場合と、学年を超えた能力差・個人差に重点を置く場合との両方を考える必要があります。
- 同単元同内容異程度（完全1本案、くりかえし案）で行う場合は、上学年と下学年で別の評価規準を設定する必要があります。複式学級の良さを生かし、上学年の児童がリーダーとして活躍する場を設定すると、上学年の主体性を伸ばしたり、初めて学習する下学年の活動をより活発にしたりすることができます。

10 複式学級における外国語科指導のポイント

- 外国語科では、外国語活動で培ったコミュニケーションの素地を生かし、コミュニケーションの基礎を築いていきます。外国語活動と同様、同単元同内容同程度（A・B年度方式、2本案）と同単元同内容異程度（完全1本案、くりかえし案）の折衷案で学習が展開できるでしょう。
- 上学年の教科書を扱う際には、下学年に過度の負担とならないように語彙や語句に配慮が必要です。また、音声を通して外国語に慣れ親しむ活動を十分行った上で、文字指導を行うようにします。

11 複式学級における特別の教科 道徳指導のポイント

- 複式学級においては、下学年児童が上学年児童の前でも自分の考えが自由に発言できるような環境づくりを日常的に心がけます。下学年児童の素朴なつぶやきが、目標に迫るうえで有効な場合があります。上下学年の区別なく学び合い、話し合える学級づくりが学校生活全体を通して、また他の各教科等の学習を通して目指されることが大切です。
- 複式学級では、学年別指導ではなく、より人数の多い2つの学年からなる集団で同じねらいを同じ資料を用いて学習している学校が多いようです。指導する際には、下学年に対して資料の漢字の読みや言葉の意味の理解といった面で配慮する必要があります。
- 学年差を考慮し、特に視覚や聴覚に訴える資料を用意すると効果的です。

12 複式学級における外国語活動指導のポイント

- 外国語活動では、コミュニケーションや体験的な理解を大切にしていることから、学年別指導よりも同単元同内容同程度（A・B年度方式・2本案）で行うことで、効果的に学習が展開できるでしょう。

- なお、第3学年の入門期やアルファベット等の基礎的学習内容においては、学年による経験差に応じた同単元同内容異程度（完全1本案・くりかえし案）を取り入れて2年間繰り返し行う等の配慮も必要です。
- このように、「A・B年度方式、2本案」「完全1本案、くりかえし案」の折衷案での実施を通して、コミュニケーションの素地の育成を図っていきます。

13 複式学級における総合的な学習の時間指導のポイント

- 総合的な学習の時間では、学級内でのグループ学習や学級の枠を超えた学習、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となつての指導等、学習形態や指導体制を工夫します。
- 目標を実現するにふさわしい探究課題の設定や、探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力の設定においては、学年段階によって違いが出てきます。設定にあたっては、第3・4学年、第5・6学年と、2学年をひとまとまりとした2段階による設定が実践事例としても多く、現実的な示し方です。

14 複式学級における特別活動（学級活動）指導のポイント

- 複数の学年で構成されていることをよさとして生かし、上学年が下学年をリードしていくのだという意識を大切にし、支えていくような言葉かけをします。
- 学級会等の話し合い活動においては、下学年児童が上学年児童の前でも自分の考えを自由に発言できるような環境づくりを日常的に心がけ、学級をよりよくするための話し合いができるようにします。

第 12 章 各教科等の年間指導計画例

はじめに

本章では、国語科、社会科、算数科、理科、生活科、音楽科、図画工作科、家庭科、体育科、外国語科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の 14 の教科等について、年間指導計画作成の際の留意点や指導にあたっての配慮事項を紹介しています。

本章で取り上げた指導類型や年間指導計画例については、あくまでも、各校で各教科等の年間指導計画を作成するにあたっての参考資料です。それぞれの小学校で、児童の実態や、数年先を見通した学級編制の変動の状況等を考慮したうえで、教育課程を編成してください。

1 国語科

(同単元異内容、異単元、折衷案：同単元異内容・異単元)

1 年間指導計画作成の際の留意点

学年別指導を行う際に大切にしたいことは、国語科の目標を達成するために、児童に付けたい力を明確にした指導を行うことです。そのためには学習指導要領にある指導事項を把握して的確に単元の指導計画に盛り込むことが重要で、どの単元でどの指導事項を指導するのかを明らかにした年間指導計画の作成が必要です。後頁の「マトリックス型指導計画」(→教育用ポータルサイト掲載)を参考にしてください。

国語科の複式教育の学年別指導において主な学習指導の類型は、いわゆる**同単元異内容、異単元**(学年別指導)があります。

- ・同単元…〔思考力、判断力、表現力等〕の領域が両学年そろっていること。

特に「読むこと」については、文章の種類が揃っていること。

〈例〉第3学年(読むこと)「モチモチの木」(文学的な文章)

第4学年(読むこと)「ごんぎつね」(文学的な文章)

- ・異単元…〔知識及び技能〕の事項と〔思考力、判断力、表現力等〕の領域が両学年そろっていないこと。

〈例〉第5学年(話すこと・聞くこと)「伝えたい、心に残る言葉」

第6学年(書くこと)「世界に目を向けて意見文を書こう」

国語科における主な学習指導の類型として上記の2つをあげましたが、そのどちらかが良いというわけではなく、単元や教材の性質、指導時期(例：1年生が平仮名を覚える入門期)によって上記を使い分けたり、同単元異内容及び異単元の折衷案で指導をしたりしながら、国語科の目標達成を図ります。

(1) 同単元異内容

〈例〉第3学年「サーカスのライオン」(文学的な文章)

第4学年「一つの花」(文学的な文章)

○領域・内容の関連を生かして組み合わせた指導を行うことができます。

○単元の課題をつかむ部分やまとめる終末部分をはじめとして、両学年の学習の共通化を図る学習過程を組むことも可能となります。

〈例〉両学年共通の言語活動「詩を読んで感じたことや考えたことが表れるように音読しよう」

第5学年「紙風船」「水のころ」(詩)

第6学年「いま始まる新しいいま」(詩)

○単元がずれ過ぎないようにするために、両学年の進度が同じになるように調節する必要があります。

○同単元異内容であっても、学習過程で両学年の学習の共通化をせずに、異単元と同様の学年別の指導を行うこともできます。

○間接指導時に、自分たちで学習が進められるように学びの方法や手順を身に付けさせておくことや、ワークシートの作成等教材の工夫が必要です。

(2) 異単元（学年別指導）

〈例〉第1学年「かたかなをかこう」（書くこと）

第2学年「絵を見てお話を作ろう」（書くこと）

- 単式学級と同じような指導過程をとることが基本となります。
- 転出入する児童への配慮や漢字の学習、テスト等への配慮が軽減されます。
- 異なる単元の教材研究や、異なる1単位時間の指導過程をとることが必要となり、直接指導や間接指導の組合せが複雑になります。
- 間接指導時に、自分たちで学習が進められるように学びの方法や手順を身に付けさせておくことや、ワークシートの作成等教材の工夫が必要です。

(3) 同単元異内容と異単元の折衷案

- 上記(1)(2)のいずれかで指導方法を固定するというのではなく、例えば第1年生が平仮名を習得する入門期までは異単元で学習し、その後は同単元異内容で学習する指導形態に変える等、児童が学びを広げたり深めたりしながら国語科の目標を達成できるようにします。後頁に「低学年国語科(同単元異内容)年間指導計画(例)」を示しています。
- 学習効果を生み出すために、現在多くの教科書会社で同単元異内容の単元配列が示されています。

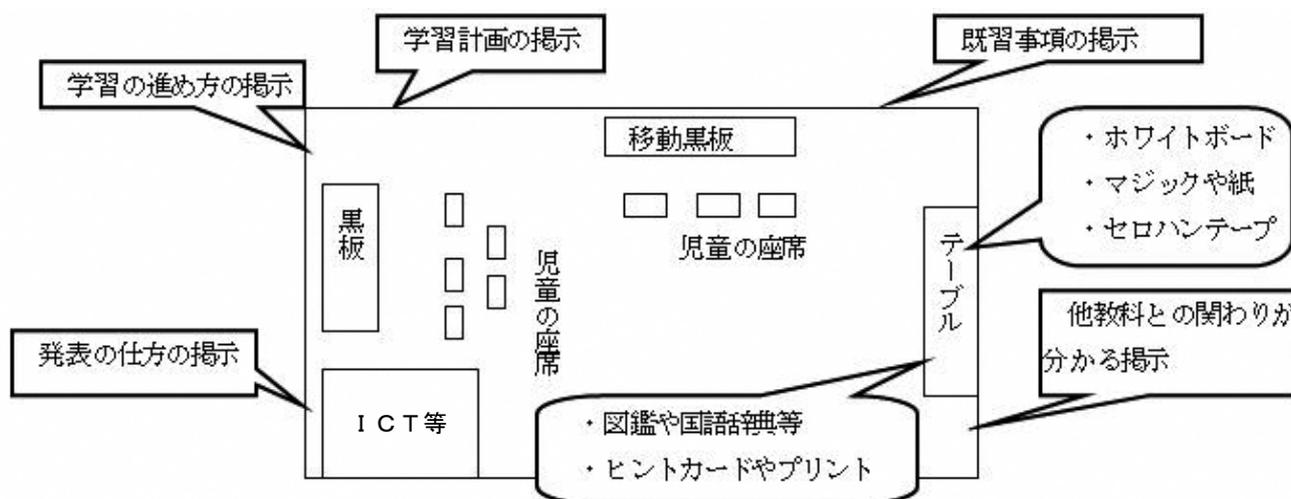
2 指導にあたって

第7章 学年別指導における学習指導方法、第8章 複式学級の指導と評価、第9章 複式学級における学習指導方法の工夫・改善を踏まえ、授業の前・中の指導にあたっての配慮事項を紹介し、児童の実態や今後の学級編制の変動等を考慮し、参考にしてください。

(1) 授業の前に

【学習環境の整備】

学年別指導を効果的に行うためには、黒板（移動黒板、小黒板、ホワイトボード等）や座席の位置、壁面の利用、教具の準備等、教室内の学習環境を整えていくことが大切です。



【学習の見通し】

学年別指導では間接指導の時間が多くなるため、児童だけで学習の見通しをもって話し合いができ、ねらいが達成できるような授業展開を考えます。学習課題を質、量ともにしっかり吟味し、学習内容の精選、話題の焦点化を行い、学習課題やその時間の活動を黒板等に掲示する等して児童に見通しをもたせます。

(2) 授業の中で

【「ずらし」を入れるには】

課題把握の場面や、その時間の中で最も力を入れて考えを深めていきたいところで直接指導が行えるよう、「ずらし」による指導を行います。その際、もう一方の学年への間接指導は、児童の主体的な学習となるよう配慮する必要があります。

【間接指導時の支援】

課題追究の場面における間接指導では、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「ガイド学習」を設定したり、ワークシートを準備したりして支援します。

既習事項を生かしながら課題に対する自分の考えをもつことができるよう教室掲示とともにノートや黒板等を有効に活用することが大切です。その際、児童一人一人の学習過程を把握するために、一人一人がどのように思考し判断したのか、最終的にどのような考えの形成をしたのか、あるいは学習中にどのような疑問をもったのかということ等が残されていると、指導や支援、評価に生かすことができます。

【話し合い活動の充実】

少人数での話し合い活動が充実するためには、段階的に聞く力を付けていくことも大切です。教師が話し合いに参加できるよう学習過程を工夫し、児童の立場で提案をしたり別の意見を出したりする等して、児童が考えをまとめたり広げたりすることができるよう展開を工夫することも大切です。

【学習のまとめ・振り返り】

全員で黒板を活用しながら、本時の学習をまとめることも一つの方法です。

振り返りも、自己評価のほかに、互いの学びを伝え合ったり異学年による相互評価を行ったりすること等も効果的です。

低学年国語科（同単元異内容）年間指導計画例

I：同単元異内容で学年別指導を行う扱い、II：同単元異内容で一部一斉に行う扱い、
 III：同単元同内容同程度で学年別指導を行わない扱い、IV：I～IIIに当てはまらない扱い

月	1年 単元名・教材名	時数	2年 単元名・教材名	時数	取扱い
4	さあはじめよう（読） よろしくね（話聞）	2 1	すきなこと、なあに（話聞）	3	III
	ひととつながることば（話聞） こえをとどけよう（話聞） えんぴつをつかうときにたしかめよう（言葉） かいてみよう（言葉） あいうえおのうた（言葉） あいうえおのことばをあつめよう（言葉）	2 1 1 1 2 3	いくつあつめられるかな（書） ○お話を音読しよう（読） 風のゆうびん屋さん	2 10	IV
	ほんがたくさん（読書） としょかんはどんなところ（読書）	1 1	としょかんへ行こう（読書）	2	III
	あめですよ（読） や°がつくじ（言葉） ぶんをつくろう（書） みんなにはなそう（話聞） さとうとしお（読） はをつかおう（書） をへをつかおう（書） きいてつたえよう（話聞）	4 3 2 4 4 1 2 3	かん字の書き方（言葉） ○たんぼほのみみつを見つけよう（読） たんぼほ こんなことをしているよ（書） 外国の小学校について聞こう（話聞）	3 10 7 4	IV
6	とんこととん（読） ちいさいっ（言葉） ことばあそび（言葉）	6 3 3	○声やうごきであらわそう（読） 名前を見てちょうだい	12	II
	あひるのあくび（言葉） のばすおん（言葉） どうやってみをまもるのかな（読） ちいさいやゆよ（言葉） こんなことしたよ（書） かぞえうた（言葉）	4 3 6 3 4 5	かんさつしたことを書こう（書） かたかなで書くことば（言葉） ことばで絵をつたえよう（話聞） ○文しょうのちがいを考えよう（読） サツマイモのそだて方	6 3 5 12	IV
7	おおきなかぶ（読） えにつきをかこう（書）	6 5	言いつたえられているお話を知ろう（伝統） 本は友だち（読書）	6 4	IV
9	あるけあるけ／おおきくなあれ（読）	3	しを読もう（読） いろんなおとのあめ 空にぐうんと手をのばせ	3	II
	はなしたいなききたいな（話聞） ことばあそびうたをつくろう（書）	5 6	うれしくなることばをあつめよう（話聞） はなたいのいみのことば（言葉）	8 2	II
	かいがら（読） かんじのはなし（言葉）	6 5	○気持ちを音読であらわそう（読） ニャーゴ	12	IV
10	○おはなしをよもう（読） サラダでげんき かたかなをかこう（言葉） ほんはともだち（読書）	10 3 2	絵を見てお話を書こう（書） にたいみのことば（言葉） 主語とじゅつ語（言葉）	10 3 3	IV
	なにに見えるかな（話聞） よう日と日づけ（言葉） はっけんしたよ（書）	6 3 8	あそび方をせつ明しよう（書） おくりがなに気をつけよう（言葉） 「ありがとう」をつたえよう（書）	7 3 5	IV
11	○のりもののかたちをしらべよう（読） いろいろなふね まとめてよぶことば（言葉）	13 3	○どうぶつのみみつをさぐろう（読） ビーバーの大工事	15	II
	すきなきょうかはなあに（話聞）	5	たからものをしょうかいしよう（話聞）	7	II
	ことばであそぼう（言葉） おもい出してかこう（書）	3 9	なかまになることば（言葉） 同じところ、ちがうところ（書）	3 5	I II
12	○こえに出してよもう（読） おとうとねずみチロ すきなおはなしはなにか（読）	12 7	○読んだかんそうをつたえ合おう（読） お手紙 どんな本を読んだかな（読）	12 6	II
1	○しをよもう（読） みみずのたいそう むかしばなしをたのしもう（伝統） おはなしをかこう（書） かたかなのかたち（言葉） かたちのにているかん字（言葉）	2 6 9 3 3	○むかし話をしょうかいしよう（読） かきこじぞう 声に出してみよう（言葉） おばあちゃんに聞いたよ（伝統）	14 3 6	IV
	○くらべてよもう（読） 子どもをまもるどうぶつたち	14	○あなのやくわりを考えよう（読） あなのやくわり	14	II
2	ことばをあつめよう（言葉）	3	ことばを広げよう（言葉）	5	I
	○すきなところを見つけよう（読） スイミー	12	この人をしょうかいします（書）	10	IV
3	小学校のことをしょうかいしよう（話聞）	7	すきな場しよを教えよう（話聞）	7	II
	一年かんをふりかえろう（書）	7	「ことばのアルバム」を作ろう（書）	7	III

高学年国語科（異単元、折衷案：同単元異内容）年間指導計画例

I：同単元異内容で学年別指導を行う扱い、II：同単元異内容で一部一斉に行う扱い、
 III：同単元同内容同程度で学年別指導を行わない扱い

月	5年 単元名・教材名	時数	6年 単元名・教材名	時数	取扱い
4	この言葉、あなたならどう考える（話聞） 事実と考えを区別しよう（書）	2 2	気持ちよく対話を続けよう（話聞） 原因と結果に着目しよう（書）	2 2	III
	○人物の思いを音読で伝えよう（読） だいじょうぶ だいじょうぶ ・国語のノート作り方 図書館へ行こう（読書）	4 2	○朗読で表現しよう（読） サボテンの花／生きる ・国語ノートの作り方 図書館へ行こう（読書）	4 2	I III
5	○筆者の伝えたいことをまとめよう（読） 動物たちが教えてくれる海の中の暮らし	7	○筆者の論の進め方を確かめよう（読） イースター島にはなぜ森林がないのか	7	I
	漢字の成り立ち（言葉）	2	さまざまな熟語（言葉）	2	I
	知りたいことを聞き出そう（話聞）	4	友達の意見を聞いて考えよう（話聞）	4	II
6	環境問題について報告しよう（書）	7	防災ポスターを作ろう（書）	7	III
	○山場で起こる変化について考えよう（読） 世界でいちばんやかましい音	7	○人物どうしの関係を考えよう（読） 風切るつばさ	7	I
	文の組み立てを捉えよう（言葉） ・ことばあつめ	2	複合語（言葉） ・ことばあつめ	2	I
7	○書き手の意図を考えよう（読） 新聞記事を読み比べよう	7	○インターネットの議論を考えよう（読） インターネットの投稿を読み比べよう	7	I
	本は友達（読書）	2	本は友達（読書）	2	III
9	詩を読もう（読） 紙風船／水のこころ	2	詩を読もう（読） いま始まる新しいいま	2	III
	問題を解決するために話し合おう（話聞） ・生活の中の言葉	6	話し合って考えを深めよう（話聞） ・生活の中の言葉	6	III
	敬語の使い方（言葉）	2	場面に応じた言葉づかい（言葉） ・言葉は変わる	2	III
10	○物語のおもしろさを解説しよう（読） 注文の多い料理店	8	○物語を読んで、考えたことを伝え合おう（読） 海のいのち	8	I
	古文に親しむ（伝統）	3	漢文に親しむ（伝統） ・日本の文学	3	I
11	○和の文化について調べよう（読・書） 和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる ・さまざまな資料を活用しよう	13	○町の未来をえがこう（読・話聞） 町の幸福論ーコミュニティデザインを考える ・情報を活用するとき気をつけよう	13	I
	伝えたい、心に残る言葉（話聞）	5	伝えたい、心に残る言葉（話聞）※5年教材	5	III
	和語、漢語、外来語（言葉） ・話し言葉と書き言葉	2	文と文とのつながり（言葉）	2	I
	○朗読で表現しよう（読） 大造じいさんとがん	8	○関連する作品を読んで、すいせんしよう（読） ヒロシマのうた	8	I
12	反対の立場を考えて意見文を書こう（書） ・文章の種類	7	世界に向けて意見文を書こう（書） ・目的や意図に応じた書き方	7	I
	友達といっしょに、本をしょうかいしよう（読）	2	読書とわたし（読）	2	III
1	古文のえがく四季（伝統）	3	いにしえの言葉に学ぶ（伝統）	3	I
	心が動いたことを三十一音で表そう（書）	4	心が動いたことを十七音で表そう（書）	4	III
	熟語を使おう（言葉） ・ことばあつめ	2	表現をくふうする（言葉） ・ことばあつめ	2	I
	○テクノロジーの進歩について考えよう（読） 「弱いロボット」だからできること	8	○さまざまな生き方について考えよう（読） プロフェッショナルたち	8	I
2	日本語と外国語（言葉）	4	言葉の学習をふり返る（言葉）	4	III
	資料を見て考えたことを話そう（話聞）	5	「卒業文集」を作ろう（書）	5	応 実 じ 態 て に
3	○伝記を読んで感想文を書こう（読） 手塚治虫 「わたしの文章見本帳」を作ろう（書）	7 4	聞いてほしい、この思い（話聞） ○未来に向かって（読） 君たちに伝えたいこと／春に	5 4	

2 国語科

(折衷案：同単元同内容同程度・異単元)

同一教材を用いるため、児童は多様な読みの交流ができ、異学年や多くの人数で学ぶ良さを味わうことができます。

学習指導要領において各学年の目標と内容が2学年まとめて示されているのは、児童の発達の段階や中学校との関連に配慮しつつ、児童や学校の実態に応じて各学年における指導内容を重点化し、十分な定着を図ることが大切であるということからです。「思考力、判断力、表現力等」に関する目標には、考える力や感じたり想像したりする力を養うこと、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思いや考えをもつこと等ができるようにすることが系統的に示されています。

1 年間指導計画作成の際の留意点

同一年度に一方の学年の教材が偏らないよう配慮し、ほぼ均等に振り分けます。その際、各領域の指導時数にも配慮する必要があります。

(1) 年間授業時数について

「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間35単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当します。

「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当します。

(2) 内容の取扱いについて

低学年の入門期は学年別指導が考えられます。「低学年国語科（同単元異内容）年間指導計画（例）」が参考になります。

第3学年におけるローマ字の指導に当たっては、総合的な学習の時間における、コンピュータで文字を入力する等の学習との関連が図られるよう、指導する時期や内容を意図的、計画的に位置付けることが重要です。漢字の読みについては当該学年に配当されている漢字の音読みや訓読みができるようにすること、書きについては2学年間という時間をかけて確実に書き、使えるようにすることを目指します。なお、第6学年に配当された漢字の書きについては当該学年において漸次書き、文や文章の中で使うとともに、中学校の第2学年までの間で確実に身に付け、使えるようにします。

(3) 「マトリックス型指導計画」の作成

「マトリックス型指導計画」（→教育用ポータルサイト掲載）を作成し活用すると、系統的な指導につながります。単元の入替えをする場合にも、指導に偏りが出ないように、年間を見通して確認しながら修正することができます。

2 指導にあたって

学年差や個人差に応じたきめ細かな指導の充実を図るため、学習の手引きや個別に配慮したワークシートの作成等が必要となります。

(1) 弾力的な指導について

児童の発達や学習の状況に応じて、学習のねらいや児童の興味・関心を考えながら計画を立てる必要があります。その際、各学年の内容に基づきながらも、その前の学年において初歩的な形で取り上げたり、後の学年において程度を高めて取り上げたりして指導することも考えられます。また、児童の言語能力が螺旋的に高まるよう、各学年の学習指導を孤立させず、児童の発達の段階を見通して目標の系統性を保ちながら柔軟かつ弾力的な運用を図り、系統化した効果的な指導がなされるよう計画を立てていくことが大切です。

(2) 〔知識及び技能〕の指導について

〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項を通して指導することを基本としています。指導の効果を高めるために、特定の事項を取り上げて繰り返し指導したり、まとめて単元化して扱ったり、学期や学年を超えて指導したりすることもできます。

(3) 〔思考力、判断力、表現力等〕の指導について

「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、他教科等の学習や学校の教育活動全体の中で、学習したことを使う機会がもてるよう、意図的、計画的に位置付けることが重要です。また、児童の発達や学習の状況に応じて、ICT機器を活用する等音声言語のための教材を活用する等して指導の効果を高めるよう工夫することもできます。

「B書くこと」に関する指導については、書くことに関する資質・能力が確実に育成できるように、実際に文章を書く活動を多くすることが必要です。

「C読むこと」に関する指導については、指導事項や指導事項に係る学習用語の系統性を理解した上で、当該単元で付けたい力を明確にすることが重要です。その場合、下学年の学習内容が増えることや両学年の評価規準が同じものになることに留意します。

〈例〉第3学年「自然のかくし絵」（説明的な文章）段落ごとの内容を捉えながら読む。

第4学年「ヤドカリとイソギンチャク」（説明的な文章）段落どうしの結びつきを考えて読み、文章のまとまりを捉える。

下学年の負担を軽減したい場合は、学年別指導をすることも考えられます。

〔知識及び技能〕の「読書」に関する事項との関連を図り、学校図書館等を利用して様々な本等から情報を得て活用する児童の日常の読書に結び付くようにすることが重要です。

3 評価について

学年別の評価規準は設定しません。学年差に配慮して授業をする必要がある場合は、学年別指導あるいは単元異内容の指導計画を作成しましょう。

3 社会科

(異単元)

1 異単元による年間指導計画作成の際の留意点

小学校社会科は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指している教科です。学校や地域、児童の実態を十分に把握したうえで、へき地・小規模の複式学級の特性を生かした弾力的な年間指導計画を作成する必要があります。

(1) 地域の実態に即し、へき地の特性を生かした社会科学習

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説社会編、教科書、副読本、地域に関する資料等を研究し、地域の調査や地域の方からの聞き取り等の地域の実態把握を行い、地域を素材とした教材開発に取り組みます。その際、前年度までの各学校における実践を踏まえ、単元の目標を達成するうえでより優れた教材となるよう努めます。特に第3学年、第4学年においては自分たちの住んでいる地域社会について学習することから、地域の素材を積極的に教材化して年間指導計画に位置付けます。

(2) 観察や見学、聞き取り等の調査活動を含む具体的な体験を伴う学習やそれに基づく表現活動の一層の充実

観察や見学、聞き取り等の調査活動を含む具体的な体験を伴う学習やそれに基づく表現活動を指導計画に適切に位置付けて効果的に指導することにより、具体的な体験を伴う学習や表現活動の一層の充実を図ります。具体的な体験を伴う学習を指導計画に適切に位置付けて効果的に指導するためには、まず、社会科としてのねらいを明確にすることが必要です。

校外で学習する場合は、校外での学習を重ねて2つの学年で一緒に出かけるような組合せ、重ねないようにして別々に出かけるような組合せ等、地域や学校の実態を踏まえて工夫します。学校図書館や公共図書館、コンピュータ等を活用して、様々な情報を集めることに重点を置く方法もあります。

<一緒に出かける組合せ例>

○第3学年「市の様子」と第4学年「ごみのしよりと利用」

※ 組み合わせて出かけた後、作成した白地図や地図、資料を用いて、互いの気付きや発見を意見交流することもできます。

校外に出かける場合、校内の協力体制を構築するとともに、保護者・地域からの協力を得ることが重要です。その体制については年度当初に全教職員で共通理解をしておきます。

(3) 2つの学年の単元の組合せ

効果的な指導ができるように学習内容を比較検討し、単元の組合せを工夫します。共通のキーワードを取り上げ異学年の学習を関連付けて指導することもできます。同学年の考え方の共有だけでなく、1時間の終末や単元のまとめ等の時間において学びを共有することで異学年同士の考え方の共有も期待できます。

＜関連付けて指導する組合せ例＞

○第5学年「環境を守るわたしたち」と第6学年「世界の未来と日本の役割」

※ 単元を組み合わせ、「環境」という共通の視点（キーワード）で関連付けて指導することもできます。

(4) 学校図書館や公共図書館、コンピュータ等通信機器の活用

実際に観察や調査・見学などの体験的な学習ができない場合は、学校図書館や公共図書館、コンピュータ等通信機器を活用し、様々な情報が得られるように工夫します。また、インターネットを介したメールや映像のやり取り、テレビ会議システム等による情報のやり取りを通して、他校とつながりをつくり、交流して考えを深めることができるようにします。

さらに調べたことや考えたことを分かりやすく伝える発信能力を育てます。

2 異単元の指導にあたって

(1) 授業の前に

- 主体的な社会科学習を支える環境づくりの一環として「社会科学習コーナー」等を設置する案もあります。
- 学年用移動黒板（ホワイトボード）等を設置したり、事前に学習の流れを示したりして、授業がスムーズに進められるようにします。また、小黒板（ホワイトボード）や発表ボード、画用紙等、間接指導時における個の学習活動や学年（グループ）での話し合い活動を支える教室内の諸準備をします。
- ワークシートを有効に活用することによって、学習課題が明確になり、学習すべき内容がわかりやすくなります。特に間接指導時に調べ学習をする場合は、ワークシート等を用意し、資料を調べて分かったことや考えたこと、疑問に思ったこと等を書き込めるようにします。

(2) 授業の中で

- 学習の成果を自分の言葉でノートに書き表したり、絵やイラスト、新聞等にまとめたりする等、多様な方法で表現する活動を取り入れるとともに、少人数であることを生かして、それらの相互交流を工夫します。
- 児童の自主的、主体的な学習活動にしていくために社会科においてもガイド学習を取り入れることができます。全ての児童がガイド役をするようにし、学習の流れや進め方を体験的に学べるようにします。
- 1単位時間における両学年の学習内容を検討したうえで、教師の関わり方を工夫します。一方の学年に直接指導をする場合も、間接指導となるもう一方の学年の児童が課題をしっかりと理解したうえで、

解決しようという意識と意欲をもって主体的な活動ができるように教材や学習形態を工夫します。場合によっては、同時間接指導を取り入れ、児童がそれぞれ主体的に学習を進められるようにします。

- 自分の力で解決したことを集団での思考により確認したり深めたりする学びを大切にします。児童が話し合うような場面に教師が直接指導で関わる場合、間接指導となるもう一方の学年の児童が自主的・主体的に学習活動に取り組み、自ら学び、自ら考える時間になるように、学習課題を明確に示すとともに、どうなったらゴールなのか具体的なイメージを示し確認します。
- 間接指導の時間に児童にとって重要なことがわからないときは、できるだけ学年集団の中で解決できるように指導しますが、解決できないときは間接指導中であっても教師の助けを求めるように指導しておきます。「どうしてもわからないときは手をあげて。」と指導するのも1つの方法です。教師には児童が課題を把握することのできる的確な指示を出したり、学習をスムーズに進めていくことのできるワークシートを用意したりすること等が求められます。
- 社会科では調べたり、調べたことを発表したりする学習活動を組むことが多くあります。その際、上学年と下学年が関わり合うような学習活動を展開することにより、社会的事象の見方・考え方をより働かせていくことにつながります。特に学習する内容が身近なところから外へ広がっていく中学年においては効果的です。
- ノートや小黒板（ホワイトボード）、ワークシート等に学習したことをしっかり書いて記録に残すことは学習の効果をあげるだけでなく、教師が一人一人の学習状況を把握するうえでも重要です。特に間接指導時に言葉で直接聞くかわりに、間接指導中の記録をノートや小黒板（ホワイトボード）、ワークシート等を書くように指導します。それぞれの特徴を踏まえ、場面や活動によって使い分けます。
- 直接指導を効率的に行い、間接指導を効果的に進めるために、コンピュータ、TV、電子黒板、実物投影機等のICT機器の活用を図ります。
- 複式学級の指導では児童数が少ないことから、評価したことをその場で児童に伝えることができます。自らの伸びを実感できるような言葉かけを授業の中で行います。

(3) 授業の後で

- 複式学級ならではの少人数を生かし、学習指導後の記憶の鮮明なうちに評価の記録を整理し、蓄積していきます。そして、児童一人一人の学習状況について、それぞれの学年の評価規準をもとに確認し、次時の指導計画を修正します。
- 年間指導計画・単元指導計画についての成果や課題を明らかにし、授業の改善を図ります。

中学年社会科（異単元）年間指導計画（例）

月	3年			4年		
	単元名	時数	小単元名	単元名	時数	小単元名
4	わたしのまち みんなのまち	1	・導入（オリエンテーション）	わたしたちの 県	1	導入（オリエンテーション）
5		3	○学校のまわり		2	○日本地図を広げて
6	はたらく人とわたしたちの 暮らし	12	1 市の様子	住みよいくらしを つくる	8	1 県の広がり
7		1	・導入（オリエンテーション）		1	導入（オリエンテーション）
9		11	1 農家の仕事／工場の仕事 *選択	11	1 水はどこから	
10		16	2 店ではたらく人	12	2 ごみのしよりと利用	
11	くらしを守る	1	・導入（オリエンテーション）	く自然災害から 暮らしを守るから	1	導入（オリエンテーション）
12		7	1 火事からくらしを守る		9	1 地震からくらしを守る
1	市のうつりかわり	7	2 事故や事件からくらしを守る	きょう土の伝統・ 文化と先人たち	1	導入（オリエンテーション）
2		1	・導入（オリエンテーション）		9	1 残したいもの 伝えたいもの
3		10	1 市の様子と人々のくらしのうつりかわり		12	2 谷に囲まれた台地に水を引く
	合計時数	70		合計時数	90	

高学年社会科（異単元）年間指導計画（例）

月	5年			6年		
	単元名	時数	小単元名	単元名	時数	小単元名
4	わたしたちの国土	1	導入（オリエンテーション）	わたしたちの生活と政治	1	導入（オリエンテーション）
		4	1 世界の中の国土		6	1 わたしたちのくらしと日本国憲法
		3	2 国土の地形の特色		4	2 国の政治のしくみと選挙
5		5	3 低い土地のくらし／高い土地のくらし *選択		8	3 子育て支援の願いを実現する政治／震災復興の願いを実現する政治 *選択
		3	4 国土の気候の特色			
	4	5 あたたかい土地のくらし／寒い土地のくらし *選択				
6	わたしたちの食料生産	1	導入（オリエンテーション）	日本の歴史	2	導入（オリエンテーション）
7		4	1 くらしを支える食料生産		7	1 縄文のむらから古墳のくにへ
		8	2 米づくりのさかんな地域		6	2 天皇中心の国づくり
9		7	3 水産業のさかんな地域		3	3 貴族のくらし
		5	4 これからの食料生産とわたしたち		6	4 武士の世の中へ
	10	1	導入（オリエンテーション）	3	5 今に伝わる室町文化	
	わたしたちの生活と工業生産	3	1 くらしを支える工業生産	6	6 戦国の世から天下統一へ	
		7	2 自動車をつくる工業	6	7 江戸幕府と政治の安定	
11		5	3 工業生産を支える輸送と貿易	5	8 町人の文化と新しい学問	
		5	4 これからの工業生産とわたしたち	7	9 明治の国づくりを進めた人々	
12	社会と産業の発展	1	導入（オリエンテーション）	6	10 世界に歩み出した日本	
		6	1 情報産業とわたしたちのくらし	7	11 長く続いた戦争と人々のくらし	
1		5	2 情報を生かす産業	8	12 新しい日本、平和な日本へ	
	わたしたちの環境	4	3 情報を生かすわたしたち			
2		1	導入（オリエンテーション）	世界の中の日本	1	導入（オリエンテーション）
		5	1 自然災害を防ぐ		7	1 日本とつながりの深い国々
	6	2 わたしたちの生活と森林	6		2 世界の未来と日本の役割	
3		6	3 環境を守るわたしたち			
	合計時数	100		合計時数	105	

ポイント① 米をキーワードにして関連した指導を行うこともできる。

ポイント② 環境をキーワードにして、関連した指導を行うこともできる。

4 社会科

(同単元同内容同程度)

1 同単元同内容同程度（A・B年度方式）による年間指導計画作成の際の留意点

同単元同内容同程度の学習指導においては、社会科の特質から考えて、

- ・同内容で学習することから、異単元による学年別指導と比較して、教材・教具、資料の準備、教育機器による学習活動が容易である。
- ・校外に見学に出かけることが多いが、見学・調査・観察などの学習活動が2学年で一緒にできる。

といったよさがある一方で、指導の中で、学年差に応じた指導をどのようにするかという課題を考慮して年間指導計画を考える必要があります。

(1) 中学年の年間指導計画作成の際の留意点

○対象地域の拡大に考慮する

中学年の内容では、地理的概念を自分の住んでいる身近な地域から市町村、都道府県へと拡大させていくような形で構成されていることに留意し、A年度・B年度ともに校区等を学習対象とする単元から始めて、広域市町村や県全体を学習対象とする単元に広がるように配慮します。

○単元を配列する際の留意点

例えば、表1のように内容別に単元を配列する場合、各内容は分割せず、各年度の前半に身近な単元を、後半に歴史的・地理的認識を広げる単元を配分します。各年度の中の順序性は問題なく、1単元にじっくり取り組める一方、県全体の学習を終えた後で学校の周りの学習をする学年があると同時に、転出・転入に対応できにくい問題があります。また、学習指導要領の改訂等により、年間指導計画を改訂する必要が生じる場合もありますが、前年度までの継続性に留意する必要があります。

表1 内容別に配列する型

A年度	B年度
3年 内容(1) 身近な地域や市町村の様子	3年 内容(2) 地域に見られる生産や販売の仕事
3年 内容(3) 地域の安全を守る働き	3年 内容(4) 市の様子の移り変わり
4年 内容(2) 人々の健康や生活環境を支える事業	4年 内容(1) 都道府県の様子
4年 内容(4) 県内の伝統や文化、先人の働き	4年 内容(3) 自然災害から人々を守る活動
	4年 内容(5) 県内の特色ある地域の様子

また、小学校学習指導要領解説社会編に2つの事例を取り上げていくことが示されている場合、内容を独立させて2年間に分割して扱うことが可能です。その際には、両年度で扱う内容について、難易度のバランスや系統性、地域の実情に配慮して指導計画を作成します。どの内容を分割して扱えるかは地域の実態によって大きく異なります。地域や学校の特色を把握しながら検討を加えていくことが大切です。一部の内容を2分割し配列すると、例えば表2のようになります。この計画により各年度の内容のバランスや低・高学年との接続の点で問題が少なくなります。一方で各年度の単元数が多く、細切れの学習になります。同時に様々な内容の配列パターンが可能になります。

表2 一部の内容を2分割する型(例)

A年度	B年度
3年 内容(1) 身近な地域の様子	3年 内容(1) 自分たちの市町村の様子
3年 内容(2) 地域に見られる生産の仕事	3年 内容(2) 地域に見られる販売の仕事
3年 内容(3) 地域の安全を守る働き(火災)	3年 内容(3) 地域の安全を守る働き(事故)
3年 内容(4) 市の移り変わり	
4年 内容(1) 都道府県の様子	
4年 内容(2) 人々の健康や生活環境を支える事業(飲料水、電気、ガス)	4年 内容(2) 人々の健康や生活環境を支える事業(廃棄物)
	4年 内容(3) 自然災害から人々を守る活動
4年 内容(4) 県内の伝統や文化	4年 内容(4) 県内の先人の働き
4年 内容(5) 県内の特色ある地域の様子 (伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域)	4年 内容(5) 県内の特色ある地域の様子 (国際交流に取り組んでいる地域、地域の資源を保護・活用している地域)

(2) 高学年の年間計画作成の際の留意点

○中学年から接続、中学校への接続について配慮する

中学年の地域中心の学習から高学年の我が国の国土や政治の学習への接続、中学校の社会科学習に移行することについて十分に念頭におきます。特に、第5学年で歴史を学習する学年に対して、国土の位置や地理的環境について触れる機会を設けたり、第6学年時に公民的・歴史的内容について振り返る時間を設定したりするなどの配慮が必要です。また、中学年時に下学年で県の学習をしていた場合に、都道府県の位置や名称についての定着度合に留意する必要があります。

○単元を配列する際の留意点

県内の高学年の複式学級においては、多くの学校がA・B年度方式で年間指導計画を作成しています。県内で多くとりあげられている方法ですが、第5学年で第6学年の内容を学習した児童が転出した場合、また、第6学年の児童が第5学年の内容を学習する複式学級に転入した場合、児童は1年間で2年分の内容を学習する必要があります。転出入児童及び受け入れる学校への負担が非常に大きい単元配列であることを十分留意する必要があります。

また、分割して配列することは可能ですが、我が国の歴史の内容を分割すると時代の流れに沿って継続的に学習することが困難である上に、我が国の歴史についての学習の後半から学習を始めて前半へと移行させる学年が生じることに留意します。

分割を検討する際には、両年度に配分された学習内容が、原則的には第5学年の単元が年度前半に、第6学年の単元が後半に配置されるよう留意する必要があります。例えば、第5学年の単元の一つを、歴史的学习を中心に行う年度の始めに移動し、第6学年の公民単元を、地理的学习を中心に行う年度の終わりに移動することで負担を減らすことも考えられます。

2 同単元同内容同程度の指導にあたって

○中学年では、下学年で身近な地域や市町村の学習を扱わない場合には、白地図で表す活動や地図記号を扱う活動を学習の中に適宜取り入れる必要があります。

○中学年の内容について、学校がへき地に位置している場合は、次の例のようなへき地の利点を活用して指導することも考えられます。

3年 内容 (1)…地域の地形に特色があり、土地利用の様子、生活と自然環境との関係性が捉えやすい。

3年 内容 (2)…ほとんどの家庭に車があり、スーパーマーケットに行った経験があるので、地域内の商店を利用した消費生活と市街地の大規模店舗を利用した消費生活との違いを明確に見つけやすい。移動販売車などの特色ある教材がある。地元の自然条件を生かした生産活動が多い。

3年 内容 (3)…消防署や警察署が遠い場合に、消防団や駐在所の働きをとりあげることができる。

3年 内容 (4)…古い道具が地域に残っていたり、昔の生活の様子を聞くことも容易であったりする。

4年 内容 (2)…湧水や地下水などを利用した給水が多く、ダムや浄水場を利用した給水と比較しやすい。

- 高学年では、内容が抽象的・概念的な理解を求めるものになりやすいので、できるだけ具体的な事例や事象をとらえて、実証的な学習をしていきます。児童の個々の能力が育成され、主体的な理解が得られるよう、指導計画作成の際にも、「産業」「政治」「歴史」「世界」の学習が、児童の身近な事象や人々のくらしと結びついた具体的な学習になるよう計画します。
- 第5学年で我が国の歴史についての学習を扱う場合に、日本全体や世界を視野に入れて考える視点、国土の自然条件や社会条件から考える視点、日本の産業や環境の現状についての理解などの面で、第6学年との差があることを考慮して、授業の中での支援を考える必要があります。
- 目標の考え方については、単元目標を両学年共通の目標として設定します。それに基づいて評価規準も設定します。しかし、2学年を同時に指導するにあたっては、目標や評価規準を一人一人に照らして、個別に指導を工夫していくことが大切になります。

中学年社会科（同単元同内容同程度）年間指導計画（例）

【内容別に配列する型】

B年度は、3年生が県を対象とした内容を学習するため、発達段階を踏まえた工夫が必要となる。

月	A年度		B年度	
	時数	単元	時数	単元
4	3	わたしのまち みんなのまち（3年） ○学校のまわり	11	市のうつりかわり（3年） 1 市の様子と人々のくらしのうつりかわり
5	9	1 市の様子		
6	8	くらしを守る（3年） 1 火事からくらしを守る	2	わたしたちの県（4年） ○日本地図を広げて
7	7	2 事故や事件からくらしを守る	8	1 県の広がり
9	13	住みよいくらしをつくる（4年） 1 水はどこから	6	特色ある地いきと人々のくらし（4年） 1 美しい景観を生かすまち（地域の資源を保護・活用している地域:自然環境）／古いまちなみを生かすまち（地域の資源を保護・活用している地域:伝統的な文化） *選択
10	13	2 ごみのしよりと利用	13	はたらく人とわたしたちのくらし（3年） 1 農家の仕事／工場の仕事 *選択
11	13	2 ごみのしよりと利用	13	2 店ではたらく人
12	12	きょう土の伝統・文化と先人たち（4年） 1 残したいもの 伝えたいもの	11	自然災害からくらしを守る（4年） 1 地震からくらしを守る
1	15	2 谷に囲まれた台地に水を引く	8	特色ある地いきと人々のくらし（4年） 1 すずりをつくるまち（伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域）
2			8	2 国際交流に取り組むまち（国際交流に取り組んでいる地域）
3				
合計時数	80		80	

*時数が2学年合計して、160時間になるように設定している。

中学年社会科（同単元同内容同程度）年間指導計画（例）

【一部の内容を2分割する型】

月	A年度		B年度	
	時数	単元	時数	単元
4	5	わたしのまち みんなのまち（3年） 1 学校のまわり	11	わたしのまち みんなのまち（3年） 1 市の様子
5	12	はたらく人とわたしたちのくらし（3年） 1 農家の仕事／工場の仕事 *選択	15	はたらく人とわたしたちのくらし（3年） 1 店ではたらく人
6	9	くらしを守る（3年） 1 火事からくらしを守る		
7				
9	12	市のうつりかわり（3年） 1 市の様子と人々のくらしのうつりかわり	8	くらしを守る（3年） 1 事故や事件からくらしを守る
10	2	わたしたちの県（4年） ○日本地図を広げて	10	住みよいくらしをつくる（4年） 1 ごみのしよりと利用
11	10	1 県の広がり		
12	10	きょう土の伝統・文化と先人たち（4年） 1 残したいもの 伝えたいもの	10	自然災害からくらしを守る（4年） 1 地震からくらしを守る
1	13	住みよいくらしをつくる（4年） 1 水はどこから	12	きょう土の伝統・文化と先人たち（4年） 1 谷に囲まれた台地に水を引く
2			7	特色ある地いきと人々のくらし（4年） 1 国際交流に取り組むまち（国際交流に取り組んでいる地域）
3	7	特色ある地いきと人々のくらし（4年） 1 すずりをつくるまち（伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域）	7	2 美しい景観を生かすまち（地域の資源を保護・活用している地域:自然環境）／古いまちなみを生かすまち（地域の資源を保護・活用している地域:伝統的な文化） *選択
合計時数	80		80	

*時数が2学年合計して、160時間になるように設定している。

高学年社会科（同単元同内容同程度）年間指導計画（例）

【学年別に固定する型】

両学年ともに内容の系統性・発展性によって学習できる利点がある。

月	A年度（第5学年内容）			B年度（第6学年内容）					
	単元名	時数	小単元名	単元名	時数	小単元名			
4	わたしたちの国土	1	導入（オリエンテーション）	わたしたちの生活と政治	1	導入（オリエンテーション）			
		4	1 世界の中の国土		6	1 わたしたちのくらしと日本国憲法			
		3	2 国土の地形の特色		4	2 国の政治のしくみと選挙			
		5	3 低い土地のくらし／高い土地のくらし *選択		8	3 子育て支援の願いを実現する政治／ 震災復興の願いを実現する政治 *選択			
3	4 国土の気候の特色								
6	4	5 あたたかい土地のくらし／寒い土地のくらし *選択							
7	わたしたちの生活と食料生産	1	導入（オリエンテーション）	日本の歴史	2	導入（オリエンテーション）			
4		1 くらしを支える食料生産	7		1 縄文のむらから古墳のくにへ				
8		2 米づくりのさかんな地域	6		2 天皇中心の国づくり				
9		7	3 水産業のさかんな地域		3	3 貴族のくらし			
10	わたしたちの生活と工業生産	5	4		4 これからの食料生産とわたしたち	6	4 武士の世の中へ		
			1		導入（オリエンテーション）	3	5 今に伝わる室町文化		
			3		1 くらしを支える工業生産	6	6 戦国の世から天下統一へ		
			7		2 自動車をつくる工業	6	7 江戸幕府と政治の安定		
11	わたしたちの生活と工業生産	5	3		3 工業生産を支える輸送と貿易	5	8 町人の文化と新しい学問		
			5		4 これからの工業生産とわたしたち	7	9 明治の国づくりを進めた人々		
			1		導入（オリエンテーション）	6	10 世界に歩み出した日本		
			6		1 情報産業とわたしたちのくらし	7	11 長く続いた戦争と人々のくらし		
12	情報化された社会と産業の発展	5	2	2 情報を生かす産業	8	12 新しい日本、平和な日本へ			
			4	3 情報を生かすわたしたち					
			1	導入（オリエンテーション）					
			5	1 自然災害を防ぐ					
1	わたしたちの生活と環境	6	2	2 わたしたちの生活と森林	世界の日本の日本	1	導入（オリエンテーション）		
			6	3 環境を守るわたしたち				7	1 日本とつながりの深い国々
			2	導入（オリエンテーション）				6	2 世界の未来と日本の役割
			6	3 環境を守るわたしたち					
3	6	3 環境を守るわたしたち							
合計時数		100		合計時数	105				

5 算数科

(異単元)

1 異単元による年間指導計画作成の際の留意点

(1) 異単元による学年別指導

算数科は、系統性を重視する教科です。そのため、2年間の学習内容を一つにまとめる同単元異内容異程度(完全1本案、くりかえし案)や同単元同内容同程度(A・B年度方式、2本案)で指導することには難しさがああり、県内の複式学級では、異単元による学年別指導で算数科の授業が行われることが一般的です。

(2) ねらいが明確な授業となるようにする

算数科の学年別指導では、複数の学年を見なければならぬので時間が足りないという教師の意識があり、児童の「考える活動」が十分ではない場合もあるようです。年間指導計画に児童が「考える活動」に取り組む重点単元を位置付けたり、単元計画に「知識や技能を習得する活動」と「考える活動」をバランスよく配当したりする等、学年別指導でも「考える活動」が十分に行われるようにすることが大切です。

(3) スパイラルによる教育課程編成を工夫する

学習指導要領では、知識・技能の確実な定着のため、また、学ぶ意欲を高めるため、発達や学年の段階に応じた反復(スパイラル)による教育課程を編成することが示されています。学年別指導を基本としながら、2つの学年が同じ教室で学ぶ複式学級のよさを生かし、下学年の児童が上学年の内容への興味・関心を高めたり、上学年の児童が下学年の内容を学び直したりする機会も柔軟に設定するようにします。

2 学年別指導にあたって

【子どもの声でつくる算数授業】

学年別指導では、教師が直接的に児童に関わる時間は短くなります。学年別指導だからこそ、児童がお互いの表現をつなぎ、考えを伝え合い学び合うような、「子どもの声でつくる算数授業」をつくることができる好機と捉えましょう。「子どもの声」を生かしながら、「考える楽しさ」を味わい「算数が好き」と感じられるようにしていくために、次のようなことを大切にしていきます。

(1) 授業の前に

【考えること、やりきることを楽しむ児童の姿を明確にして授業を構想する】

算数が好きな児童を育てることは島根県の大きな課題であり、また、学ぶ楽しさや意義等を実感できるようにすることは、学習指導要領でも大切にされています。そのことは、複式学級においても例外ではありません。特に、教師が児童に直接的に関わりにくい間接指導での活動では、児童が目的意識を見だし、楽しさを感じられるよう、次の例に示すような、児童が考えること、やりきることを楽しんでいる姿を具体的にイメージしながら単元や1時間ごとの展開を考えるようにします。

【「子どもの声」を大切にしながら、お互いの考えをわかり合う場をつくる】

「ガイド学習」を進めるにあたっては、ガイド役だけでなく、話し手、聞き手をしっかり育てるという視点も大切です。それは、型を示して、その型にそった言い方、聞き方をさせるということではありません。

「子どもの声でつくる算数授業」で大切にしたいのは、みんなの力で自分たちの表現を豊かにし、自分が話す、あるいは友達の話を書くときに使うといい言葉を獲得していけるようにすることです。

友達の「意図」を汲み取ったり、お互いの考えをつないだりする発言を、教師が大切に評価付け、児童の発言を掲示し、「こんなふうに聞いて、考えて、話せばいい」と児童が実感できるようにします。よりよい話し手、聞き手を育てることが、児童の主体的な話し合い活動を支えることにつながります。

また、子どもの発言やつぶやきを捉えて、「それって、どういうこと？」「それをみんなに説明できるかな」など、教師が端的なことばで問い返すことで、より授業のねらいに迫り、深まりのある学習につなげることができます。

【まとめや振り返りの場を工夫する】

教科書にあるような、単に学習内容を短い文章で示すだけがまとめではありません。その授業で明らかになったこと以外にも、解決できず疑問に残ることや調べてみたいこともまとめとして共有することで、それが児童の振り返りにも反映され、次時の学習への意欲付けにつながれることも考えられます。

また、通常は学年別で行うまとめで、上学年児童が下学年の方に参加し、説明を聞いたり補足したりする方法も考えられます。下学年児童にとっては単学年では見られない学びの深まりに、上学年児童にとっては既習の内容として想起することでの学習内容の捉え直しや学び直しに、それぞれつながる効果が期待できます。

(3) 授業の後で

【学年別指導による児童の成長を教師が楽しむ】

学年別指導では、指導の方法に関わる検討事項が多くあり、教師の負担は決して少なくありません。しかし、児童一人一人をきめ細かく見られるというよさを生かし、児童がどんな意図で表現したのかを丁寧に見ていくと、教師の発想を越えた、児童の考えの豊かさに気付くことができます。授業後は、児童が黒板やノートに残した学習の足あとを活用し、一人一人の学習成果を見取るとともに、評価言を児童に伝えることを大切にします。そして、児童を主体とした学年別指導ならではの児童の成長ぶりを教師が楽しみ、児童に返していきましょう。

大切にしたい「子どもの声」

友達の「意図」を考える言葉

- ・ Aさんは、どうしてそんなふうに考えたのだろう。
- ・ Aさんが言おうとしたのは、～ということかな。
- ・ Aさんの考えの続きが言えるよ。

似ているところ、違うところを明らかにしていく言葉

- ・ だったら、Bさんの考えと似ているよ。
- ・ ～というところが同じじゃないかな。
- ・ CさんとDさんの図はよく似ているけど、よく見ると～なところが違っている。

式、図、言葉等を関連付けお互いの考えをつなぐ言葉

- ・ Cさんがかいた図で、Aさんの式を説明できるよ。
- ・ Bさんの式の～は、Cさんの図ではこれにあたるよ。
- ・ AさんとBさんは違う式を書いているけど、考え方は同じということなのかな。

友達の考えに反応する言葉

- ・ えっ、どういうこと？
- ・ へえ～。なるほど。
- ・ あっ！今の発表を聞いて、すごいことを見つけた！

自分たちの学びのよさを評価付ける言葉

- ・ Aさんの考えた式は、いつでも使えそうだ。
- ・ Bさんの考え方にはびっくりした。
- ・ 次は、Cさんの図を使って考えてみたい。
- ・ まだ他にもいい考えがあるかもしれない。 等

中学年算数科（異単元）年間指導計画（例）

月	3 年生	時数	4 年生	時数
4 月	◎わくわく算数学習	1	◎わくわく算数学習	1
1 月	1 九九の表とかけ算	5	1 角とその大きさ	7
	◎図を使って考えよう	2		
2 月	2 わり算	10	3 1けたでわるわり算の筆算	10
	6 表とグラフ 考	9	2 折れ線グラフ 考	8
5 月	5 一万をこえる数	12	*ふく習	1
			4 一億をこえる数	8
6 月	3 たし算とひき算の筆算	9	5 垂直・平行と四角形	14
	*ふく習	1		
4 月	4 時こくと時間	4	6 小数	8
	7 たし算とひき算	4		
7 月	◎算数の自由研究	1	◎算数の自由研究	1
	◎どんな計算になるのかな	1	◎算数ラボ	1
	*ふく習	1	*ふく習	1
9 月	9 あまりのあるわり算 考	8	7 2けたでわるわり算の筆算	10
	8 長さ	5	8 割合	3
10 月	10 重さ	9	9 式と計算の順序	9
	*ふく習	1	◎そろばん	1
	★学びのサポート	—	★学びのサポート	—
	11 円と球	7	10 面積 考	10
	12 何倍でしょう	4	*ふく習	1
	13 計算のじゅんじょ	2	◎図を使って考えよう	2
11 月	14 1けたをかけるかけ算の筆算	11	16 直方体と立方体 考	11
	15 式と計算	3	13 調べ方と整理のしかた	4
12 月	16 分数	10	◎表を使って考えよう	1
	◎間の数	1	14 分数	8
	◎算数ラボ	1	◎見積もりを使って	1
	*ふく習	1	◎どんな計算になるのかな	1
		1	*ふく習	1
1 月	17 三角形 考	8	11 がい数とその計算	8
	18 小数	10	12 小数のかけ算やわり算 考	16
2 月	19 2けたをかけるかけ算の筆算	6		
	*ふく習	1	*ふく習	1
	20 □を使った式	4	15 変わり方	6
3 月	◎そろばん	2		
	◎買えますか？買えませんか？	1	◎だれでしょう	1
	◎みらいへのつばさ	2	◎みらいへのつばさ	2
	*もうすぐ4年生	3	*もうすぐ5年生	3
	★学びのサポート	—	★学びのサポート	—

3年「一万をこえる数」と一部一緒に学習し、既習内容も振り返りながら、定着を図っていけるような工夫ができます。

■「わり算」を同時期に扱うことで、問題場面を共通にすることができます。4年生が3年生の先生役をするなど、異学年同士の関わりをつくっていくような工夫もできます。

指導順序の入れ替えをする場合、学期をまたがないように、また、上巻と下巻をまたがないように留めます。

4年「分数」と同時期に扱い、関連も図りながら、数の概念についての理解を深めていくことを大切にします。3学期の「小数」についても、同じように関連を図った指導が考えられます。

考：考える活動を重点に置く単元

- ・ 上下学年ともに、下巻は10月中旬ごろから使用するよう単元を配列しています。（網掛け部分）
- ・ 同じ領域や内容の学習を同時期に扱う場合、ねらいや問題場面を共通にするなどの工夫をすることが考えられます。また、上学年が下学年の支援をしたり、上学年が前年度の学習を振り返ったりする等、複式で学ぶことのよさを生かすようにすることが大切です。
- ・ 時数については、教科書会社が設定したものを参考として示していますが、上下学年の学習の進み具合により柔軟に対応することが大切です。

高学年算数科（異単元）年間指導計画（例）

月	5年生	時数	6年生	時数
4月	* 学びのとびら	9	* 学びのとびら	13
	6 形も大きさも同じ図形について調べよう		1 つり合いのとれた図形を調べよう	
	1 整数と小数のしくみをまとめよう		平面図形の学習を同時期に扱います。6年「つり合いのとれた図形」にもふれながら、図形の見方を豊かにしていく指導を工夫することも考えられます。	
5月	3 変わり方を調べよう(1)	4	2 数量やその関係を式に表そう	5
	2 直方体や立方体のかさの表し方を考えよう	8	7 円の面積の求め方を考えよう	6
				8 角柱と円柱の体積の求め方を考えよう
6月	4 かけ算の世界を広げよう 考	9	3 分数のかけ算を考えよう 考	13
	5 わり算の世界を広げよう 考	9	4 分数のわり算を考えよう 考	
7月	* 小数の倍	5	* 分数の倍	3
	* どんな計算になるのかな？	2	* どんな計算になるのかな？	2
9月	7 図形の角を調べよう	6	9 およその面積や体積	5
	8 整数の性質を調べよう	12	5 割合の表し方を調べよう	8
			* 算数で読み解こう	2
10月	9 分数と小数、整数の関係を調べよう	6	6 形が同じで大きさが違う図形を調べよう 考	8
	* 考える力をのばそう * 算数で読みとこう	4	* 考える力をのばそう	2
	10 算数のたし算、ひき算を広げよう	10	10 比例の関係をくわしく調べよう	15
11月	11 ならした大きさを考えよう	5	11 順序よく整理して調べよう	6
	12 比べ方を考えよう(1) 考	10	* 考える力をのばそう	2
12月	13 面積の求め方を考えよう 考	11	12 データの特ちょうを調べて判断しよう 考	13
			* 算数で読み解こう	2
1月	14 比べ方を考えよう(2)	9	13 算数の学習をしあげよう	25
	15 割合をグラフに表して調べよう 考	8		
2月	16 変わり方を調べよう(2)	1		
	17 多角形と円をくわしく調べよう	9		
3月	18 立体をくわしく調べよう	7		
	* 考える力をのばそう	2		
	* 算数で読み解こう	2		
	* 5年のふくしゅう	5	* 算数卒業旅行	13

小数と分数の乗法、除法を同時期に扱います。問題場面を共通にすることができるので、小数倍、分数倍の意味理解、数直線図の活用等について、いっそうの習熟を図っていくことが期待できます。

体積についてスパイラルに扱くと効果的です。6年生は既習事項との関連を図ること、5年生は6年生内容への意欲付けをすること等が期待できます。

指導順序の入れ替えをする場合、学期をまたがないように、また、上巻と下巻をまたがないように留意します。

6年間のまとめの時期となります。5年生ができる内容については、余剰の時間を活用し、5、6年生がいっしょに学習することも考えられます。5年生にとっても、これまでの学習を振り返る機会となります。

考：考える活動を重点に置く単元

- ・ 上下巻分かれている場合は、10月中旬ごろから下巻を使用するよう単元を配列しています。（網掛け部分）
- ・ 同じ領域や内容の学習を同時期に扱う場合、ねらいや問題場面を共通にする等の工夫をすることが考えられます。また、上学年が下学年の支援をしたり、上学年が前年度の学習を振り返ったりする等、複式で学ぶことのよさを生かすようにすることが大切です。
- ・ 時数については、教科書会社が設定したものを参考として示しています。上下学年の学習の進み具合により柔軟に対応することが大切です。

6 理 科

(異単元)

1 異単元（学年別指導）による年間指導計画作成の際の留意点

(1) 当該学年を通して育成を目指す問題解決の力を意識します。

異単元で行うことのよさの1つに、学年の系統性を大切にした学習の展開が可能となることがあげられます。第3学年：主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力、第4学年：主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力、第5学年：主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力、第6学年：主により妥当な考えをつくりだす力といった、各学年を通して育成する問題解決の力を意識して単元を展開します。

(2) 2つの学年の単元の組合せについては、各学年における指導のねらいと教材内容を加味し、学級の実態に応じ、適した方法を選択します。

<系統性を生かして組み合わせる例>

- 第3学年「身の回りの生物」と第4学年「季節と生物」では、2つの学年で校外に観察に出かける等、類似単元の組合せにより、一緒に活動することが可能です。
- 第5学年「電流がつくる磁界」と第6学年「電気の利用」を組み合わせることで、学年別ではあるが、第6学年の児童が既習の内容を想起することが可能です。

<別の内容を組み合わせる例>

それぞれの学年の児童がもう一方の学年の学習内容に影響を受けずに、集中して当該学年の内容を学習できるようにしたいと考える場合、あえて関連のない単元を組み合わせることも考えられます。児童の実態に応じ、適した組合せを考えます。

(3) 学年別指導を実施する際には、安全面での配慮から、火や薬品を用いた実験と屋外での実験・観察ができるだけ重ならないように年間指導計画を工夫します。

- 中学年複式学級では、第4学年「温度と体積の変化」「水の三態変化」「温まり方の違い」において、アルコールランプを用いた実験を行います。高学年複式学級では、第5学年「物の溶け方」第6学年「燃焼の仕組み」「水溶液の性質」において、アルコールランプや薬品を用いた実験を行います。これらの実験ともう一方の学年の屋外での実験・観察を必要とする単元が重ならないようにします。
- 火や薬品を用いた実験と屋外での実験・観察の重なりが避けられない場合は、他教科と組み合わせる等の対応も考えられます。

(4) 算数科の内容との関連を図ります。

- 第3学年「物の重さ」と算数科のはかりの使用や重さの単位に関わる単元との関連や、第5学年「振り子の運動」と算数科の平均に関わる単元との関連に留意し、年間指導計画を作成します。

(5) 中学年は第3学年が年間90時間、第4学年が年間105時間と総時数が異なります。

第3学年の負担過重にならないよう配慮して、年間計画を作成します。

2 異単元（学年別指導）の指導にあたって

<「わたり」や「ずらし」を組み合わせた指導>

○学年別指導において、直接指導と間接指導を繰り返す場合、「ずらし」による空白の時間が生じることは第7章で伝えてきました。いずれかの学年の前時の最後に、直接指導により次時の導入を図っておくことで、「ずらし」による空白の時間をなくし、より効率よく授業を展開することもできます。このことにより、本時において、児童だけで学習が進められ、もう一方の学年で教師の直接指導による導入が可能となります。また、同様に、終末にいずれかの学年に空白の時間が生じます。終末の時間は、本時に関わる内容についての発展課題プリントや、練習問題プリントに取り組むこと等が考えられます。

<同時間接指導による指導>

- 学習ガイドを作成するときは、自然事象に対する気づき→問題の見だし→予想・仮説の設定→検証計画の立案→観察実験の実施→結果の整理→考察や結論の導出、といった問題解決の過程を意識した学習展開とします。
- 学習ガイドには、自分たちで授業を進められるよう、学習の流れが示してありますが、理科においては、安全面での配慮のため、教師がどの場面で直接指導するのか書いておきます。
- 初めて複式学級を経験する児童においては、ガイド学習に慣れていないことから、実験が安全管理上まかせられない場合もあります。児童の実態に応じて、初めのうちは、「わたり」や「ずらし」による教師の直接指導を行い、徐々に自分たちで進められるようにする等柔軟な対応が必要です。
- 2つの学年ともに実験を行う授業の場合は、同時間接指導を取り入れ、児童がそれぞれ主体的に授業を進めるようにし、教師は2つの学年ともに見守り、必要に応じて実験や記録のポイント等を声かけするよう展開すると、全体が把握しやすくなります。

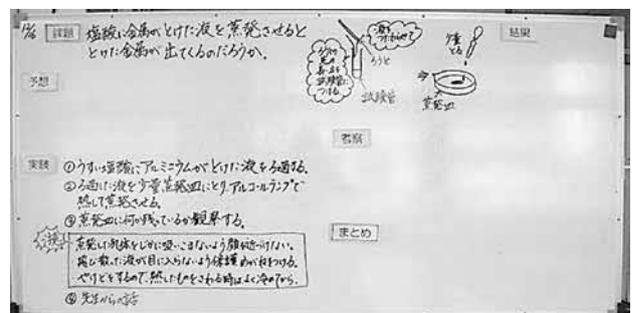
1 問題	○前の時間の学習をふりかえります。 「前の時間の学習では、塩酸にとけた金属はどうなったのかを考えました。あわを出してとけたので、気体にかわって出ていったという考えや、食塩水のように、金属のままにとけていたという考えや、あわが出たり熱くなったりしたので、別の物に変化したのではないかという考えが出ました。」 ○問題を読んでください。 <問題>塩酸に金属がとけた液を蒸発させると、とけた金属が出てくるのだろうか。 ○問題をノートに書いてください。
2 予想	○結果を予想して、予想をノートに書いてください。 ○自分の考えを発表してください。 ○みなさんどうですか。質問や付け加えはありますか。 ※先生からの話
3 実験方法	○実験方法を確認します。実験方法を読んでください。 ○実験方法をノートに書いてください。 ※先生からの話（気をつけること）
4 観察・実験	○班の友だちと協力して、安全に実験しましょう。 ○結果をノートに分かりやすくまとめましょう。
5 結果の整理	○結果を発表してください。
6 考察	○結果から考えたことをノートに書きましょう。 ○結果から考えたことを発表してください。 ※先生からの話
7 まとめ	○結果からの考察をもとに、今日の問題についてまとめます。でいいですか。
8 ふりかえり	○めあてをもとに今日の学習をふりかえり、ノートに書きましょう。

<授業の前に>

- 提示する課題は、問題意識を高めるよう、また、追究の過程に見通しがもてるよう工夫します。
- 学年用の移動黒板等を理科室に設置し、前日、学習の流れを書いておくとスムーズに進められます。
- 予想されるつまづきを想定し、あらかじめ具体的な支援を考えておきます。

<授業の中で>

- 火を使う等、安全面で配慮が必要な場合は、授業の初めに両学年全員に配慮事項を伝えます。
- 実験の結果や、結果からの考察等、一人一人の考え方を必ずノートに記述するよう伝え、全体での考察場面では、その記述をもとに考えの良さが引き出せるようにします。



中学年（異単元）年間指導計画（例）

月	第3学年	第4学年
4	春の自然観察④	春の自然⑥
	たねをまこう③	電流のはたらき⑦
5	チョウを育てよう⑦	動物のからだのつくりと運動⑦
	植物の育ちとつくり④	天気と気温⑥
太陽とかけを調べよう⑦	雨水のゆくえと地面のようす⑤	
7	こん虫の育ちとつくり④	夏の自然⑤
	こん虫の育ちとつくり②	夜空を見よう②
9	実ができたよ④	月や星の動き⑦
	太陽の光を調べよう⑨	秋の自然⑤
10	風やゴムで調べよう⑩	物の体積と力⑥
	音を出して調べよう⑤	物の体積と温度⑨
12	物の重さをくらべよう⑧	水のすがたとゆくえ⑬
	明かりをつけよう⑩	冬の夜空②
1		冬の自然⑤
2	じしゃくにつけよう⑧	物のあたたまり方⑬
3	つくってあそぼう⑤	生き物の一年をふり返って⑦

ポイント①
第3学年の「春の自然観察」と第4学年の「春の自然」等を組み合わせることで、校舎外に出る活動と一緒にすることが可能です。
(場の共有の仕方)

ポイント②
この年間計画では組み合わせてはませんが、第4学年の「電流のはたらき」と第3学年の「明かりをつけよう」を組み合わせることも可能です。
(単元のつながり)

ポイント③
『生物の構造と機能』にかかわる単元。第3学年「植物・昆虫の育ちとつくり」との関連を図ります。
(単元のつながり)

ポイント④
第3学年の「太陽とかけを調べよう」と第4学年の「天気と気温」を組み合わせることで、第4学年の児童が既習の内容を想起することが可能です。
(単元のつながり)

ポイント⑤
第3学年の「風やゴムで調べよう」は、実験を理科室前の廊下等で実施することで、第4学年の支援も可能です。
(場の共有の仕方)

ポイント⑥
第3学年の「物の重さをくらべよう」は、主として自席での実験とし、第4学年の「水のすがたとゆくえ」のグループ実験を支援します。
(安全性の確保)

ポイント⑦ はかりの使用や重さの単位については、算数科の学習との関連を図ります。
(他教科とのつながり)

ポイント⑧
第3学年の「じしゃくにつけよう」は、主として自席での実験とし、第4学年の「物のあたたまり方」のグループ実験を支援します。
(安全性の確保)

※第3学年は90時間、第4学年は105時間で作成

高学年理科（異単元）年間指導計画（例）

月	第5学年	第6学年
4	種子の発芽と成長⑮	生物の暮らし②
5		物の燃え方と空気⑩
6	天気の変化⑩	動物のからだのはたらき⑩
7	魚のたんじょう⑪	植物のからだのはたらき⑧
9	花から実へ⑥	月と太陽⑥
10	流れる水のはたらき⑮	大地のつくりと変化⑬
11	台風の天気と変化④	てこのはたらき⑪
12	ふりこの運動⑩	水よう液の性質とはたらき⑫
1	人のたんじょう⑦	電気の利用⑯
2	電流がうみ出す力⑫	
3	物のとけ方⑮	人と環境⑪

ポイント①
第5学年の「種子の発芽と成長」と第6学年の「生物の暮らし」等を組み合わせることで、校舎外に出る活動を一緒に行うことが可能です。
(場の共有の仕方)

ポイント②
第6学年の「物の燃え方と空気」の学習期間は、第5学年の学習は室内で行うよう計画する必要があります。
(場の共有の仕方)

ポイント③
第5学年の「植物の発芽と成長」「天気の変化」「魚のたんじょう」では、生物の成長状態や天候などによって、計画通りに実行できない場合があります。よって、その状況を見ながら時には2～3単元を並行して展開したり、単元を入れ替えたりして臨機応変に授業を設定します。
(単元のつながり)

ポイント④
月齢20前後の月は、朝見られることから、第5学年の「花から実へ」の学習と組み合わせることで、校舎外に出る活動を一緒に行うことが可能です。
(単元のつながり)

ポイント⑤
第5学年「流れる水のはたらき」と第6学年「大地のつくりと変化」の導入日を揃えることで、地域教材や博物館等の活用が可能です。
(場の共有の仕方)

ポイント⑥測定結果の平均値について算数科の学習との関連を図ります。
(他教科とのつながり)

ポイント⑦
第5学年の「人のたんじょう」は、主として自席での活動とし、第6学年の「水よう液の性質とはたらき」の実験を支援します。
(安全性の確保)

ポイント⑧
第5学年の「電流がうみ出す力」と第6学年の「電気の利用」を組み合わせることで、第6学年の児童が既習の内容を想起することが可能です。
(単元のつながり)

ポイント⑨
この年間計画では組み合わせてはませんが、第5学年の「物のとけ方」と第6学年の「水溶液の性質とはたらき」を組み合わせることも可能です。
(単元のつながり)

※第5学年、第6学年ともに、105時間で作成

7 理科

(同単元同内容同程度)

1 同単元同内容同程度指導の特徴

同単元同内容同程度での指導では、より多くの人数で学べ、多様な考えに触れられる機会が増える良さがあります。理科で行う野外観察や危険を伴う実験、観察等では目が届きやすく、安全面での配慮を行いやすくなります。また、教材の事前準備等の負担が軽減できます。

一方、理科では学年毎に目標と内容が示されていますが、下学年が上学年の内容を学習する場面が生じるので、単元配列や指導において常に発達段階を考慮した工夫が必要です。また、転出・転入があった場合に、理科は算数と同様に系統性が強い教科であることから、学びの逆転が生じないように補習をする、転出先の学校へ既習内容を伝える等の配慮をする必要があります。

2 同単元同内容同程度指導（A・B年度方式）による年間指導計画作成の際の留意点

(1) 問題解決の力は2年間を通して育てることを意識します。

第3学年：（比較しながら調べる活動を通して）自然の事物・現象について追究する中で、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現すること。

第4学年：（関係付けて調べる活動を通して）自然の事物・現象について追究する中で、主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。

第5学年：（条件を制御しながら調べる活動を通して）自然の事物・現象について追究する中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

第6学年：（多面的に調べる活動を通して）自然の事物・現象について追究する中で、より妥当な考えをつくりだし、表現すること

中学年の指導では、「差異点や共通点を基に、問題を見いだす力」を2年間かけてどの単元でもしっかり育て、第4学年の単元では、さらに「既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力」も付け加えて育てていきます。

高学年の指導では、中学年で身に付けた問題解決の力を基盤に置きながら、「予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力」をどの単元でも育て、第6学年の単元では、さらに「より妥当な考えをつくりだす力」を育てていきます。

(2) 時数や季節、学習内容の系統性を考慮して年間指導計画を工夫します。

◎ A年度・B年度それぞれの内容量や時数、難易度を同じ程度にします。

同単元同内容同程度の指導計画を立てる際には、2学年の内容をA年度、B年度の2カ年に再配分するため、それぞれ内容や難易度が同程度になるようにします。中学年は第3学年が年間90時間、第4学年が年間105時間と総時数が異なります。時数については、2年間を通して2学年分の標準時数を確保することが重要です。（第6章）

◎ 内容の関連や系統性等を「単元のつながり」に配慮して配当します。

○ 内容の関連や系統性がある単元が多いため、以下の単元はA、Bどちらか一方の年度にまとめて配当するとともに、同一年度内においても順序に気を付けます。

◆ 中学年

- ・「チョウを育てよう（3年）」→「こん虫を調べよう（3年）」
- ・「たねをまこう（3年）」→「植物の育ちとつくり（3年）」→「実ができたよ（3年）」

「植物」と「動物」に分けて別の年度に担当すると、難易度を同程度にすることができます。同一年度に担当すると、「育ちとつくり」の視点で「植物」と「動物」を比較して学習を深めることができます。

- ・「春の自然（4年）」→「夏の自然（4年）」→「秋の自然（4年）」→「冬の自然（4年）」→「生き物の1年をふり返って（4年）」
- ・「空気と水の性質（4年）」→「温度と体積の変化（4年）」→「温まり方の違い（4年）」
- ・「夏の星（4年）」「月や星の見え方（4年）」「冬の星（4年）」

◆ 高学年

- ・「植物の発芽、成長（5年）」→「結実（5年）」
- ・「魚のたんじょう（5年）」→「人のたんじょう（5年）」

「植物」と「動物」に分けて別の年度に担当すると、難易度を同程度にすることができます。同一年度に担当すると、「生命の連続性」の視点で「植物」「動物」「人」を比較して学習を深めることができます。

- ・「天気の変化（5年）」→「台風の天気と変化（5年）」
- ・「燃焼の仕組み（6年）」→「植物の養分と水の通り道（6年）」→「人の体のつくりと働き（6年）」→「生物と環境（6年）」

「植物」と「動物」に分けて別の年度に担当すると、難易度を同程度にすることができます。同一年度に担当すると「人の体のつくりと働き」の視点で「植物」と「動物」を比較したり、「生物と環境」の視点でつながりを類推したりして学習を深めることができます。

「燃焼の仕組み」の学習を「植物の養分と水の通り道」「人の体のつくりと働き」と同じ年度内の始めに行うことで、空気中の酸素、二酸化炭素と生物の関係を理解しやすくなります。

○ 下学年の内容を学習後、上学年の内容を学習する必要がある場合は、必ず同一年度に下学年の内容を先に、上学年の内容を後に配列します。

◆ 中学年

- ・「電気の通り道（3年）」→「電流の働き（4年）」

◆ 高学年

- ・「電流がつくる磁力（5年）」→「電気の利用（6年）」
- ・「物の溶け方（5年）」→「水溶液の性質（6年）」
- ・「流れる水の働きと土地の変化（5年）」→「土地のつくりと変化（6年）」

◎植物を継続栽培する単元は、年度を分けて配当します。

動植物の飼育・栽培や野外観察は、季節・天気に配慮して配当します。

「たねをまこう（3年）」「植物の育ちとつくり（3年）」「実ができたよ（3年）」と、「春の自然（4年）」「夏の自然（4年）」「秋の自然（4年）」「冬の自然（4年）」「生き物の1年をふり返って（4年）」では、それぞれ植物の継続栽培を行うので、負担を考え、別々の年度に配当します。

◎学年差に配慮して、毎年度始めに理科の学び方等について取り上げます。

毎年度中学年はじめの単元は、3年生にとって理科学習の入門期であることに配慮して、理科学習の学び方や観察の仕方についての指導の時間を確保します。

(3) 算数科の内容との関連を図ります。

第3学年「物と重さ」と算数科のはかりの使用や重さの単位に関わる単元との関連や、第5学年「振り子の運動」と算数科の平均に関わる単元との関連を図り、年間指導計画を作成する必要があります。複式学級の多くが算数科は学年別に指導していることから、下学年は、当該年度の算数科と関連づけやすい一方、上学年の児童は前年度に学習した内容となるため、想起する時間を設ける等の配慮が必要です。

3 同単元同内容同程度（A・B年度方式）の指導にあたって

◎評価基準は同程度になるので、下学年への配慮が必要です。

同単元同内容同程度の指導を行う場合は、基本的に上学年でも、下学年でも目標及び評価規準は同じになります。下学年が上学年の内容を学習する場合は、学級や児童の実態を考慮して支援する必要があります。

学年毎に目標と内容が示されている理科では、特に下学年への配慮が必要になります。下学年の学習の状況に合わせ、上学年が補うように配慮するとよいでしょう。実験や話し合いの際は、上学年と下学年でペアやグループを組み、上学年が既習内容について下学年に説明したり、実験器具の使い方を示したりすることで、上学年の児童にとっても、下学年の児童にとっても学びが深まる好機となります。そのために、指導方法やグループの構成、座席の配置等の工夫をこらすことが大切です。

◎実験器具や薬品等は初出の単元で丁寧に指導する必要があります。

単元の配当によっては、器具や薬品の取り扱いの順序が変わることがあります。アルコールランプや顕微鏡等の実験器具、ヨウ素液や石灰水等の薬品等複数の単元で扱う物は、先に扱う単元で丁寧に指導することが必要です。

中学年理科（同単元同内容同程度）年間指導計画（例）

A年度		B年度	
月	単元名	月	単元名
4	春のしぜんかんさつ(3年)⑤	4	春のしぜん(4年)⑥
5	たねをまこう(3年)②	5	チョウを育てよう(3年)⑦
	太陽とかげを調べよう(3年)⑥		
6	植物の育ちとつくり(3年)③	6	風やゴムで動かそう(3年)⑧
	雨水のゆくえと地面のようす(4年)⑥		トンボやバッタを育てよう(3年)⑤
7	太陽の光を調べよう(3年)⑨	7	夏のしぜん(4年)④
	花がさいたよ(3年)③		夏の星(4年)③
9	天気と気温(4年)⑥	9	こん虫を調べよう(3年)④
	実ができたよ(3年)③		音を出して調べよう(3年)⑤
10	自然のなかの水のすがた(4年)⑤	10	月や星の見え方(4年)⑥
	物の重さをくらべよう(3年)⑧		秋のしぜん(4年)⑤
11	明かりをつけよう(3年)⑦	11	とじこめた空気と水(4年)⑧
12	じしゃくにつけよう(3年)⑩	12	物の体積と温度(4年)⑨
			冬の星(4年)②
1	水のすがたと温度(4年)⑬	1	冬のしぜん(4年)⑤
			物のあたたまり方(4年)⑨
2	電流のはたらき(4年)⑦	2	動物の体のつくりと運動(4年)④
3		つくってあそぼう(3年)⑤	3

ポイント①
入門期の3年生にとっては、初めての理科の学習になるので、視点を持って観察することや、スケッチや記録の仕方などを丁寧に指導します。
(下学年への配慮)

ポイント②
「春のしぜん」「夏のしぜん」「秋のしぜん」「冬のしぜん」「生き物の1年をふり返って」は、1年間を通して継続的に学習します。(単元のつながり)

ポイント③
内容に系統性がある「太陽とかげを調べよう」と「太陽の光を調べてみよう」の順で同年度内に配当します。
(単元のつながり)

ポイント④
内容に系統性がある「雨水のゆくえと地面のようす」と「自然のなかの水のすがた」の順で同年度内に配当します。
(単元のつながり)

ポイント⑤
「夏の星」「月や星の見え方」「冬の星」は、関連した内容なので、同年度内に配当します。(単元のつながり)

ポイント⑥
はかりの使用や重さの単位については、算数の学習との関連を図ります。
(他教科とのつながり)

ポイント⑦
内容に系統性がある「明かりをつけよう」と「電流のはたらき」の順で同じ年度に配当します。(単元のつながり)

ポイント⑧
「とじこめた空気と水」「物の体積と温度」「ものあたたまり方」は、関連した内容なので、同年度内に配当します。
(単元のつながり)

ポイント⑨
「明かりをつけよう」「磁石につけよう」「電流のはたらき」の3単元の活用として設定することができます。
(単元のつながり)

2年間で(90+105)時間を確保します。

高学年理科（同単元同内容同程度）年間指導計画（例）

A年度		B年度	
月	単元名	月	単元名
4	天気の変化（5年） ^⑩	4	物の燃え方と空気（6年） ^⑨
5	植物の発芽と成長（5年） ^⑮	5	動物のからだのはたらき（6年） ^⑨
		6	植物のからだのはたらき（6年） ^⑨
6	魚のたんじょう（5年） ^⑪	6	生き物のくらしと環境（6年） ^⑨
7		7	
9	花から実へ（5年） ^⑤	9	流れる水のはたらき（5年） ^⑭
	台風と天気の変化（5年） ^④		
10	月の形と太陽（6年） ^⑧	10	物のとけ方（5年） ^⑯
	人のたんじょう（5年） ^⑦		
11	ふりこのきまり（5年） ^⑨	11	
12	てこのはたらき（6年） ^⑨	12	大地のつくり（6年） ^⑩
1	電流が生み出す力（5年） ^⑬	1	変わり続ける大地（6年） ^④
		2	水溶液の性質とはたらき（6年） ^⑭
2	電気と私たちのくらし（6年） ^⑭	2	
3		3	人と環境（6年） ^⑨

ポイント①
6年生の学習内容なので、5、6年でペアを組んで実験する等、5年生への配慮をします。（下学年への配慮）

ポイント②
「生物のからだのはたらき」について動物と植物との共通点・相違点を意識して指導するため同年度内に配当します。（単元のつながり）

ポイント③
「生命の連続性」について動物・植物・人の共通点・相違点を意識して指導するため、同年度内に配当します。（単元のつながり）

ポイント④
「流れる水のはたらき」「大地のつくり」「変わり続ける大地」は関連した内容なので同年度内にこの順で配当します。（単元のつながり）

ポイント⑤
「物のとけ方」「水溶液の性質とはたらき」は関連した内容なので同年度内にこの順で配当します。（単元のつながり）

ポイント⑥
測定結果の平均値について算数科の学習との関連を図ります。（他教科とのつながり）

ポイント⑦
電気単元の系統性を考慮し、「電気が生み出す力」と「電気と私たちのくらし」はこの順で同年度内に配当します。（単元のつながり）

計 105 時間

計 105 時間

8 生活科

(折衷案：異単元・同単元同内容異程度・同単元同内容同程度)

1 年間指導計画作成の際の留意点

学習指導要領では、9項目の内容を2学年でまとめて示してあります。どの内容をどの学年で扱うかは、各学校に任されているため、地域や児童の実態に応じた重点的・弾力的な指導が可能となっています。このことを踏まえ、複式学級や小規模校のよさが生きるよう、指導計画作成することが大切です。

年間指導計画作成にあたっては、基本的には異単元指導、同単元同内容異程度指導、同単元同内容同程度指導のそれぞれのよさを取り入れた折衷案の作成が考えられます。その際、以下の点について配慮が必要です。

- ①生活科の指導計画作成の際に配慮する三つの関わり「スタートカリキュラムをはじめとする幼児期の教育との連携」「2学年間における児童の発達との関わり」「第3学年以上の学習との関わり」に加え、低学年複式学級においては、第1学年と第2学年の発達差、経験差が大きいことに配慮し、目標や内容を基に適切な指導計画作成すること。
- ②たくさんの仲間と学び合い、成長し合える場を確保するために、両学年が交流したり協働したりして学習する場を工夫すること。

(1) 生活科における異単元指導

4・5月は入学したばかりの第1学年と、進級した第2学年の発達や経験の差が特に大きい時期であり、学校生活の入門期である第1学年に特に配慮が必要となることから、異単元での指導が考えられます。

4・5月の異単元計画例

第1学年 単元名「がっこうだいすき」

- ・なかよくなりたいな 内容(1)
- ・がっこうのことがしりたいな 内容(1)
- ・がっこうをたんけんしよう 内容(1)

第2学年 単元名「2年生だ うれしいな」

- ・1年生をむかえよう 内容(9)
- ・学校の春を見つけよう 内容(5)



それぞれの学年の目標を明確にしたうえで、学習内容の中に第1学年・第2学年合同の学校探検を設定することも可能

(2) 生活科における同単元同内容異程度指導

低学年の児童は、個別の学習活動から協働的な学習活動ができるようになる発達の時期にあります。第1学年と第2学年の協働的な学習活動を仕組むことは、互いの学びを広げ深めたり、社会性を高めたりするうえでとても有効です。そこで、第1学年が学校生活に慣れた頃から、同単元同内容異程度で指導することが考えられ

ます。

同単元同内容異程度の学習は、児童にとって2年間の繰り返しとなります。単なる繰り返しの学習ではなく、2年間を見通し、活動が広がったり深まったりできるように工夫する必要があります。

指導計画を立てる際には次の点に留意します。

- 第1学年は初めての経験、第2学年は既に経験しているということを踏まえ、学年に応じたねらいや内容の程度を変える等の工夫をします。
- 学習内容は、各学年の実態に即して弾力的に運用できるようにします。



(3) 生活科における同単元同内容同程度指導

生活科の目標、内容は2学年共通で示されています。同単元同内容異程度指導でも記述したように、第1学年が学校生活に慣れた頃から、同単元同内容同程度で指導することも考えられます。

同単元同内容同程度の学習は2年間を見通し、A年度・B年度の内容を換えて単元を配列します。例えば「おもちゃをつくろう」を、A年度は「秋のおもちゃをつくろう」、B年度は「うごくおもちゃをつくろう」等で指導することが考えられます。

指導計画を立てる際には次の点に留意します。

- 2学年が同じ目標、評価規準のもとに授業が展開されることとなります。評価規準が同じであっても、学年差を考慮し、一人一人の児童の取組を丁寧にとらえ、評価する必要があります。
- 飼育・栽培（内容（7））については毎年度取り扱う必要があります。そのとき、A年度を飼育、B年度を栽培とするか、毎年度飼育と栽培の両方を行うのかは、各校で十分検討して決めます。
- 第3学年社会科の学習との関連に配慮し、町探検（内容（1）（3））を行う単元は、2学年にわたって取り扱うとよいでしょう。

2 指導に当たって

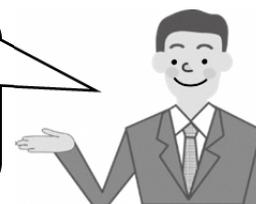
(1) 異単元指導上の留意点

①各学年の学習の目標を明確にして活動させる

例1：単元名「がっこうだいすき（第1学年）」「2年生だ うれしいな（第2学年）」

第1学年、第2学年の単元や1時間毎の目標を明確にし、それぞれの児童に毎時間のめあてをしっかりと理解させることが大切です。このために学習過程・学習方法を工夫する必要があります。

担任一人で異内容を同じ場で学習させることとなります。この場合、第1学年・第2学年それぞれに自分の学年の本時のめあてをしっかりと理解させ、学習に取り組ませることが大切です。



	第1学年	第2学年
単元名	がっこうだいすき（主な内容（1））	2年生だ うれしいな（主な内容（9））
単元目標	学校探検を通して、学校の施設の様子や先生、友達について考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることがわかり、楽しく安心して遊びや生活をするができる。	1年生に学校案内をする活動を通して自分たちにできることを考えることができ、自分の成長や役割が増えたことがわかり、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができる。
合同活動	学校探検をしよう！	
本時の目標	先生や2年生と一緒に学校を回り、学校の中の場所や人への興味・関心を高めることができるようにする。	1年生に学校の中の場所、人、きまりを紹介し、上級生として自分の役割が増えたことに気付くことができるようにする。
めあて	がっこうにはなにがあるかな。どんなひとがいて、どんなことをしているのかな。	1年生に学校にあるもの、いる人、きまりを教えてあげよう。

②2学年が交流したり協働したりする場をつくる

例2：単元名「もうすぐ2年生（1年）」「あしたへジャンプ（2年）」

それぞれの学年が異なる学習活動を行うこととなりますが、例えば、第1学年が次年度の新生と遊ぶ計画を進めるときに、経験者である第2学年からアドバイスをもらう時間をつくったり、第2学年のインタビュー活動に第1学年が協力したりする等、伝え合い交流し合う機会を積極的に設けることが大切です。

実際の活動場面では間接指導が多くなることが予想されます。児童がより主体的に学習に取り組むことができるよう、ガイド学習等の学習方法や同時間接指導等の指導方法、学習過程等の工夫をすることが大切です。



(2) 評価について

同単元同内容異程度・異単元に関わらず、第1学年、第2学年の実態に応じて、それぞれの単元の評価規準や学習活動における具体的な評価規準を設定することが必要となります。

同単元同内容同程度では、両学年の評価規準は同じに設定しますが、個人差や経験差を考慮し、評価規準を達成できるよう個に応じたはたらきかけが必要となります。

生活科（折衷案：異単元・同単元同内容異程度・同単元同内容同程度）年間指導計画例

★は、栽培継続単元「みんなでそだてよう」11時間

月	時数	第1学年単元名（主な内容）	時数	第2学年単元名（主な内容）
		がっこうだいすき 4時間	3	学校の春を見つけよう（5）
	2	生活科+他教科等（スタートカリキュラム）	2年生だ うれしいな 6時間	
	2	なかよくなりたいな（1） がっこうのことがしりたいな（1）	6	1年生をむかえよう（9）
5	2	がっこうをたんけんしよう（1）	2	★野菜をそだてよう（7）
	2	★たねをまこう（7）	どきどきわくわくまちたんけん 9時間	
	1	まちのことを話そう（3）		
	2	まちたんけんの計画を立てよう（3）（つうがくろをあるくまえに1年生（3））		
	3	★まいにちせわをしよう（7）	3	★野菜のせわをしよう（7）
6	4	まちたんけんに行こう（3）（みんなでつうがくろをあるこう1年生（1））		
	2	がっこうやまちのことをつたえ合おう（1）（3）		
	いきものなかよし大作せん 7時間			
	2	生きものをさがしに行こう・つかまえよう（7）		
7	2	いきものをそだてよう（7）		
	3	いきものひろばにしようたいしよう（7）		
	なつだ いっしょにあそぼうよ 2時間			
	2	くさばなやむしをさがそう つちやすな、みずであそぼう（5）		
	2	★たねとりをしよう（7）	2	★野菜を収穫しよう（7）
9	2	★花のことを伝えよう（7）	2	★野菜のことをつたえよう（7）
	もっとなかよしまちたんけん 21時間			
	2	まちたんけんの計画を立てよう（3）		
	2	まちのあきをさがそう（5）		
	2	はっぱやみであそぼう（5）（6）		
10	2	まちの人に会いに行こう（3）		
	3	もっとまちの人となかよくなろう（3）		
	3	ふりかえろうまちのすてきなできごと（3）（8）		
	3	まちの人につたえるじゅんびをしよう（3）（8）		
11	4	まちのすてきをつたえよう（3）（8）		
	2	★サツマイモをしゅうかくしよう（7）		
	おもちゃをつくろう 10時間			
	6	あきのおもちゃをつくろう（6）	3	うごくおもちゃをつくろう（6）
12	3	みんなであそぼう（6）	3	もっとくふうしよう（6）
	みんないっしょに 9時間			
	3	じぶんのいちにちをふりかえろう（2）		
	3	いえのひとといっしょにしよう（2）		
1	3	じぶんでできることをしよう（2）		
	ふゆをたのしもう 12時間			
	6	ふゆをたのしもう（5）（6）		
	3	図書かんへ行こう（4） ※地域の実態等に応じて公民館等の施設に変更		
	3	図書かんのことを聞いてみよう（4）		
2	もうすぐ2ねんせい 15時間		あしたへジャンプ 15時間	
	3	あたらしい1年生をしようたいしよう（9）	3	大きくなった自分のことをふりかえろう（9）
	3	あたらしい1年生といっしょにあそぼう（9）	3	すてきなところを教え合おう（9）
3	6	あたらしい1年生をむかえるじゅんびをしよう（9）	3	大きくなった自分のことをまとめよう（9）
	3	もうすぐ2年生（9）	3	ありがとうをとどけよう（1）（9）

ポイント①
スタートカリキュラム
第1学年は、弾力的な時間割の編成を想定して例示してあります。

ポイント②
異単元
学校生活の入門期である第1学年に特に配慮が必要になります。異単元であっても、両学年の交流の機会を積極的に設定することが大切です。

ポイント③
同単元同内容異程度
くりかえし案を例示しています。同じ単元で同じ内容を扱いながらも程度を変えて学習することになります。

ポイント④
の単元は、同単元異内容（学年別指導）として例示していますが、同単元同内容同程度でも可能です。

同単元同内容同程度の場合 例
A年度「あきのおもちゃをつくろう」
B年度「うごくおもちゃをつくろう」

9 音楽科

(同題材同内容異程度、同題材同内容同程度)

1 年間指導計画を作成するに当たっての留意点

学習指導要領では、児童が表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する指導が求められています。

そのため、地域や学校の実態、児童の心身の発達の段階を考慮し、弾力的な指導計画が作成できるように、学年目標及び内容は、低・中・高学年の括りで示されています。そこで、2つの学年が同時に学習を行う複式学級にあっては、このことを生かすとともに、学習指導要領の趣旨を十分に理解して、創意ある指導計画を作成することが大切です。

(1) 指導計画の作成に当たって

○児童の実態等の把握

- ・児童一人一人が基礎的・基本的な内容を身に付けることができるようにするため、個に応じた指導の充実を図る必要があります。そのためには、児童や地域の実態、教育課程全体との関わりを考え、題材の目標、評価規準、指導内容、取扱う教材等を十分に吟味し、音楽活動を通して身に付けたい力を明らかにします。
- ・複式学級の場合、上学年の前年度の学習内容（注：学習内容とは、教師にとっての指導内容と同じで、指導事項と〔共通事項〕から成ります。以下同様とします。）と扱った教材を確認する必要があります。既習の教材を扱う場合は、学習内容や授業のねらいを高めて再度取扱うことも可能ですが、提示方法や上学年が下学年に教える活動を取り入れる等の工夫をし、児童主体の、より充実した音楽活動になるよう心がけます。



○指導目標設定の工夫

- ・複式学級においては、学習指導要領に示されている学年ごとの学習内容を明確にし、実現できるような指導目標を設定する必要があります。

○学習内容に基づく教材設定の工夫

- ・地域の人々や隣接学校との連携を深めるとともに、長い間親しまれてきた唱歌、地域で傳承されているわらべうたや民謡、郷土の音楽や踊り等、児童に身近な地域の音楽文化の教材化に努めます。学校の実情に合わせた編曲をしたり、様々な表現活動を組み合わせたりすることにより、児童の学習に生きる教材となるような工夫をします。

(2) 同題材同内容異程度の場合

学習内容を精選して、低・中・高学年それぞれに共通する学習内容の学びもれのないよう留意します。また、児童一人一人の能力、音楽経験の違い等を考慮するとともに、それぞれの学年の目標を立て指導と評価を一体化させます。学年相応のねらいやその活用について考慮します。

(3) 同題材同内容同程度の場合

内容の系統性、児童の音楽経験等を十分に考慮することが大切です。2学年同じ目標を立て指導と評価を一体化させます。ただ、学年差による楽器等の演奏技能、用語や記号の理解度等を考慮し、同題材同内容異程度等の学年別指導との折衷案で年間指導計画を作成することも考えられます。

2 実際の指導に当たっての留意点

複式学級の音楽科の学習指導においては、学年の異なる児童のそれぞれの能力や学年の実態を踏まえた上で、協力し合いながら、主体的かつ創造的な音楽活動に取り組むことができるよう指導することが求められています。実際の授業においては、児童が楽しく活動することを通して、表現や鑑賞の能力を高めるとともに、音楽活動の喜びを味わい、生涯にわたって音楽に親しむ態度や意欲を育成するため、次のような点に配慮しながら、複式学級のよさを生かした学習活動を展開します。

○創造的な学習活動を充実する

- ・音や音楽から聴き取り感じ取ったことをもとにして、児童自らが創意工夫しながら生き生きと音楽表現を行い、それを分かち合えるような学習の展開に努めます。
- ・児童が楽しみながら、主体的に課題に取り組めるように配慮しつつ、課題意識をもって音楽活動を展開していくことができる題材を設定します。

○自ら学ぶ意欲を育てる

- ・児童が進んで音や音楽に関わったり、豊かな音楽活動を体験したりすることができるように、〔共通事項〕を要とした教材研究を行い、学習意欲を高める学習内容を設定します。
- ・音楽を学び続ける意欲を高めるため、発展的に学習を積み重ねていくような学習活動の展開を構想します。

○指導と評価の一体化を図る

- ・上学年と下学年の音楽経験の差や少人数の利点を生かし、児童一人一人の実態に応じて、適時性のある個に応じた指導と評価を工夫します。



(1) 授業の前に

- 学習活動の見通しをもたせるために、掲示物等により学習の流れや学習のめあての可視化を図ります。特に学年別に展開する場合は、児童が主体的に進めることができるよう示します。

(2) 授業の中で

- 児童一人一人の実態を把握し、適切な個別指導を行います。また、学習活動を行う中で、児童の多様な発想を大切に、共有することで音楽観が広がるよう支援します。
- 音楽表現の創意工夫を試行錯誤する授業の場合、個やグループでの活動を取り入れる等、児童が主体的に授業を進めることができるように配慮します。その際、教師は音楽経験の差や少人数の利点を生かし、異学年の学び合いを効果的に取り入れるとともに、音楽表現や演奏のポイント等を声かけするようにします。
- 音楽表現の技能による能力差が予想される学習活動では、上学年が模唱（模奏）やアドバイスをしたり、下学年が上学年に質問をしたりする学習場面を設定します。また、お互いの音楽表現を交流し、学習内容が深まりのあるものになるように支援することが求められます。

(3) 授業の後で

- ワークシートや授業中の児童の姿の見取りをもとに、授業を振り返り、次時の展開に生かします。

10 図画工作科

(同題材同内容異程度、同題材同内容同程度)

学習指導要領では、学校や児童一人一人の実態に応じ、様々な表現に対応した弾力的な指導を重視する観点から、図画工作科の目標と内容を2学年まとめて示しています。複式学級ではこのことを積極的に生かし、2年間(24か月)のカリキュラムを(教科書の上下で)計画することが可能です。また、伸ばしたい資質・能力が共通するような題材を配列することが望まれます。この場合、下学年での経験やそこで習得した技術を基に上学年で学習するという学習過程が計画でき、学年差を考慮したカリキュラムを編成することが可能となります。

1 複式学級における指導計画作成の際の留意点

○複式学級だからといって、教科の目標が変わるわけではありません。単式学級同様、学習のねらいを明確にし、題材設定、扱う材料や用具等を工夫した指導計画を作成する必要があります。ただ、発達の段階の異なる2学年で構成された学級であるので、2学年を一斉に指導すればよいと安易に捉えるのではなく、学年差や発達における個人差を踏まえた上で、どんな力を伸ばせばよいのかを明確にもち指導計画を作成することが望まれます。

(1) 図画工作科で育成を目指す資質・能力がバランスよく育まれるように題材を配列すること

図画工作科で育成を目指す「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することができるように、1年間で系統性をもたせ配列を考えることが大切です。また、それらの資質・能力が次の学習においても生かされるよう題材間の関連を図ることも配慮する必要があります。図画工作科の特徴として、季節や学校行事と関連させた方が能力を発揮しやすいこともあります。さらに、他校との合同学習を計画する場合にも、ねらいを明確にし、ねらいが達成されるための時期や前後の題材を十分に考慮し、協議をして題材を配列することが望まれます。そのために他校との十分な協議が欠かせません。

(2) 学年差・個人差を考え、個々の児童の特性を生かした活動ができるよう、学習活動や表現方法等に幅をもたせるような工夫をすること

学年のちがいや一人一人の児童の発達の段階に応じて、指導目標の捉え方、内容の取り扱い方、程度の押さえ方、設備や材料・用具の活用の仕方を十分に考慮し、両学年の児童が無理なく対応できるような幅のある題材を設定することが大切です。また、下学年が上学年から刺激を受けることで期待以上の活動をすることや、上学年が下学年の活動の良さをつかみとることにより、活動が一層豊かになることもあるでしょう。このように、2学年の児童が同じ教室で学習することで、相互に色々と影響し合うことを視野に入れた、題材配列や場の設定の工夫を行うことが望まれます。

(3) 学習指導要領に示す各内容の指導に相当する授業時数に偏りがないように計画を立てること

「A表現」について、絵や立体、工作に表す内容や指導、題材の選択に偏りがないようにし、特に、工作に表す活動の充実を図るために、工作に表すことの内容に相当する授業時数が、絵や立体に表すことの内容に相当する時数とおよそ等しくなるように設定する必要があります。

「B鑑賞」については、「A表現」の指導に関連させて行うことを原則としていますが、指導の効果を高めるために鑑賞を独立して行うことも考えられます。いずれの場合も、形や色、作品等のよさや美しさを能動的に感じ取っていく資質や能力を育てる学習活動であることを意識し、適切に位置付けることが大切となります。

(4) 安全面での配慮を十分に行うこと

造形活動で使用する材料や用具、活動場所については事故防止に留意する必要があります。例えば木版画で下学年が彫刻刀を用いる、上学年が糸のこぎりを使用するといった異程度で題材を設定する場合、事前の指導に加え、活動時も事故防止に留意することが望まれます。

その他、第1学年の入学当初や第6学年の卒業期には学校行事等とのかかわりで題材を取り入れる、学年を越えて見合ったり教え合ったりする活動場面をできるだけ保障する等し、学校や児童の実態に応じて教科の目標が達成されるような指導計画を作成していくことが望まれます。特に、同程度の場合も異程度の場合も、低学年での複式指導においては、入学当初の児童と経験を積んだ2年生の児童とは発達の段階が大きく異なる場合も加味し、道具や材料の扱い方の学習目標等を意識して計画することが大切です。さらに、1年間を通して徐々に資質や能力が高まることをふまえ、1学期に行ったことを2学期の題材に生かすような題材配列を考えることも大切です。

2 同題材同内容異程度の指導にあたって

同題材同内容異程度（完全1本案）の場合には、それぞれの学年の目標を立て指導と評価を一体化させ学力を保障することが求められます。この場合、同じ内容を取り扱いますが、内容の発展、その系統性、児童の経験や能力の差等から考え、学年ごとにねらいを明確にしておく必要があります。また、両学年の題材を同じにしているため、上学年が下学年にアドバイスすることもできます。このことを踏まえ、授業展開も考えていくことが大切です。

※以下に、授業展開の例を示すので、留意点等参考にしてください。

～「色を重ねて～彫って見つける世界」高学年・A表現～

第5学年…色の重なりから思いついたことを工夫して、一版多色木版に表す。

第6学年…板材を切ったり彫ったりして版をつくり、色の重なりや押し方を工夫して表す。

1 学習の課題把握

2 これまでの版表現の学習を振り返り、気付きや工夫について考える。

3 自分の版をつくる。

上学年が下学年にこれまでの知識から用具の扱い方等をアドバイスする場を設けることもできます。上学年は下学年とともに振り返ることで、版表現の工夫を意識しながら学習に入ることができます。

指導者は、電動糸のこぎりの扱いに注意を払っていると同時に、学級全体（下学年の動き）が見渡せるように、この位置に使用機器を配置しています。

ここの形の組合せがおもしろいね。

【黒板の指示】
「友人の作品を見て、面白いすてきな形を探して伝えよう」



指導者が上学年への指導を行っている時の下学年への指示を、黒板に明記しておくことで、児童だけで活動できます。

4 ローラーにインクを付け、工夫して刷る。



ローラーでインクを盛る場所を一か所にすることで、上学年の色の工夫を下学年が学ぶ場が生まれます。また、上学年は下学年にアドバイスをしながら新たな発見をすることも考えられます。児童同士が互いにかかわり合う中で、相乗効果を生み、互いに発展させることができます。

5 作品を鑑賞する

・友だちと話し合いながら、活動を振り返り
作品カードに感想を書く。

版画という同じ内容で活動しているため、色の重ね方や彫り方の工夫という共通の視点を通して両学年ともに鑑賞を行うことができます。

3 同題材同内容同程度の指導にあたって

同題材同内容同程度（A・B年度方式）の場合には、2学年同じ目標を立て指導と評価を一体化させ学習を保障することが求められます。この場合、同じ内容を取り扱うため、内容の発展、その系統性などを十分に考慮することが大切です。また、発達の段階は異なるものの2学年同じ目標設定となるため、その評価規準の設定にあたっては児童の経験や能力の差等を十分に考慮する必要があります。

※以下に、授業展開の例を示すので、留意点等参考にしてください。

～「おもものつるでかざっちゃおう」低学年・A表現～

題材の目標…おもものつるの形や色、特徴から表したいことを見付けて、おもしろい形を考えながら教室に飾りをつくる。

1 学習の課題把握

2 学習活動

- ・つるを使ってできそうなことを発表し合う。
- ・つるに体全体で触れ、発表したことを試しながら飾りをつくる。



こうするとできるよ。ここをねじるとどうかな。

2学年同じ目標を設定し、単式学級同様、本時のねらいを児童に示します。

2年生は前年度に別の素材を使って編んだりつないだりする活動を行っています。これまでの学習を想起し、できることを発表することで上学年の学びが下学年の学びを広げることとなります。

上学年が下学年にアドバイスしたり、互いの活動を自由に見合ったりできるような学習環境を整えることは大切なことです。その際、両学年ともに学習のねらいを達成するためにはどのような場の設定が適切か十分に留意することが求められます。

図画工作科のポイント！

考えながらつくる、つくりながら考える子どもの実態を踏まえ、材料に触れながら表したいことが表せる環境を設定することが大切です。



3 鑑賞タイム

- ・活動を振り返り、自分の工夫したところを作品の前で発表する。
- ・友人の作品を見て工夫している点を見付け、発表し合う。

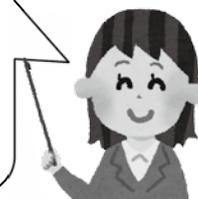
4 本時の振り返り

- ・作品カードに感想を書く。



同内容で行っているため、両学年ともに共通の視点で鑑賞を行うことができます。また、すべての子どもが発表し自分の思いを伝えることができるのも少人数の良さです。

ただやみくもに題材を配列するだけでは、図画工作科の資質・能力は育ちません。一つの学級集団ですが、学年によって発達の段階、既習事項は異なります。下学年で経験したことや身に付けた技術をもとに、上学年で学習するという流れを踏まえ、学習過程を構成するという視点やねらいをどこに設定するかを十分に考え授業を構成していくことが大切です。



低学年図画工作科（同題材同内容異程度）年間指導計画（例）

活動場所や取り扱う材料を同じにし、学年ごとに異内容の題材に取り組むことができるように設定しています。



学期	第1学年（68時間）				第2学年（70時間）			
	時間	学習指導要領との関連	学習の内容	取り扱う材料など	時間	学習指導要領との関連	学習の内容	取り扱う材料など
1 学期 (1年22) (2年24)			前年に学んだことを生かして表現する題材取り入れて、学びを確認します。		2	A表現 絵・工作	色画用紙、パス、はさみを使って、1年生に学校を紹介するためのカードをつくる	色画用紙、パス、はさみ
	1		オリエンテーション		1		オリエンテーション	
	2	A表現 絵	クレヨン・パスを使って好きなものを描く	クレヨン・パス	2	A表現 絵	クレヨン・パスを使って楽しかった活動を思い出して描く	クレヨン・パス
	2	A表現 造形遊び	砂場で砂とのかかわりながら、造形的な表現を工夫する	木切れ、石	2	A表現 造形遊び	砂場で砂とのかかわりながら、造形的な表現を工夫する	木切れ・石
	2	A表現 工作	色紙の切り方を楽しんだり、色紙を重ねたりしながら、教室の飾りをつくる	色紙、ハサミ	2	A表現 工作	カラーケント紙の切り方を工夫したり、重ねたりしながら、出来上がった形をつなげて新たな飾りをつくる	カラーケント紙、ハサミ
	2	A表現 絵画	共用絵具を用いて、筆の扱いや塗り方を工夫しながら、思いついた形を描く	共用絵具・筆	2	A表現 絵	自身の絵の具を用いて、色と色を混ぜ合わせながら新たな色をつくりだし、思いついた形を描く	絵具
	2	A表現 立体	粘土を丸めたり、ちぎったりしながら自分の好きなものをつくる	油粘土	2	A表現 立体	粘土を丸めたり、ちぎったりしながら遠足の楽しかった様子を思い出し、粘土で表す	油粘土
	3	A表現 工作	紙を折ったり立てたりしながら（紙を切り、立てて立体とさせる）カードをつくる	ハサミ、ペン	3	A表現 工作	紙を折ったり、立てたり重ねたりしながら（紙を切り、立てて立体とさせる、立体を重ねる）カードをつくる	ハサミ、カッター
	2	A表現 絵	絵具やペンを用いて好きなことを描く	自分の絵具ペン	2	A表現 絵	絵具やペンを用いて、体験したことを思い出して描く	自分の絵具ペン
	4	A表現 工作	ビニール袋やセロファンなど光を通す材料を使って、動物をつくる	ビニール袋、カラーセロファン	4	A表現 工作	ビニール袋やセロファンなど光を通す材料を使って、水に浮かべて遊ぶものをつくる	ペットボトル、カラーセロファン、ビー玉
2	A表現 造形遊び	色水をつくりながら新たな色の作り方や並べ方を工夫する	色水・ペットボトル	2	A表現 造形遊び	色水をつくりながら新たな色の作り方や並べ方を工夫する	色水・ペットボトル	
活動内容を同じに設定しても、子ども達の発達の段階は異なります。各学年でねらいを明確にしておくことが大切です。								
2 学期 (28)	6	A表現 立体	箱と箱を組み合わせて工夫しながら動物をつくる	紙を主とする箱など	6	A表現 立体	透明な容器などを使い、中に入れる材料や容器の形を考えながら動物をつくる	ペットボトル、ペン、綿など中に入れるもの
	2	A表現 造形遊び	ローラーで遊びながら色をつくることを楽しむ	ローラー、共用絵具	4	A表現 絵	紙を思いついた形に切り、ローラーで色付ける方法を工夫し、型紙版画に表す	ローラー、カッターハサミ、共用絵具
	2	A表現 絵	ローラーを使って、長い布に模様を描きのれんをつくる	ローラー、共用絵具	児童の実態においては、取り扱う題材の時間が両学年で異なる場合があります。学年によってはしっかりと時間を設定することが必要な場合もあります。その場合は他学年の題材を短時間の組合せにする等の工夫が必要となります。			
	4	A表現 工作	形の周りに貼ったり、描いたりして別の箱につくりかえる	色画用紙、モールなど	4	A表現 工作	形の周りに貼ったり、切ったりして別の形の箱にする（動かすと別の形になるようにする）	色画用紙、モールなど

- 前後の学年で取り扱う材料や用具について確認し、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりし、経験を重ねながら、児童がそれらの適切な扱いに慣れるように題材を配列していくことが望まれます。
- 各学年のねらいを明確にし、上学年は前年に行ったことを踏まえて学習に入ることができるようにしたり、下学年の活動を見ながらさらにアイデアをふくらませたりすることができるような授業づくりを心がけることが大切です。
- 第5学年では木版による一版多色版画を、第6学年では一版多色版画の応用として作成した版を何度も押しながら表現をしていくような題材を設定することもあるでしょう。両学年ともに版表現を行うことで、下学年は上学年の色の付け方や彫刻刀の扱い方を学び、上学年は下学年にアドバイスを行うことで、材料や用具の取り扱い方の確認にもなります。

低学年図画工作科（同題材同内容同程度）年間指導計画（例）

1年間で、前半に基礎的な内容を、後半に発展的な内容を実施することで、下学年でも学びが徐々に深まるよう留意して設定しています。



A年度 第1学年（68時間）第2学年（70時間）				B年度 第1学年（68時間）第2学年（70時間）				
学期	時間	学習指導要領との関連	学習の内容	取り扱う材料など	時間	学習指導要領との関連	学習の内容	取り扱う材料など
1学期 （1年22） （2年24）	(2)	A表現 絵・工作	色画用紙、パス、はさみを使って、1年生に学校を紹介するためのカードをつくる	色画用紙 パス、はさみ	(2)	A表現 絵・工作	色画用紙、パス、はさみを使って、1年生に学校を紹介するためのカードをつくる	色画用紙、パス、はさみ
	1		オリエンテーション		1		オリエンテーション	
	2	A表現 絵	クレヨン・パスを使って好きなものを描く	クレヨン・パス	2	A表現 絵	共用絵具を用いて、筆の扱いや塗り方を工夫しながら、ついた形を描く	共用絵具・筆
	2	A表現 造形遊び	砂場で砂とのかかわりながら、造形的な表現を工夫する	砂場	2	A表現 造形遊び	様々な大きさの箱をならべ材料とのかかわりを通して、新たな造形的な表現を工夫する	空箱
	2	A表現 工作	色紙の切り方を楽しんだり、色紙を重ねたりしながら、教室の飾りをつくる	色紙 ハサミ	2	A表現 工作	紙を折ったり立てたりしながら（紙を切り、立てて立体とさせる）カードをつくる	ハサミ、ペン
	4	A表現 絵	共用絵具を用いて、筆の扱いや塗り方を工夫しながら好きなことを描く	共用絵具、筆	3	A表現 工作	紙粘土や紙を使って、おうちの人にメダルをつくる	紙粘土、紙、ひもなど
	2	A表現 絵	クレヨン・パスを使って楽しかった活動を思い出して描く	クレヨン パス	2	A表現 立体	粘土を用いて、体験したことを思い出して描く	粘土
	2	A表現 造形遊び	新聞紙を折る、ちぎる、丸めるなどしながら材料とのかかわりを通して、新たな造形的な表現を工夫する	新聞紙	2	A表現 造形遊び	色水をつくりながら新たな色の作り方や並べ方を工夫する	色水・ペットボトル
	3	A表現 工作	好きな模様を並べ、色紙を貼るなどしながらカードをつくる	クレヨン、 パス、絵具	4	A表現 絵	楽しいこと、夢などを思い出して描く	クレヨン、 パス、絵具
	4	A表現 立体	粘土を使って遠足の楽しかった出来事を思い出して作る	粘土	4	A表現 工作	好きな模様を並べ、色紙を貼るなどしながらカードを思い浮かべて描く・カードの開き方を工夫する	クレヨン、 パス、絵具ハサミ
2学期 （28）	4	A表現 造形遊び	校内にあるものを並べ、材料とのかかわりを通して造形的な表現を工夫する	校内にある材料	下学年（年度の前半）で学習したことを基に上学年（年度の後半）で学習するという流れを踏まえ学習過程を構成することは、児童の学びを深めるという意味では大切となります。単に内容を配列するだけではなく、経験が生かされるようにすることや2学年が互いに関わり合う中で、相乗効果を生みながら学習を進展させることができるよう、学習過程を工夫できます。			
	4	A表現 絵	楽しいこと、夢などを思い出して、工夫して描く	水彩絵の具				

- 各年度において下学年がハードルの高い課題に直面することのないよう考慮する必要があります。
- 同題材同内容同程度（A・B年度方式・2本案）で行う場合は、1つの題材に対する目標は2学年とも同じであるため指導内容・評価規準も同じになります。よって、2学年ともに十分な学びが深まる題材配列となっているか、十分に考慮することが望まれます。
- 同題材同内容異程度同様、材料や用具については、他学年での取り扱いを確認し、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりし、経験を重ねながら、児童がそれらの適切な扱いに慣れるようにしましょう。（どの学年でどの材料や用具を扱うかは小学校学習指導要領解説図画工作編（p. 117～）を参考にすること。）

＜共通して大切にしたいこと＞

- カメラ等の機器とじっくり向き合う等、様々な材料や用具とかかわる機会を多くもつことができるのが少人数で構成される複式学級の良さです。この点も考慮し題材を工夫することもできます。
- B鑑賞については、鑑賞する対象のよさや美しさなどを自ら感じ取り味わい、作品等に対する自分の見方や感じ方を深めることができるようにすることが大切です。同じ作品を鑑賞する題材を設定することで、下学年は上学年の発見に刺激を受けたり、上学年は前年の気付きを思い出しながら新たな発見をしたりすることができます。
- 子ども同士が互いに関わり合う中で、相乗効果を生みながら学習を進展させるところが複式の良さです。特に、同内容の学習を組みやすい図画工作においては、その利点を生かした題材構成、授業構成が求められます。

11 家庭科

(折衷案：同題材同内容同程度、同題材同内容異程度)

1 年間指導計画作成の際の留意点

- 学習指導要領では、学年の目標及び内容が2学年まとめて示されています。内容は、内容AからCで示されていますが、指導の順序や三つの内容別に指導することを示しているものではありません。
- 内容A（1）ア「成長の自覚」、「家庭生活と家族の大切さ」については、第5学年の最初に履修させるとともに、学期や学年の区切り等の適切な時期に内容AからCと関連させた題材を配列して効果的に学習できるようにします。
- 内容B（2）「調理の基礎」及び内容B（5）「生活を豊かにするための布を用いた製作」については、2学年にわたって取り扱い、平易なものから段階的に学習できるよう十分検討して題材を配列します。
- 2学年が同じ学習目標の下で学ぶ同題材同内容同程度による指導、学年差や系統性を考慮した同題材同内容異程度による指導のそれぞれのよさを取り入れた折衷案が考えられます。また、学年別指導を中心とした異内容の指導と同題材同内容異程度による指導の折衷案も考えられます。
- 題材の構成に当たっては、目標を明確にし、資質・能力が育成されるよう内容や方法を吟味します。関連する内容を続けて学習する題材、関連する内容を組み合わせた題材、児童の実態を考慮した独自の題材等を構成し、学校独自の指導計画作成することで学習効果が高まるようにします。
- 児童の実態を多様な方法で的確にとらえ、使用する教材を個に応じて工夫したり、問題解決的な学習により個に応じた課題を選択して追究したりする等、弾力的な学習ができるようにします。

○内容確認表（表1）等を用いて、各内容項目の関連を図ってバランスよく題材が配列されているか、指導すべき内容に漏れがないか等を確認します。内容項目の系統性や発展性を確認するうえでも有効です。

表1 内容確認表（例）

	A								B			
	(1)		(2)		(3)		(4)		(1)		(2)	
	ア	イ	ア(ア)	ア(イ)	イ	ア	イ	ア(ア)	ア(イ)	イ	イ	
切実な生活と家族の大切さ	○											
成長の自覚												
調理の基礎												
生活を豊かにするための布を用いた製作												
ガイダンス												
①私の生活大発見!												
②)どんな生活をしているのかを												
③)自分でできそうな家庭の仕事を発見しよう												
④)できることを構やしてこよう												
⑤)おいしい楽しい調理の力												
⑥)調理の目的や手順を考えよう												
⑦)ゆでる料理をしよう												

学校の実態に合わせて、様々な指導計画作成することができますが、ここでは同題材同内容同程度・同題材同内容異程度の折衷案の留意点について示します。

折衷案（同題材同内容同程度・同題材同内容異程度）年間指導計画の作成にあたって

- 内容A（1）ア「成長の自覚」、「家庭生活と家族の大切さ」については、各年度の最初に計画した場合、第5学年は第4学年までの学習を振り返り2年間の学習の見通しがもてるようにし、第6学年は第5学年の学習を振り返り成長した自分を自覚したうえで1年間の学習の見通しがもてるようにする等、学年に応じたねらいを設定します。その際、第6学年が第5学年で学習した内容や成長した自分を発表する活動を取り入れる等して、複式学級のよさを生かした指導にすることができます。
- 内容B（2）「調理の基礎」及びB（5）「生活を豊かにするための布を用いた製作」については、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、学習が無理なく効果的に進められるようにするために、基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから複雑なものへ、段階的に題材を配列します。指導計画は、

学年の発展性や系統性、季節、学校行事、地域等との関連を考え配列するなどの工夫が求められます。2 学年間を見通した題材配列と指導内容の整理・確認表（表 2）を作成すると見通しをもって計画的かつ重点的に指導するのに役立ちます。

表 2 題材配列と指導内容の整理・確認表（例）

題材名（例）→ 実習題材（例）→ ↓知識・技能（例）	ひと針に心をこめて		ミシンにトライ！ 手作りで楽しい生活		思いを形にして生活を豊かに	
	フェルトの小物	フェルトの小物	ランチョンマット	袋	ランチョンマット	袋
	第 5 学年	第 6 学年	第 5 学年	第 6 学年	第 5 学年	第 6 学年
裁断	○		◎	○	◎	○
しるし付け	○		◎	○	◎	○
まち針の取り扱い	○		◎		◎	
玉結び・玉どめ	◎	◎				
なみ縫い	◎	◎		○		○
返し縫い			◎	○	◎	○
ボタン付け	◎	◎		○		○
ミシンの直線縫い			◎	○	◎	○
針・はさみの取り扱い	◎		◎		◎	
ミシンの取り扱い			◎	○	◎	○
アイロンの取り扱い				◎		◎

2 指導にあたって

○学習のねらいの明確化

家庭科は複数の内容項目を組み合わせて題材を構成することが多く、複式学級では 2 学年が同内容を同程度又は異程度で学習する場合もあることから、各学年の学習のねらいを明確にすることが大切です。

○評価規準

同題材同内容異程度で指導する場合、各学年の学習のねらいの程度が異なることから、評価規準は別々に設定します。

○教材・教具の工夫

- ・ 切り方見本カード（切り方の確認や自己評価や相互評価の判断基準として利用）（図 1）
- ・ 用具や熱源の取扱いカード（安全や衛生への注意喚起のために利用）（図 2）（図 3）
- ・ 製作物の段階標本（製作の見通しをもたせたり、自己評価や相互評価の判断基準として利用）
- ・ ICT 機器（手順やつまずきやすい技能を児童自身が必要に応じて確認するために利用） など



図 1 切り方見本カード



図 2 用具や熱源の取扱いカード



図 3 調理台にカードを設置
（資料提供：さいたま市立泰平小学校）

○地域との連携

支援ボランティアや地域と連携する際には、各学年の学習のねらいが達成できるよう、事前の打ち合わせと事後の振り返りが重要になります。

○協働的な学習活動

学習のねらいに応じて、上下学年の交流を図って学習を展開することで、学習内容に関する知識や情報が増えたり、意見交換をする中で事象を多面的に考えられたりする等の学習効果が期待できます。

高学年家庭科（折衷案：同題材同内容同程度、同題材同内容異程度）年間指導計画（例）

A年度				B年度							
期	題材名	時数		学習指導要領	期	題材名	時数		学習指導要領		
		5年	6年				5年	6年			
1 学期	ガイダンス ■	1	1	A(1)ア	1 学期	ガイダンス ■	1	1	A(1)ア		
	1 私の生活、大発見！					9 見つめてみよう生活時間					
	(1)どんな生活をしているのかな	1	1	A(2)ア		(1)生活時間を見つめてみよう	0.5	0.5	A(2)ア		
	(2)自分にできそうな家庭の仕事を見つけよう	2	2	A(2)アイ、B(2)ア(イ)		(2)生活時間を工夫しよう	1	1	A(2)アイ		
	(3)できることを増やしていこう	1	1	A(2)イ		(3)生活時間を有効に使おう	0.5	0.5	A(2)イ		
	2 おいしい楽しい調理の力					10 朝食から健康な1日の生活を					
	(1)調理の目的や手順を考えよう ●■	6	5	B(2)ア(ア)		(1)朝食の役割を考えよう	1	1	B(1)ア		
	(2)ゆでる料理をしよう			B(2)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)		(2)調理の目的や手順を考えよう ●■	9	8	B(2)ア(ア)		
	(3)工夫しておいしい料理にしよう			B(2)イ		(3)いためる調理で朝食のおかずを作ろう ●■ ※1	※1	8	B(2)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)、B(3)ア(ア)(イ)		
	3 ひと針に心をこめて					(4)朝食から健康な生活を始めよう	2	2	B(2)イ		
(1)針と糸を使ってできること ●■	8	7	B(5)ア(イ)	11 夏をすずしくさわやかに							
(2)手ぬいにトライ！			B(4)ア(イ)、B(5)ア(ア)(イ)	(1)夏の生活を見つめよう	1	1	B(6)ア(ア)				
(3)手ぬいのよさを生活に生かそう			B(5)イ	(2)すずしくさわやかな住まい方や着方をしよう	6	6	B(4)ア(ア)(イ)、B(6)ア(ア)				
2 学期	夏休みチャレンジ報告会				2 学期	夏休みチャレンジ報告会					
	8 ミシンにトライ！ 手作りでも楽しい生活					12 思いを形にして生活を豊かに					
	(1)ミシンぬいの良さを見つけよう ●■	11	9	B(5)ア(ア)(イ)		(1)針と糸を使ってできること ●■	14	11	B(5)アイ		
	(2)ミシンにトライ！			B(5)ア(ア)(イ)		(2)ミシンの使い方 ●■			※2	※3	B(5)ア(ア)(イ)
	(3)世界に一つだけの作品を楽しく使おう			B(5)イ		(3)目的に合った形や大きさ、ぬい方を考えよう					※3
	4 持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方					(4)計画を立てて、工夫して作ろう ●■	1	1	B(5)ア(ア)(イ)イ		
	(1)上手に選ぶために考えよう	1	1	C(1)ア(ア)		(5)衣生活を楽しく豊かにしよう	1	1	B(5)イ		
	(2)買い物の仕方について考えよう	4	4	C(1)ア(ア)(イ)、C(2)ア		13 まかせてね 今日の食事					
	(3)上手に暮らそう	1	1	C(2)アイ		(1)献立の立て方を考えよう	1	1	B(3)ア(ウ)		
	5 食べて元気！ご飯とみそ汁					(2)食事の役割と栄養のバランスを考えよう ●■	9	8	B(3)ア(ア)(イ)		
(1)毎日の食事を見つめよう	1	1	B(1)ア	(3)1食分の献立を立てて、調理しよう ●■	8	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)、C(1)ア(ア)(イ)、C(2)アイ					
(2)食事の役割と栄養のバランスを考えよう ●■	9	8	B(3)ア(ア)(イ)	(4)楽しく食事をするために計画を立てよう	1	1			B(1)イ、B(3)イ、C(2)イ		
(3)日常の食事のとり方を考えて、調理しよう ●■			B(2)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)、B(3)ア(ア)(イ)	「生活を変えるチャンス！」(課題発見・計画)	2	2	A(4)ア				
(4)食生活を工夫しよう	1	1	B(2)イ	「生活を変えるチャンス！」(発表、評価・改善)	1	1	A(4)ア				
3 学期	6 物を生かして住みやすく				3 学期	14 冬を明るく暖かく					
	(1)身の回りや生活の場を見つめよう	1	1	B(6)ア(イ)		(1)冬の生活を見つめよう	1	1	B(6)ア(ア)		
	(2)身の回りをきれいにしよう	5	5	B(6)ア(イ)イ		(2)暖かい着方や住まい方を工夫しよう	3	3	B(4)ア(ア)、B(6)ア(ア)イ		
	(3)物を生かして快適に生活しよう	1	1	B(6)イ、C(2)アイ		(3)冬の生活を工夫しよう	1	1	B(4)イ、B(6)イ		
	7 気持ちがあがる家族の時間					15 あなたは家庭や地域の宝物					
	(1)家族とふれ合う時間を見つけよう	0.5	0.5	A(3)ア(イ)		(1)家族や地域の一人として	0.5	0.5	A(3)ア(イ)		
	(2)我が家流団らんタイム	1	1	A(3)ア(ア)イ		(2)私から地域につなげよう！ 広げよう！	1	1	A(3)ア(イ)イ		
(3)団らんを生活の中に生かそう	0.5	0.5	A(3)イ	(3)もったかがやくこれからの私たち	0.5	0.5	A(3)イ				
5年生のまとめ/2年間のまとめ	1	1	A(1)ア	5年生のまとめ/2年間のまとめ	1	1	A(4)ア				
総授業時数	60	55		総授業時数	60	55					

- ※1・・・ B年度の5年生は、調理を初めて経験するため、調理用具の使い方にも触れる必要があります。
- ※2・・・ B年度の5年生は、手縫いの経験がありません。（手縫いの経験がなくても良い）
- ※3・・・ 5年生はエプロン等の平面構成の物を、6年生は袋物（題材指定）を作る等段階的に学習します。

<年間指導計画作成上で配慮したこと>

- 1 部分は、同題材同内容異程度で指導する。製作については、第5学年と第6学年の内容に程度の違い（例：製作する物、材料、用いる技能等）を設け、基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから難しいものへ、要素的なものから複合的なものへと次第に発展するよう配列しました。学年差を考慮して、製作する物に違いを設けたり、児童の個人差を考慮して興味・関心等に応じた学習コース（課題別、進捗別、習熟度別等）を児童自らが選択して学習できるようにする等の工夫が考えられます。
- 2 ●部分は、第5学年と第6学年の年間授業時数の差（5単位時間）を利用して、栄養と食品に関する内容を学習した上で献立の学習ができたり、手縫いやミシン縫いの基礎的な知識・技能を学習した上で製作ができたりするよう配列しました。
- 3 ■部分では、第6学年が第5学年に説明したり模範を示したりするような学習活動を取り入れる等して、複式学級のよさを生かした学習活動を展開できるように配列しました。第5学年は成長した自分を具体的に描くことができ、第6学年は既習の知識・技能等の一層の定着を図るとともに、その理解度や精度を向上させたり、応用・発展的な学習内容を取り扱うこと等も考えられます。

12 体育科

(同単元同内容異程度・同単元同内容同程度)

体育科では、低・中・高の2学年まとめて目標及び内容が示されており、内容の取扱いに偏りが無い限り、弾力的な扱いが可能です。今回の改訂で、全ての児童が楽しく、安心して運動に取り組むことができるように、特に運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導等の在り方について配慮する点が重視されました。複式学級における体育では、2学年と一緒に活動する機会が多いので、単式学級よりもさらに集団内の体格差や能力差等の個人差が大きくなりがちなことから、少人数であることを生かして特に個に応じた指導となるよう留意しましょう。

1 年間指導計画作成の際の留意点

【同単元同内容異程度】

- 同単元同内容異程度で行う場合は、評価規準をそれぞれの学年で設定します。
 - ・同単元同内容異程度で行う場合は、同じ内容を2年間繰り返しますので、初めてその内容に取り組む児童と、2年目の児童では目指す子どもの姿が異なるからです。
- 保健の学習については、発達の段階を考慮し、学習指導要領において学年ごとに内容が示されており、異単元で作成する必要があります。その際は学年別指導を行うこととなりますので、学校の実態により、「わたり」や「ずらし」、他の教員が学習時間に入る等工夫をして学習を進めます。

【同単元同内容同程度（A・B年度方式）】

- 同単元同内容同程度（A・B年度方式）で行う場合は、評価規準は二つの学年同じとなります。
 - ・ただし、上記同単元同内容異程度で評価規準をそれぞれの学年で設定する理由にあるとおり、A・B年度方式においても、同じ内容を2年間繰り返す場合、その運動については評価規準をそれぞれの学年で設定することとなります。
- 評価規準が同じであっても、複式学級における体育では集団内の体格差や能力差等の個人差が大きく、個に応じた支援を検討したり、場の設定を工夫したりする等の配慮が必要です。
- 各領域の運動を弾力的に取り上げ、大単元を組むことが可能になります。ゲームやボール運動領域等では、大単元を組むことでその運動に慣れ、時間をかけることで身に付けさせたい学力を保障することができるようになります。
- 保健の学習については、発達の段階を考慮し、学習指導要領において学年ごとに内容が示されています。一方で、学習指導要領総則「教育課程の編成における共通的事項」において、複式学級で特に必要がある場合には、「目標の達成に支障のない範囲内で、学年別の順序によらないことができる」と特例が認められています。したがって、A・B年度方式における保健の学習の取扱いにおいては、児童の発達・系統性を配慮しつつ、学校の判断により弾力的に配置することが可能となります。

※共通【同単元同内容異程度・同単元同内容同程度（A・B年度方式）】

○2年間のまとまりを意識し、2年間で全ての学習ができるように配慮します。例えば、第3学年及び第4学年のゲーム領域、第5学年及び第6学年のボール運動では3つの型（ゴール型・ネット型・ベースボール型）を2年間で全て学習します。

2 指導にあたっての留意点

- 単式学級よりもさらに集団内の体格差や能力差等の個人差が大きくなるので、それらに考慮した指導（用具や練習の場の工夫、学年差や個人差に配慮したルールやグルーピングの工夫等）を行い、どの児童にも運動の特性に触れる楽しさや喜びが味わえるようにしていきます。また、個々の児童の実態に合わせて、段階的に指導するとともに、安全面に配慮した指導を行います。
- 複式学級における体育では、上学年の技能、下学年の思考力、判断力、表現力等が十分伸びない場合があります。上学年については学習カードやICT機器などを活用する等して、技能の伸びを保障する工夫をしていきます。下学年については、下学年だけで話し合う等グルーピングの工夫や思考場面（書く活動）や下学年の発言場面を設定する等学習の進め方を工夫して思考力、判断力、表現力等を育成するよう配慮します。
- 上学年が下学年に教えたり、手本になったり、下学年が上学年の学び方を見て見通しをもって活動したりする等、上学年と下学年が関わる複式学級のよさを生かした学習活動を充実させます。

13 外国語科

(折衷案：同単元同内容異程度、同単元同内容同程度)

1 年間指導計画を作成するに当たっての留意点

外国語科の目標は、より弾力的な取扱いができるよう学年ごとではなく、それぞれに2学年間を通した目標となっています。この目標を踏まえ、内容も2学年を通じて指導するものとして示されており、児童の実態に応じて指導内容を設定し必要な内容を繰り返し指導する等、柔軟に指導することが適当であるとされています。また、外国語科では、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することが目標であり、友達とやり取りしたり発表したりする言語活動が、その中心的な内容になります。そこで、より人数の多い集団で活動できる同単元同内容（完全1本案またはA・B年度方式、もしくはその折衷案）で教育課程を編成して学習することで目標を達成しやすくなると考えられます。

年間指導計画の作成にあたっては、基本的には学年による経験差に応じた同単元同内容異程度（完全1本案）と、2学年とも同じ評価規準で活動する同単元同内容同程度（A・B年度方式）の折衷案の作成が考えられます。

授業を実施するにあたっては、児童理解や学習集団づくり等が求められるため、学級担任の存在は欠かせません。しかしながら、活発なコミュニケーションの場の設定、国際理解教育の推進、また専門性の重視等を考えると、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材の協力や専門性を有する教師の指導等、校内指導体制の充実を図ることが大切です。その上で、教育課程や指導方法の工夫を行います。

(1) 同単元同内容異程度による指導

- ・発達段階や既習内容を踏まえ、目標を上学年と下学年で違うものにして指導を行います。例えば、学級の構成が変わった4月に、第5学年の単元目標を「進んで簡単な自己紹介をしようとする」、第6学年の目標を「好きなことなどを含めて自分のことを伝え合おうとする」と設定し、同じような活動でも目指す単元のゴールの姿を異なるものにするすることで、各学年の児童にとって達成感のある学習にすることができます。
- ・2年間で繰り返し学習する単元（以下「共通単元」）では毎年度同じ表現内容を取り上げますが、例えば「できること・できないこと」の単元では、第6学年は一人でインタビューをし、第5学年は上の学年の支援を得てインタビューするなど、目標を上学年と下学年で違うものにして、繰り返しの中でより自信を持って表現できるようにします。
- ・3学期は、第6学年の中学校への接続等を配慮し、2年間のまとめとして設定された第6学年の単元を中心に毎年度繰り返し学習することが効率的であると考えられます。

2 実際の指導に当たっての留意点

複式学級を有する小規模校で外国語科の指導を行うにあたって、次のような長所と短所が考えられます。

【長所】

- ・児童一人当たりの英語発話量が多い。
- ・授業者やALT等が、個別に指導したり評価したりできる時間が長い。
- ・児童一人一人の興味・関心や発達段階に応じた言語活動の設定がしやすい。
- ・上学年を学習モデルとして生かすことができる。

【短所】

- ・お互いのことをよく知っていることから、言語活動の必然性をもたせるのに工夫が必要である。
- ・言語活動の相手に限りがあり、様々なコミュニケーションを行うことが難しい。
- ・上学年を中心に活動すると、下学年にとって難しい内容になる場合がある。

複式学級における外国語科の指導にあたっては、これらの長所や短所を踏まえ、次のような点に配慮しながら学習活動を行うことで、複式学級のよさを生かした指導が可能となります。

(1) 指導体制の充実と工夫を図る

- ・ALT等とのチーム・ティーチングを行う時には、複式学級についてきちんと説明し、それぞれの学年に応じた関わり方をしてもらおうよう打ち合わせをします。
- ・小規模校で教師同士の連携が図りやすいというよさを生かし、例えば振り返りカードを他教科と共通なものにする等、情報交換を積極的に行います。

(2) 2学年で学習していることに配慮する

- ・下学年が慣れてきたように見えても、2学年をひとくくりにして捉えるのではなく、下学年の既習内容や発達段階を十分に考慮します。
- ・上学年をデモンストレーション等でモデルとして生かします。
- ・同単元同内容で単元目標や評価規準は同じであっても、上学年と下学年で扱う語彙数を調整する等し、児童一人一人が達成感のある学習になるようにします。
- ・第6学年に対して中学校進学を控えた時期には、中学校への接続を意識した指導を行います。

(3) 質の高い言語活動を目指す

- ・児童同士が家族のようにお互いのことを知っている少人数の学級においては、分かりきった答えを尋ね合うような言語活動にならないよう、必然性のある言語活動を設定するようにします。
- ・友達同士やALT等だけでなく、学級担任以外の教職員や保護者、地域の方に言語活動に参加してもらうことで、様々なコミュニケーション活動を設定することができます。
- ・少人数のメリットを生かし、ICT機器等を活用することで、海外の情報に直接触れたり、外国の人々とコミュニケーションを図る機会を設定したりすることも可能です。

3 その他

雲南市立吉田中学校、吉田小学校、田井小学校では、平成 26 年度より 4 年間「外国語教育強化地域拠点事業（文部科学省委託事業）」の指定を受け、「ふるさとを愛し、その良さを広く世界に発信しようとする意欲とコミュニケーション能力の基礎を身に付け、グローバル社会に向けて自らの生き方を切り拓いていこうとする心情や態度を養う英語教育の在り方を探る～複式学級及び小規模校での実践を中心に～」をテーマに実践を積み重ねてこられました。

吉田小学校、田井小学校で取り組まれた実践については、吉田小学校のホームページに掲載されています。

【ホームページ掲載内容】

- ・外国語科・外国語活動実践研究成果発表会 研究紀要、大会要項
- ・中学年 単元配列表、高学年 単元配列表

(1学期)【A年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画(例)

パターン1

・教科書にない言語活動を取り入れることも可能です。
 ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、A年度は上学年を、B年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

単元	題材	目標	表現(児童の発話例)	語彙(児童が使う語彙例)	時数	主な言語活動例
5 U1	自己紹介	(5年生)自分のことを相手に伝えよう。 (6年生)自分のことを相手に伝えて、プロフィールカードをつくろう。	I'm Emily. How do you spell your name? (E-M-I-L-Y, Emily). What (sport /color/food) do you like? I like (soccer) . Nice to meet you. I'm from (Singapore) . I like (dogs) . My birthday is (May 5th) .	スポーツ/色/食べ物/学校 アルファベット/国/動物/月/日付等	8	(5年生) ・名前やつづり、好きなもの、ことを友達とたずね合った上で、「名刺カード」を作り、交換する。 (6年生) ・名前や好きなもの、こと、誕生日などについてたずね合ったり、書いたりする。 ・例を参考に伝えたい文を書き写したりする。 ・書き留めた文をもとに「プロフィールカード」を作り、発表する。
6 U2	日常生活	好きな一日の過ごし方を伝えよう	I live in (Matsue in Japan) . I go to (Chuo Elementary School) . I usually (get up) at (six) . What is your treasure? Can you guess? It's (white) . It's (round) . Is it (a baseball) ? Yes, that's right. My treasure is (this baseball) .	乗り物/一日の時間/一日の生活/日常生活など	8	・例を参考に伝えたい文を書き写したりする。 ・書き留めた文をもとに「宝物紹介カード」を作り、発表する。
6 U3	行った理由を伝えて行きたい国を伝えよう		(France) is a nice country. You can see (the Eiffel Tower) . Do you know (the Eiffel Tower) ? What can we eat in (France) ? You can eat (macaron) . It's (delicious) .	国/様子/食べ物・味など	8	・分かったことを友達とたずね合ったり、世界の国と有名なものについてメモして書いたりする。 ・例を参考に伝えたい文を書き写す。それをもとに「旅行案内カード」を作り、発表する。
6 CYS1	1学期のまとめ	1学期の学習をまとめよう		既習事項の総復習	2	児童が知っている外国の人にメッセージを伝えるという想定で、その人の説明や感想などを考えてメッセージカードを作り、スピーチをする。

(2学期)【A年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画(例)

パターン1

・教科書にない言語活動を取り入れることも可能です。
 ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、A年度は上学年を、B年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

単元	題材	目標	表現(児童の発話例)	語彙(児童が使う語彙例)	時数	主な言語活動例
6 U4	夏休みの思い出	夏休みの思い出について伝え合おう	I went to (the mountain) . I enjoyed (camping) . I ate (curry and rice) . It was (great) .	したこと/自然/デザート/味/場所/動作/食べ物/気持ちなど	4	・夏休みの思い出や昨日食べたものについて友達とたずね合ったり、例を参考に伝えたい文を書き写したりする。 ・書き留めた文をもとに「夏休みの記録メモ」を作り発表する。
5 U4	できること・できないこと	友だちや先生の得意なことをたずね合おう	I can (play the recorder) . He is (a swimmer) . He can (swim well) . Can you (cook well) ? Yes, I can / No, I can't. Who is this? This is (Mr. Smith) . It's (my/your) turn.	動物/建物/楽器/家族/人など	4	・歌やチャント等を通して、動作、建物、楽器、家族、人に関する語句や表現に慣れ親しむ。 ・先生や友達にインタビューをしたり、そのことをもとに名前を書いたり、できることなどの発表絵カードを置いたりする。
5 U5	道案内	道案内で使われる表現に親しもう	Where is (the post office) ? Go straight (for two blocks) . It's (in / by / on / under) (the desk) . Excuse me. You're welcome.	建物/道案内/日常生活/位置など	8	・歌やチャントを通して、道案内、位置、日常生活、建物などに關する語句や表現に慣れ親しむ。 ・巻末の絵カードを机の上に置き、オリジナルタグで道案内をする。
5 U6	注文する価値を尋ねる	自分が食べたいものを注文したりたずねたりしてみよう	What would you like? I'd like (a salad) , please. How much is it? It's (570) yen. Sorry. No, thanks.	食べ物/飲み物/デザート/味/数など	8	・地域のおふるさと料理やおみやげ等を考えて注文したり、値段をたずねたりする。 ・食べてみたい日本各地の名物を決めて、絵カードを使って注文したり、会計しあった上で、「ふるさとメニュートレイ」を使って買い物し合う。
5 CYS2	2学期のまとめ	2学期の学習をまとめよう		既習事項の総復習	2	・地域のおふるさとを外国人の人に紹介することを想定し、建物や人、特産物などから伝えたいことを選び、パンフレットを作り、スピーチを行う。 ・道徳教材「はしの上のおおかみ」の8コママンガを見ながら、音声を聞いて物語の流れを追う。

(3学期)【A年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画(例)

パターン1

・教科書にない言語活動を取入れることも可能です。
この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、A年度は上学年を、B年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

単元	題材	目標	表現(児童の発話例)	語彙(児童が使う語彙例)	時数	主な言語活動例
5 U7	日本紹介	好きな季節を伝えたりたずねたりしよう	<p>Welcome to Japan. We have (hanami) in (spring). What do you do on New Year's Eve? I usually (play tarutaru). Oh, really? Why do you like winter?</p>	年中行事/食べ物/遊び/季節/様子/状態/形/頻度など	4	<ul style="list-style-type: none"> 日本の遊びや年中行事について、クイズを出し合ったり、その行事にすることや食べるものについてたずね合ったりする。 好きな季節やその理由、その季節で行う行事をたずね合ったりして、「日本の四季ポストカード」を作り紹介する。
6 U7	小学校の思い出を伝えよう	小学校の思い出を伝えよう	<p>My best memory is (our school festival). We went to (Kyoto) (in June). We saw (many temples). I enjoyed (talking with my friends).</p>	学校行事/したこと/建物/動作など	4	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活や修学旅行で見たこと、楽しんだことなどについてたずね合ったり、例を参考に伝えた文を書き写したりする。
5 U8	あこがれの人を紹介しよう	あこがれの人を紹介しよう	<p>Who is your hero? My hero is (my brother). Why is he your hero? He is good at (cooking). He is always (kind to me). What can he do well?</p>	一日の生活/性格/顔/度/スポーツ/楽器など	4	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の目録についてのゲームをしたり、絵をヒントに友だちと質問し合ったりする。 書き留めた文をもとに「アルバムシート」を作り、紹介し合う。
6 U8	将来の夢について話そう	将来の夢について話そう	<p>I want to join (the volleyball club). I want to enjoy (sports day). I'm good at (running). I want to be (a volleyball player).</p>	部活動/学校行事/動作/教科/職業など	4	<ul style="list-style-type: none"> 中学校で楽しみたい学校行事や入りたい部活動、将来になりたい職業などについてたずね合ったり、例を参考に伝えた文を書き写したりする。 書き留めた文をもとに、「夢言書カード」を作り、スピーチをする。

「学年別の内容による指導」A・B年度共通

5 CVS2	3学期の学習をまとめよう	これまでの学習した事項	2	英語の先生に「日本のすてき」を紹介することを想定し、人や行事、食べ物などから伝えたいことを選び、紹介ガイドの1ページを作り、スピーチをする。また、クラス全員のガイドのページを集めてガイドブックにする。
6 CVS3	3学期の学習をまとめよう	これまでの学習した事項	2	卒業記念として「クラスのみんなに伝えたいメッセージ」を書き、メッセージを紹介するスピーチをする。

(1学期)【B年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画(例)

パターン1

・教科書にない言語活動を取入れることも可能です。
この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、A年度は上学年を、B年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

単元	題材	目標	表現(児童の発話例)	語彙(児童が使う語彙例)	時数	主な言語活動例
5 U1	自己紹介	(5年生)自分のことを相手に伝えよう。 (6年生)自分のことを相手に伝えて、プロフィールカードをつくらう。	<p>I'm Emily. How do you spell your name? (E-M-L-I-Y, Emily). What (sport /color/food) do you like? I like (soccer). Nice to meet you. I'm from (Singapore). I like (dogs). My birthday is (May 5th).</p>	スポーツ/色/食べ物/学校/アルファベット/国/動物/月/日付等	8	<ul style="list-style-type: none"> (5年生)名前やつづり、好きなもの、ことを女だちと尋ね合った上で、「名刺カード」を作り、交換する。 (6年生)名前や好きなもの、ことを誕生日について尋ね合った上、書いたたりする。 例を参考に伝えた文を書き写したり、書き留めた文をもとに「プロフィールカード」を作り、発表する。
5 U2	誕生日	誕生日や欲しいものを伝えよう	<p>When is your birthday? My birthday is (May 5th). What do you want for your birthday? I want (a yellow T-shirt). Thank you. (This is for you. Here you are.</p>	月/日付/衣類/状態/日常生活	8	<ul style="list-style-type: none"> 誕生日やクリスマス、お正月の行事の日付や、それらの日にほしいものについて尋ね合う。 誕生日の日付やほしいものを尋ね合った上で、「バースデーカード」を作り、友達と交換し、貼る。
5 U3	学びたい教科やなりたい職業	学びたい教科やなりたい職業を伝えよう	<p>What do you want to study? I want to study (home economics). What do you want to be? I want to be (a baker). Good luck!</p>	教科/職業/天気/曜日/気分	8	<ul style="list-style-type: none"> 学びたい教科やなりたい職業について友達と尋ね合う。 学びたい教科やなりたい職業について尋ね合った上で、「夢に近づく時間割」を作り、紹介する。
6 CVS1	1学期の学習をまとめよう	1学期の学習をまとめよう		既習事項の総復習	2	児童が知っている外国の人にメッセージを伝えるという想定で、その人の説明や感想などを考えてメッセージカードを作り、スピーチをする。

(2学期)【B年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画 (例)

・教科書にない言語活動を取り入れることも可能です。
 ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、A年度は上学年を、B年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

単元	題材	目標	表現(児童の発話例)	語彙(児童が使う語彙例)	時数	主な言語活動例
6 U4	夏休みの思い出について	夏休みの思い出について伝え合おう	I went to (the mountain). I enjoyed (camping). I ate (curry and rice). It was (great).	したこと/自然/デザート/味/場所/動作/食べ物/気持ちなど	4	・登場人物の夏休みの思い出についての話を聞く。 ・夏休みの思い出や昨日食べたものについて友達とたずね合ったり、例を参考に伝えたい文を書き写したりする。 ・書き溜めた文をもとに「夏休みの記録メモ」を作り発表する。
5 U4	できること、友だちや先生への得意なことなどをたずね合おう	友だちや先生への得意なことをたずね合おう	I can (play the recorder). He is (a swimmer). He can (swim well). Can you (cook well)? Yes, I can. / No, I can't. Who is this? This is (Mr. Smith). It's (my/your) turn.	動作/建物/楽器/家族/人など	4	・先生や友達にインタビューをしたり、そのことをもとに名前を書いたり、できることの巻末絵カードを置いて発表する。
6 U5	地球に暮らす生き物について考え、その生き物について発表しよう	地球に暮らす生き物について考え、その生き物について発表しよう	Where do (sea turtles) live? (Sea turtles) live in (the sea). What do (sea turtles) eat? (Sea turtle) eat (jellyfish).	海の生き物/動物/虫/自然/体	8	・生き物がどこで暮らし、何を食べているのかなどについて友達と尋ね合ったり、巻末絵カードを置いて発表したりする。例を参考に伝えたい文を書き写したりする。 ・書き溜めた文をもとに「フービーインカード」を作った上で、グループで食物連鎖のポスターを作り、発表する。
6 U6	注文する、備品を準備する	世界のつながりを考えてオリジナルメニューを作ろう	I ate (curry and rice) last night. I usually eat (beef curry) at home. (The beef) is from (Australia). (Beef) is in the (red) group.	食事/食べ物/食材/果物/野菜	8	・食べ物や飲み物の産地や栄養成分のグループについて、チラシや絵カードを使って友達とたずね合ったり、例を参考に伝えたい文を書き写したりする。 ・書き溜めた文をもとに「オリジナルカレーメニュー」を作成する。またグループで「オリジナルカレー」を考えて発表する。
6 CYS2	2学期のまとめ	2学期の学習をまとめよう		既習事項の総復習	2	・持ち物、動物、食べ物などの身の回りの物から世界と自分のつながりを探し出して、ポスターを作り、スピーチをする。

(3学期)【B年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画 (例)

・教科書にない言語活動を取り入れることも可能です。
 ・この年間指導計画は、単式学級の計画をもとに、A年度は上学年を、B年度は下学年を中心とした単元配列となっています。

単元	題材	目標	表現(児童の発話例)	語彙(児童が使う語彙例)	時数	主な言語活動例
5 U7	日本紹介	好きな季節を伝えたり、敬なったりしよう	Welcome to Japan. We have (harami) in (spring). What do you do on New Year's Eve? I usually (play karuta). Oh, really? Why do you like winter?	年行事/食べ物/遊び/季節/様子/状態/形/頻度など	4	・日本の遊びや年行事について、クイズを出し合ったり、その行事にすることや食べるものについて尋ね合ったりする。 ・好きな季節やその理由、その季節で行う行事を尋ね合った上で、「日本の四季ポストカード」を作り紹介する。
6 U7	小学校の思い出を伝え合おう	小学校の思い出を伝え合おう	My best memory is (our school festival). We went to (Kyoto) in (June). We saw (many temples). I enjoyed (talking with my friends).	学校行事/したこと/建物/動作など	4	・学校生活や修学旅行で見たこと、楽しんだことなどについて尋ね合ったり、例を参考に伝えたい文を書き写したりする。
5 U8	あこがれの人物を紹介しよう	あこがれの人物を紹介しよう	Who is your hero? My hero is (my brother). Why is he your hero? He is good at (cooking). He is always (kind to me). What can he do well?	一日の生活/性格/頻度/スポーツ/楽器など	4	・登場人物の目録についてのゲームをしたり、絵をヒントに友だちと質問し合ったりする。「アルバムシート」を作り、紹介し合う。
6 U8	将来の夢について発表しよう	中学校生活で楽しみなこと、将来の夢について伝えよう	I want to join (the volleyball club). I want to enjoy (sports) (day). I'm good at (running). I want to be (a volleyball player).	部活動/学校行事/動作/教科/職業など	4	・中学校で楽しみたい学校行事や入りたい部活動、将来やりたい職業などについて尋ね合ったり、例を参考に伝えたい文を書き写したりする。 ・書き溜めた文をもとに、「夢宣言カード」を作り、スピーチをする。

「学年別の内容による指導」A・B年度共通

5 CYS2	3学期のまとめ	3学期の学習をまとめよう	これまでに学習した事項		2	英語の先生に「日本のすてき」を紹介することを想定し、人や行事、食べ物などから伝えたいことを選び、紹介カードの1ページを作り、スピーチをする。また、クラス全員のガイドのページを集めて「ガイドブック」にする。
6 CYS3	3学期のまとめ	3学期の学習をまとめよう	これまでに学習した事項		2	卒業記念としてクラスのみんなに伝えたいメッセージを書き書きに書く。メッセージを紹介するスピーチをする。

(1学期)【A年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画(例)

パターン2

教科書にない言語活動を取り入れることも可能です。

単元	題材	目標	扱う内容, 表現例, 語彙例	時数	主な言語活動例
L1			<p>語彙: 月/季節/家族/曜日/教科/食べ物/国名/建物/職業/身の回りのもの</p> <p>5年生</p> <ul style="list-style-type: none"> • Do you like (yellow)? / Yes, I do./No, I don't. • I like (dogs). I don't like (cats). • I like (sport) do you like? • I have (a glove). I don't have (a bat). I want (a bat) now. • I see. / Me, too. / Really? / Oh. / Great! <p>6年生</p> <ul style="list-style-type: none"> • Let's (be friends). • I like (basketball). I can (play the piano). • What (sports) do you like? • My favorite place is (the music room). <p>語彙: 月名 / 数詞</p>	1	<p>前年度までに学んだ語彙の復習を行う</p> <p>(5年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分の名前や、好きな物を伝え合う。 (6年生) • 教科名、スポーツ名など好きなことの表し方を知り、シートを作って自己紹介し合う。
5 L1	自己紹介	<p>(5年生)</p> <p>あなたのことを女だちに知ってもらおう</p> <p>(6年生)</p> <p>This is me. シートをつくって自己紹介しよう</p>		8	
6 L1	町のおすすめの場所	町のおすすめの場所をしようかいしよう	<p>• Welcome to (my town).</p> <p>• We have (a cake shop).</p> <p>• We can (enjoy fishing).</p> <p>• What is your favorite place in (our town)?</p> <p>• Why do you like it? / We can (play soccer there).</p> <p>語彙: 施設名 / 自然 / 動作 / 飲食物 / 建物</p>	6	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の住む場所の近くにあるおすすめめの場所について尋ね合う。 • 自分の町のおすすめの場所を紹介するシートを作る。 • 作ったシートを使って町の観光マップを作る。
6 L2	町のおすすめの場所	町のおすすめの場所をしようかいしよう		6	<ul style="list-style-type: none"> • You can (enjoy hanami) in (April). • What do you like about Japan in (August)? I like (summer festival). • 形容詞 (sweet/bitter/sour/salty) • 語彙: 日本の伝統的な文化, 行事など
6 L3	好きな日本文化	好きな日本文化をしようかいしよう		6	

(2学期)【A年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画(例)

パターン2

教科書にない言語活動を取り入れることも可能です。

単元	題材	目標	扱う内容, 表現例, 語彙例	時数	主な言語活動例
6 L4	夏休みの思い出	夏休みの思い出を絵日記にして伝えよう	<ul style="list-style-type: none"> • What did you do in (your summer vacation)? • 過去形 (went / saw / ate / was / enjoyed) • 形容詞 (fun / delicious / big / exciting / great / cool) • 語順 	4	<ul style="list-style-type: none"> • 夏休みの思い出について尋ね合う。 • 夏休みの思い出を絵日記にすする。
5 L5	できること	クラスみんなの「できること」を集めよう	<ul style="list-style-type: none"> • I can (play the recorder). • He/She can (swim well). • Who can (ski)? • What can you do? <p>• できることの語彙 (swim, sing, dance, play the piano など)</p> <p>• どのようにできるかの語彙 (副詞) (well, high, fast)</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> • 自分ができていることを伝える。 • 友だちにできることを聞いて回り、「できることの本」を作る。
5 L4	日課	自由な一日の過ごし方	<ul style="list-style-type: none"> • I (get up) at (six in the morning). • What time do you (get up)? • What time is it in your city? • It's (six o'clock in the morning). • I (always) (wash the dishes after dinner). • 目録 / 習慣 / 頻度 (always, usually, sometimes / never) 	7	<ul style="list-style-type: none"> • 自由な一日があったらどう過ごしたいかを伝えあう。
5 L3	注文する	オンラインメニューで、ロールプレイをしよう	<ul style="list-style-type: none"> • What would you like? • I'd like (a pizza and a salad). • What (drink) would you like? • What (ice cream) would you like? • How much? • Check, please. • Here you are. That's (990 yen). • 語彙: 食べ物 / 飲み物 	7	<ul style="list-style-type: none"> • 自分が欲しいものを考え、友だち注文のやり取りをする。 • オンラインメニューを考え、それをを使ってレストランのロールプレイを行う。
5 L5	行きたい国	行きたい国をしようかいしよう	<ul style="list-style-type: none"> • What country do you want to visit? / I want to visit (Spain). • Why? / I want to (see the Sagrada Familia). • 語彙: 国・地域名 	7	<ul style="list-style-type: none"> • 行きたい国について尋ね合う。 • 行きたい国についての旅行案内を作り、紹介する。

(3学期)【A年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画 (例)

パターン2

・教科書にない言語活動を取り入れることも可能です。

単元	題材	目標	扱う内容、表現例・語彙例	時数	主な言語活動例
6 L7	思い出	小学校の思い出を伝え合おう	<ul style="list-style-type: none"> What's your best memory? / My best memory is (the school trip). We (went to Yokohama / ate Chinese food / saw Mt. Fuji / enjoyed singing). It was (delicious / fun / beautiful). 語彙: 学校行事/ 学校生活 	5	<ul style="list-style-type: none"> 思い出に残っている学校行事について、尋ね合う。 思い出の学校行事をシートに書く。
6 L8	将来の夢	将来の夢を発表し合おう	<ul style="list-style-type: none"> What do you want to be? I want to be a (scientist). Why? / (I like my science classes). Good luck! / Fantastic! / Perfect job for you! / Great! / Nice dream! 語彙: 職業名 	5	<ul style="list-style-type: none"> つきたい職業について尋ね合う。 将来の夢を風船シートに書く。
5 L9	仲良く なりた い人 しい人	友だちになつてみた い人やキヤラクターを しようかいいしよう	<ul style="list-style-type: none"> Who is your dream friend? This is my dream friend. (She) can (swim very fast). (She) is (cool). What are you good at? I'm good at (cooking). (He) is good at (swimming). (He) is my favorite (baseball player). 形容詞 (brave, cool, funny, strong & great, kind) 	5	<ul style="list-style-type: none"> 得意なお互いにお互いに尋ね合う。 友だちになつてみたい人についてワークシートに書き、紹介する。
6 L9	中学校 校生 校生活	中学校でしたいことを 発表しよう	<ul style="list-style-type: none"> What club do you want to join? / I want to join (the newspaper club). What event do you want to enjoy? / I want to enjoy (the culture festival). 語彙: 中学校の部活/ 学校行事 My Book で使う表現 (既習の表現練習) 	5	<ul style="list-style-type: none"> 入りたい部活動や楽しみにしている学校行事について尋ね合う。 中学校でしたいことを書き、それをもとに発表する。

(1学期)【B年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画 (例)

パターン2

・教科書にない言語活動を取り入れることも可能です。

単元	題材	目標	扱う内容、表現例・語彙例	時数	主な言語活動例
LST			前年度までに学んだ語彙の復習、アルファベット探しを行う 語彙: 月/季節/家族/曜日/教科/食べ物/国名/建物/職業/身の回りのもの	1	
5 L1	自己紹介	(5年生) あなたのことを友だちに知ってもらおう (6年生) This is me.シートを作つて自己紹介しようか	<ul style="list-style-type: none"> I'm Emily. How do you spell your name? (E-M-I-L-Y, Emily). What (sport /color/food) do you like? I like (soccer). Nice to meet you. I'm from (Singapore). I like (dogs). My birthday is (May 5th). 	8	<ul style="list-style-type: none"> (5年生) 名前やつづり、好きなもの、ことを友だちと尋ね合う。 (6年生) 名前や好きなもの、こと、誕生日などについて尋ね合ったり、書いてやりする。 例を参考に伝えるたい文を書き写した。 This is me.カードを用いて自己紹介しようか。
5 L2	誕生日	クラスの人によ日カレンダーをつくらう	<ul style="list-style-type: none"> My birthday is (January 3rd). When is your birthday? What season do you like? I like (summer). How many (monkeys) do you see (in the picture)? / (Twelve). 語彙: 月名 / 数詞 / 四季 	6	<ul style="list-style-type: none"> 好きな季節を尋ね合う。 互いの誕生日を尋ね合う。 自分のクラスの人によ日カレンダーを作る。
5 L3	教科・曜日	夢の時間割をつくらう	<ul style="list-style-type: none"> I have (math) on (Tuesday). What do you have on (Monday)? I study (P.E.) with (Hanyu Yuzuru). Good idea! 語彙: 教科 / 曜日 	6	<ul style="list-style-type: none"> 夢の時間割を作成して発表する。

(2学期)【B年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画(例)

・教科書にない言語活動を取り入れることも可能です。

パターン2

単元	題材	目標	扱う内容、表現例・語彙例	時数	主な言語活動例
6 L4	夏休みの思い出	夏休みの思い出を絵日記にしてみたよ	I went to (the mountain). I enjoyed (camping). I ate (curry and rice). It was (great). 出したこと/自然/デザート/味/場所/動作/食べ物/気持ちなど	4	・夏休みの思い出や昨日食べたものについて友だちと尋ね合ったり、例を参考に伝えた文を書き写したりする。 ・書きためた文をもとに「夏休みの記録メモ」を作り発表する。
5 L5	できること、できないこと	クラスみんなの「できること」を集めよう	I can (play the recorder). He is (a swimmer). He can (swim well). Can you (cook well)? Yes, I can. / No, I can't. Who is this? This is (Mr. Smith). It's (my/your) turn. 動作/建物/楽器/家族/人など	4	・先生や友達にインタビューをしたり、そのことをもとに名前カードを書いたりする。 ・外国の友達と行ってみたい国を伝えたりする。
5 L6	行きたいい場所	外国の友だちと一緒に訪れたい都道府県を伝えよう	・ Where do you want to go? ・ I want to go to (Hokkaido). ・ When do you want to go to (Hokkaido)? / In summer. ・ You can (eat fresh seafood) in (Hokkaido). ・ I want to (see) (the Kanto Festival) in August. ・ I can enjoy (hot springs). ・ Do you want to go to (Hokkaido)? ・ 形容詞 (beautiful, delicious, exciting, great, fun)	7	・自分が行ってみたい都道府県のクイズを作り、お互いに出し合う。 ・外国の友だちと行ってみたい都道府県を伝える。
6 L6	スポーツ競技	世界で話やくするスポーツ選手をしようかっしよう	・ What sports do you want to try? / I want to try (fencing). ・ This is (Nishikori Kei). ・ He/She is a (tennis player). ・ He/She can (play tennis well). ・ He/She is good at (the smash shots). ・ 語彙: オリンピックとパリンピックの競技名	7	・世界で話やくする選手を友だちに紹介する。また、その紹介シートを作る。
5 L8	道案内	目的地への行き方をうまく伝えよう	・ Where is (the station)? ・ Go straight (for two blocks). ・ Turn (right) at the (first) corner. ・ Cross (the street). ・ It's on your (left). ・ 前置詞 (on, in, under, by) ・ 語彙: 町や学校内の施設	7	・地図記号の意味を英語で書いて伝える。 ・町の地図を作り、案内し合う。

(3学期)【B年度】第5・6学年 外国語 年間指導計画(例)

・教科書にない言語活動を取り入れることも可能です。

パターン2

単元	題材	目標	扱う内容、表現例・語彙例	時数	主な言語活動例
6 L7	思い出	小学校の思い出を伝え合おう	・ What's your best memory? / My best memory is (the school trip). ・ We (went to) Yokohama / ate Chinese food / saw Mt. Fuji / enjoyed singing). ・ It was (delicious / fun / beautiful). ・ 語彙: 学校行事/学校生活	5	・思い出に残っている学校行事について、尋ね合う。 ・思い出の学校行事をシートに書く。
6 L8	将来の夢	将来の夢を発表し合おう	・ What do you want to be? ・ I want to be a (scientist). ・ Why? / (I like my science classes). ・ Good luck! / Fantastic! / Perfect job for you! / Great! / Nice dream! ・ 語彙: 職業名	5	・つきたい職業について尋ね合う。 ・将来の夢を風船シートに書く。
5 L9	仲良くなりたい人	友だちになつてみたい人やキャラクターをしようかっしよう	・ Who is your dream friend? ・ This is my dream friend. ・ (She) can (swim very fast). ・ (She) is (cool). ・ What are you good at? ・ I'm good at (cooking). ・ (He) is good at (swimming). ・ (He) is my favorite (baseball player). ・ 形容詞 (brave, cool, funny, strong, great, kind)	5	・得意なことをお互いに尋ね合う。 ・友だちになつてみたい人についてワークシートに書き、紹介する。
6 L9	中学校生活	中学校でしたいことを発表しよう	・ What club do you want to join? / I want to join (the newspaper club). ・ What event do you want to enjoy? / I want to enjoy (the culture festival). ・ 語彙: 中学校の部活/学校行事 ・ My Bookで使う表現 (既習の表現総復習)	5	・入りたい部活動や楽しみにしている学校行事について尋ね合う。 ・中学校でしたいことを書き、それをもとに発表する。

2 同主題同内容同程度（A・B年度方式）による年間指導計画作成の際の留意点

道徳科の内容は、道徳教育の目標を達成するために、内容項目を4つの視点からとらえ、低・中・高学年に分けて示されています。このことから第1・2学年、第3・4学年、第5・6学年と2つの学年が同時に学習する複式学級にあつては、同主題同内容同程度（A・B年度方式）で年間指導計画作成することができます。そして、実際の授業では、学年差による個人差の大きな異年齢集団であることに留意しながら、1つの学年より人数の多い2つの学年からなる集団で、多くの意見を聞きながら学習を進めることができます。これにより、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりできるというよさがあります。

(1) 6年間を見通し、学年差に配慮しながら内容項目や主題（ねらいと教材）を配列する

道徳科の学習では、学校の教育活動全体で行う道徳教育との関連を明確にし、児童の発達段階に即しながら、道徳性を養うことが大切です。そのためには、道徳の内容項目のすべてについて、確実に指導することができる見通しのある計画を作成し、年間指導計画に基づく指導をします。

道徳の内容については、下の表のように4つの視点から分類構成されています。

道徳の内容項目の数

	1・2年	3・4年	5・6年
A主として自分自身に関すること	5	5	6
B主として人との関わりに関すること	4	5	5
C主として集団や社会との関わりに関すること	7	7	7
D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	3	3	4
計	19	20	22

1年間で標準時数35時間（第1学年は34時間）の道徳科においては、学校の重点目標に沿って、低・中・高学年、それぞれ2つの学年を見通した指導を工夫することが必要です。

教科書については、上学年の教材は文章量が多い等、下学年の児童にとって理解の難しい場合があるので、2つの学年分の資料をA年度とB年度の2年間に配列する際には以下の点に留意します。

- ・1年間ですべての内容項目を取り上げ、残りの時間を自校の道徳教育の重点項目にあてること。
- ・2年間で計画的に学習ができるようにする。そのために同じ時期に同じ内容項目を設定することも1つの方法である。
- ・4月は特に下学年に配慮し、理解しやすい教材を取り扱うこと。

(2) 各教科等、体験活動等（地域の伝統行事や集団宿泊活動、自然体験活動）との関連を図る

複式学級を有する小学校では、各教科等において学年の目標、内容、順序によらない年間指導計画が立てられていることが多くあります。そこで、各教科等において道徳教育に関わる指導が適切に行われるよう、全体計画別葉が必要です。別葉を活用することで、道徳科の指導と各教科等における指導の時期を重ねる等の工夫ができ、より効果的な指導が可能になります。また、豊かな自然環境や古くから伝わる伝統行事等を生かし、体験活動で学んだことを道徳科で補充・深化・統合することで、道徳教育の充実を図ることができます。

(3) 教科書や「道徳読み物資料集」「私たちの道徳」「しまねの道徳」等を効果的に使用する

道徳科の授業を行う際の主たる教材として、検定教科書を使用することになりました。また、学習指導要領解説において、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材等、多様な教材を併せて活用することが重要となると示されています。これを踏まえ、教科書や「道徳読み物資料集」「私たちの道徳」「しまねの道徳」等を2つの学年にわたって計画的に活用します。教科書の無償給与に伴い「私たちの道徳」の配付はなくなりますが、文部科学省のホームページからダウンロードして、引き続き使用できます。文部科学省の「道徳読み物資料集」は、平成23年3月に作成された教材で、第1・2学年（8話）、第3・4学年（9話）、第5・6学年（12話）が掲載されており、学習指導要領の趣旨を生かした教材とその活用例が示されています。

また、島根県教育委員会から平成26年度には「しまねの道徳（小学校高学年）」、平成27年度には「しまねの道徳（小学校中学年）」が配付されました。児童が郷土を愛する心を育みながら道徳の学習ができる特色ある教材です。児童、学校、地域の実態に応じて計画的に活用します。

いずれにしても、教師が特定の価値観を児童に押し付けたり、児童が主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりするのではなく、児童が道徳的価値について主体的に考えることができるよう問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れる等、教材に応じて効果的な学習を設定することが必要です。



(4) 小規模校のよさを生かした家庭や地域社会との連携

小規模校では、授業の実施や地域教材の開発や活用等に、家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得やすいことが強みです。例えば、地域の専門家に授業に参加してもらったり、授業公開日には家庭や地域の人々に道徳科の授業に参加してもらったりすることも考えられます。

(5) 隣接校との集合学習の検討

極小規模の学校の場合、2つの学年合わせて2、3名の複式学級があります。また、欠学年が生じ、1学級1名の単式学級となる学級もあります。

そこで、極小規模の学級において隣接校との集合学習が考えられます。ただし、道徳科の指導は温かい人間関係があってこそ効果を発揮しますから、安心して発言できる人間関係づくりをした上で授業をする必要があります。また、それぞれの学級担任等がチーム・ティーチングにより協力的な指導を行うことが求められます。

集合学習は思いつきではなく、年間指導計画に位置付け、計画的に取り組む必要があります。各校の道徳教育全体計画を踏まえ、事前に十分に協議した上で授業に臨むことが大切です。

(6) 校内の協力的な指導等について

学級担任だけでなく校長や教頭等の参加による指導や、他教師とのチーム・ティーチング等の協力的な指導や、教員が得意分野を生かした指導を行う等、小規模校ならではのよさを生かして教職員が協力して指導ができるよう年間指導計画を工夫します。

3 実際の指導にあたっての工夫

- 下学年児童が上学年児童の前でも自分の考えが自由に発言できるような環境づくりを心がけます。上下学年の区別なく、話し合える学級経営が大切です。
- 2つの学年の生活経験の違いを生かし、多様な価値観を引き出すことが大切です。
- 教材を提示するときには、下学年に対して漢字の読みや言葉の意味等について配慮する必要があります。視覚や聴覚に訴える資料は、理解を促すのに有効です。
- 極小規模の学級においては、多様な道徳的価値に触れることが難しい時もあります。例えば、架空の児童役または人物役としてキャラクターを登場させる等して、児童に触れさせたい道徳的価値を提示する等の工夫をします。
- 小規模校では、家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得やすいことから、家庭や地域の人々による授業参加も考えられます。例えば、「私たちの道徳」(文部科学省)には、家庭や地域との連携による活用事例があります。第3・4学年には「共に助け合って生きる(教材名)」、第5・6学年には「かけがえのない命(教材名)」などがあり、「私たちの道徳 小学校 活用のための指導資料」(文部科学省)を参考にして授業づくりができます。
- 道徳科の評価については、個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とし、他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行います。特に複式学級では、上学年、下学年における児童の生活経験の差や少人数の利点を生かし、児童の実態を十分に把握した上で適切な指導と評価を工夫していくことが大切です。

低学年道徳科（同主題同内容同程度）年間指導計画（配当表）（案）

【A年度】

【B年度】

月	主題名・内容項目	教材名 教〇年…〇年生教科書 読…道徳読み物資料集 わ…私たちの道徳		月	主題名・内容項目	教材名 教〇年…〇年生教科書 読…道徳読み物資料集 わ…私たちの道徳	
4	学校、大すき Cよりよい学校生活、 集団生活の充実	わたしの学校	教2年	4	たのしい学校 Cよりよい学校生活、 集団生活の充実	めだかのめぐ	教1年
	よいことをする A 善悪の判断, 自律, 自由と責任	はりきりいちねんせい	教1年		よいと思うことはす すんで	ぼんたとかんた	わ
1年生の導入期は、特に資料を理解しやすく提示する配慮が必要です。							
5	わがままをおさえて A 節度, 節制	かぼちゃのつる	教1年	5	わがままをしないで A 節度, 節制	おにいちゃん、しっ かり	教2年
	だれとでもいっしょ に C 公正, 公平, 社会主 義	およげないりすさん	教2年		みんななかよく C 公正, 公平, 社会主 義	みらいくんのえ	教1年
	しょうじきに A 正直, 誠実	きんのお おの			のびと 子だぬき ポン		教2年
	いのちのつながり D 生命の尊さ	びよちゃん り			てね たよ D 生命の尊さ	みんな あかちゃん だったよ	教1年
6	わたしのすむ町 C 伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	見つけたよ	教2年	6	ふるさとに親しみ をもって C 伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度	ぎおんまつり	わ
	自分でやることはし っかりと A 善悪の判断, 自律, 自由と責任	小さな力をつみか さね ～二宮金次郎～	わ		自分の力で A 善悪の判断, 自律, 自由と責任	シロクマのクウ	読
	みんないきている D 自然愛護	げんきでね、あ ん				しぜんのいのち	教2年
	いろいろな国のよう す C 国際理解, 国際親善	行ってみたいな 			ても C 国際理解, 国際親善	なく となりのジェニーち ゃん	教1年
7	みんながつかうもの やばしょ C 規則の尊重	おかしくないかな	教1年	7	みんなのことを考 えて C 規則の尊重	黄色いベンチ	教2年
	あいさつのきもちよ さ B 礼儀	あかるいあいさつ	教1年		あいさつの力 B 礼儀	青いアルバム	教2年
9	しんせつにすると気 持ちがいい B 親切, 思いやり	はしの上			いごのすず	教2年	

教科書や「道徳読み物資料集」、
「私たちの道徳」等から資料を選
択し、年間指導計画に位置付けま
す。

生活科のまちたんけんや国際
理解教育に関する行事等、各教
科等、体験活動との関連を図り
ます。

近隣の学校との合同行事に合わせ、それに
関連した内容項目を年間指導計画に位置付
けた場合、集合学習を行うこともできます。

高学年道徳科（同主題同内容同程度）年間指導計画（配当表）（案）

【A年度】				【B年度】				
月	主題名・内容項目	教材名 教〇年…〇年生教科書 わ…私たちの道徳 読…道徳読み物資料集 し…しまねの道徳	月	月	主題名・内容項目	教材名 教〇年…〇年生教科書 わ…私たちの道徳 読…道徳読み物資料集 し…しまねの道徳	月	
4	思いやりの心 B 親切、思いやり	落とし物 教5年	4	4	思いを形に B 親切、思いやり	温かい行為が生まれる とき 教6年		
	よりよく生きる D よりよく生きる喜び				「航平」 D よりよく生きる喜び	教5年		
	たがいに信頼し、学び合って B 友情、信頼	幸せコアラ ※情報モラル	読		知らない間の出来事 ※情報モラル	読		
5	情報モラル等現代的な課題に関しては、学校や児童の実態に応じて計画的に進めます。						教6年	
	A 善悪の判断、自律、自由と責任				自由と責任			
	自然との共存 D 自然愛護	帰ってきたクニマス	教6年			教科書や「道徳読み物資料集」、 「しまねの道徳」、「私たちの道徳」 等から資料を選択し、年間指導計画に位置付けます。	教5年	
	限られた命 D 生命の尊さ	電池が切れるまで	教5年				教6年	
	家族への敬愛 C 家族愛、家庭生活の充実	はじめてのアンカー	教6年		かけがえのない家族 C 家族愛、家庭生活の充実	ほくがいるよ	教5年	
6	節度ある生活 A 節度、節制	ぬぎすてられたくつ	教5年	6	ぜいたくへのいましめ A 節度、節制	食べ残されたえびにのみだ	教6年	
	くじけない心 A 希望と勇気 努力と強い意志	将棋の道を歩く	し		希望と勇気をもってくじけずに A 希望と勇気、努力と強い意志	へレンと共に ～アニー・サリバン～	わ	
	不正に立ち向かう強さ C 公正、公平、社会正義	いじめをなくすために	教5年		正義の実現 C 公正、公平、社会正義	どれい解放の父 リンカン	教6年	
	自分の心に誠実に A 正直、誠実	のりづけされた詩	教6年		誠実な生き方 A 正直、誠実	手品師	教5年	
7	郷土や国を愛する心を C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	人間をつくる道 ～剣道～	わ	7	郷土を愛する心 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	馬入れをなくすな	し	
	わかり合う喜び B 相互理解、寛容	ブランコ乗りとピエロ	教6年		許すことの尊さ B 相互理解、寛容	銀のしよく台	教5年	

15 外国語活動

(折衷案：同単元同内容異程度・同単元同内容同程度)

1 年間指導計画を作成するに当たっての留意点

外国語活動の目標は、より弾力的な取扱いができるよう、学年ごとではなく、それぞれに2学年間を通した目標となっています。この目標を踏まえ、内容も2学年を通じて指導するものとして示されており、児童の実態に応じて指導内容を設定し、必要な内容を繰り返し指導する等、柔軟に指導することが適当であるとされています。また、外国語活動は、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することが目標であり、友達とやり取りしたり発表したりする言語活動が、その中心的な内容になります。そこで、より人数の多い集団で活動できる同単元同内容（完全1本案またはA・B年度方式、もしくはその折衷案）で教育課程を編成して学習することで目標を達成しやすくなると考えられます。

年間指導計画の作成にあたっては、基本的には、学年による経験差に応じた同単元同内容異程度（完全1本案）と、2学年とも同じ評価規準で活動する同単元同内容同程度（A・B年度方式）の折衷案の作成が考えられます。

授業を実施するにあたっては、児童理解や学習集団づくり等が求められるため、学級担任の教師の存在や直接間接の支援は欠かせません。しかしながら、活発なコミュニケーションの場の設定、国際理解教育の推進、また、専門性の重視等を考えると、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材の協力や専門性を有する教師の指導等、校内指導体制の充実を図ることが大切です。その上で、教育課程や指導方法の工夫を行います。

なお、この手引きでは、文部科学省作成の新教材「Let's Try! 1. 2」を事例として用いた年間指導を作成する際の留意点等を示しています。

(1) 第3学年の学習意欲に十分配慮する

- ・第3学年の1学期は、初めて英語と出合う大切な時期であることから、英語への関心・意欲を高めるよう、丁寧な指導が求められます。
- ・A年度は「Let's Try! 1」、B年度は「Let's Try! 2」という形で教材を使用すると、B年度では、第3学年が、「Let's Try! 2」を使って英語学習を始めることとなります。しかし、「Let's Try! 2」は「Let's Try! 1」を学習したことを前提として単元が配列されているため、第3学年が「Let's Try! 2」から始めると、表面上は活動についていくことは可能であっても、「英語は難しい」という苦手意識をもたせる恐れもあり、英語に対する学習意欲を低下させることにもつながりかねません。
- ・したがって、毎年度1学期は「Let's Try! 1」から始め、その後「Let's Try! 1. 2」の単元を組み替えて配列する方法が望ましいと考えられます。

(2) 「Let's Try! 1. 2」の2冊を持たせる

- ・上述のことから、複式学級では、児童に「Let's Try! 1. 2」の両方を持たせて指導します。
- ・「Let's Try! 1. 2」は、教科書ではないため、次年度から複式学級になる単式学級の第3学年に対しても、1と2の両方を配付することが可能です。
- ・また、単式・複式を繰り返す学級においては、次年度複式学級になることを見込んで、合同学習として単式の第3学年と単式の第4学年と一緒に活動することも可能です。その際、両学年の学級担任の教師が共同で指導にあたることとなります。

(3) 同単元同内容異程度による指導

- ・初めて英語に出会う第3学年の1学期前半は、原則として「Let's Try! 1」を中心に、毎年度同じ単元を設定し、2年間で繰り返し同じ内容を学習します。
- ・2年間で繰り返し学習する単元（以下「共通単元」）では、第4学年にとっては、1年前と同じ内容になりますが、すでに慣れ親しんでいることを踏まえ、デモンストレーション役や第3学年をリードする役割を与える等、目標や程度を上学年と下学年で違うものにして、繰り返しの中でより自信を持って表現できるようにします。
- ・また、2学期には、「Let's Try! 1」でアルファベットの大文字、「Let's Try! 2」でアルファベットの小文字を扱います。児童の負担を考えると、第3学年で大文字、第4学年で小文字を扱うのが適切です。「A・B年度方式」で行うとなると、第3学年で小文字から学習する年度が生じてくる場合があります。そこで、アルファベットについては、大文字・小文字ともに「共通単元」として毎年度繰り返し学習することが効果的であると考えられます。

(4) 同単元同内容同程度による指導

- ・1学期後半からは、「Let's Try! 1. 2」の単元の系統性に配慮しながら再配列します。例えば、「Let's Try! 1」の「I like blue. (Unit 4)」の単元と「What do you like ?(Unit 5)」の単元は、連続的に取り扱うと児童にとって気付きや慣れ親しみの活動が行いやすいので、同一年度に取り入れる方が効果的であると考えられます。
- ・また、「Let's Try! 2」の「Do you have a pen?(Unit 5)」と「What do you want?(Unit 7)」は、買い物場面を設定して言語活動をさせることが可能です。年度を変える等単元間の時間をあけると、前に学習したことを再度想起し、表現が記憶に残りやすいと考えられます。
- ・3学期は、第4学年が第5学年に進級することを考慮し、「Let's Try! 2」の単元を、A・B年度ともに配列する等の工夫が必要であると考えられます。

2 実際の指導に当たっての留意点

複式学級を有する小規模校で外国語活動を行うにあたって、一般的には、次のような長所と短所が考えられます。

【長所】

- ・児童一人当たりの英語発話量が多い。
- ・授業者やALT等が、個別に指導したり評価したりできる時間が長い。
- ・児童一人一人の興味・関心や発達段階に応じた言語活動の設定がしやすい。
- ・上学年を学習モデルとして生かすことができる。

【短所】

- ・お互いのことをよく知っていることから、言語活動の必然性をもたせるのに工夫が必要である。
- ・言語活動の相手に限りがあり、様々なコミュニケーションを行うことが難しい。
- ・上学年を中心に活動すると、下学年にとって難しい内容になる場合がある。

複式学級における外国語活動の指導にあたっては、これらの長所や短所を踏まえ、次のような点に配慮しながら学習活動を行うことで、複式学級のよさを生かした指導が可能となります。

(1) 指導体制の充実と工夫を図る

- ・ A L T 等とのティーム・ティーチングを行う時には、複式学級や一人一人の児童についてきちんと説明し、それぞれの学年に応じた関わり方をしてもらおうよう打ち合わせをします。
- ・それぞれの学年に応じた対応や個々の児童への関わり方について、教師同士の連携が図りやすいというよさを生かし、例えば振り返りカードを他教科と共通なものにする等、情報交換を積極的に行います。

(2) 2 学年で学習していることに配慮する

- ・下学年が慣れてきたように見えても、2 学年をひとくくりにして捉えるのではなく、下学年の既習内容や発達段階を十分に考慮します。
- ・上学年をデモンストレーション等でモデルとして生かします。
- ・同単元同内容で単元目標や評価規準は同じであっても、上学年と下学年で扱う語彙数を調整する等し、児童一人一人が達成感のある学習になるようにします。

(3) 質の高い言語活動を目指す

- ・児童同士が家族のようにお互いのことを知っている少人数の学級においては、分かりきった答えを尋ね合うような言語活動にならないよう、必然性のある言語活動を設定するよう工夫します。
- ・友達同士や A L T 等だけでなく、学級担任以外の教職員や保護者、地域の方に言語活動に参加してもらおうことで、様々なコミュニケーション活動を設定することができます。
- ・少人数のメリットを生かし、I C T 機器等を活用することで、海外の情報に直接ふれたり、外国の人々とコミュニケーションを図る機会を設定したりすることも可能です。

3 その他

雲南市立吉田中学校、吉田小学校、田井小学校では、平成 26 年度より 4 年間「外国語教育強化地域拠点事業（文部科学省委託事業）」の指定を受け、「ふるさとを愛し、その良さを広く世界に発信しようとする意欲とコミュニケーション能力の基礎を身に付け、グローバル社会に向けて自らの生き方を切り拓いていこうとする心情や態度を養う英語教育の在り方を探る～複式学級及び小規模校での実践を中心に～」をテーマに実践を積み重ねてこられました。

吉田小学校、田井小学校で取り組まれた実践については、吉田小学校のホームページに掲載されています。

【ホームページ掲載内容】

- ・ 外国語科・外国語活動実践研究成果発表会 研究紀要、大会要項
- ・ 中学年 単元配列表、高学年 単元配列表

外国語活動【折衷案：同単元同内容異程度・同単元同内容同程度】年間指導計画（例）

《 1 学期 》

【同単元同内容異程度】

共通単元							
教材	単元	時数	単元名	表現・語彙	単元目標		
					第3学年		第4学年
1	1	2	Hello! <i>Let's Try!1</i>	Hello. Hi. I'm (Hinata). Goodbye. See you.	<ul style="list-style-type: none"> 世界にはさまざまな言語があることに気付くとともに、挨拶や名前の言い方に慣れ親しむ。 名前を言って挨拶をし合う。 		<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるように工夫しながら、名前を言って挨拶を交わそうとする。
2	1	2	Hello, world! <i>Let's Try!2</i>	Good morning / afternoon /night. I like (strawberries).	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな挨拶の仕方があることに気付き、さまざまな挨拶の言い方に慣れ親しむ。 友達と挨拶をして、自分の好み等を伝え合う。 		<ul style="list-style-type: none"> 相手に配慮しながら、友達と挨拶をして、自分の好みなどを伝え合おうとする。
1	2	2	How are you?	How are you ? I'm (happy). fine,good,sleepy, hungry,tired sad,great	<ul style="list-style-type: none"> 表情やジェスチャーの大切さに気付き、感情や状態を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 表情やジェスチャーを工夫しながら挨拶をし合う。 		<ul style="list-style-type: none"> 表情やジェスチャーを付けて相手に伝わるように工夫しながら、挨拶をしようとする。
1	3	2	How many?	How many (apples)? (Ten) (apples). Yes.That's right. No. Sorry.数、身の回りの物、果物、野菜、形	<ul style="list-style-type: none"> 日本と外国の数の数え方の違いから、多様な考え方があることに気付き、1 から 20 までの数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 数について尋ねたり答えたりして伝え合う。 		<ul style="list-style-type: none"> 1 から 30 までの数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。 相手に伝わるように工夫しながら、数を尋ねたり答えたりしようとする。

1 学期は、初めて英語に触れる第3学年の児童に対して配慮します。挨拶や数字、簡単な表現から始め、英語学習に対する不安感や苦手意識が生じないように留意します。

第4学年にとっては1年前と同じ内容になりますが、すでに慣れ親しんでいることを踏まえ、デモンストレーション役や第3学年をリードする役割を与え、自信や自尊感情を高めるよう配慮します。

A 年度				B 年度					
教材	単元	時数	単元名	単元目標	教材	単元	時数	単元名	単元目標
1	4	3	I like blue.	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考え方があることや、音声やリズムについて外来語を通して日本語と英語の違いに気付き、色の言い方や、好みを表したり好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 自分の好みを伝え合う。 相手に伝わるように工夫しながら、自分の好みを紹介しようとする。 	1	7	3	This is for you.	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と英語の音声の違いに気付き、形の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。 相手に伝わるように工夫しながら、自分の作品を紹介しようとする。

《 2 学期 》

【同単元同内容同程度】

A 年度					B 年度				
教材	単元	時数	単元名	単元目標	教材	単元	時数	単元名	単元目標
1	5	3	What do you like ?	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と英語の音声の違いに気付き、身の回りの物の言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。 相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとする。 	2	2	4	Let's play cards.	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の遊びの共通点と相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、さまざまな動作、遊びや天気の違い、遊びに誘う表現に慣れ親しむ。 好きな遊びについて尋ねたり答えたりして伝え合う。 相手に配慮しながら、友達を自分の好きな遊びに誘おうとする。
2	4	3	What time is it ?	<ul style="list-style-type: none"> 世界の国や地域によって時刻が異なることに気付くとともに、時刻や生活時間の言い方や尋ね方に慣れ親しむ。 自分の好きな時間について尋ねたり答えたりして伝え合う。 相手に配慮しながら、自分の好きな時間について伝え合おうとする。 	2	3	4	I like Mondays.	<ul style="list-style-type: none"> 世界の同年代の子供たちの生活を知るとともに、曜日の言い方や曜日を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 自分の好きな曜日について尋ねたり答えたりして伝え合う。 相手に配慮しながら、自分の好きな曜日を伝え合おうとする。
1	9	4	Who are you? 【Story Time】	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付き、誰かと尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 絵本等の短い話を聞いておおよその内容が分かる。 絵本等の短い話を反応しながら聞くとともに、相手に伝わるように台詞をまねて言おうとする。 	1	8	3	What's this ?	<ul style="list-style-type: none"> 外来語とそれが由来する英語の違いに気付き、身の回りの物の言い方や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 クイズを出したり答えたりし合う。 相手に伝わるように工夫しながら、クイズを出したり答えたりしようとする。

A年度とB年度の単元の配列組み替えは、その単元で扱う言語材料の難易度等の系統性に配慮して設定しますが、学校行事や他の教科との関連等にも配慮することも大切です。

基本的には、第3学年も第4学年も同じ目標、同じ評価基準で指導しますが、英語学習に慣れた第4学年にデモンストレーションさせたりする等、複式学級ならではの人間関係を大切に指導します。

【同単元同内容異程度】

共通単元							
教材	単元	時数	単元名	表現・語彙	単元目標		
					第3学年	第4学年	
1	6	2	ALPHABET	(The"A"card), please. Here you are. This is for you. Thank you. You're welcome. 大文字(A-Z)、数	・身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむ。 ・自分の姓名の頭文字を伝え合う。	・相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとする。	
2	6	2	Alphabet	Look. What's this? I have (six). Do you have (a"b")? Yes, I do./No, I don't. That's right. Sorry. 小文字(a-z)、数	・身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。 ・身の回りにあるアルファベットの文字クイズを出したり答えたりする。	・相手に配慮しながら、アルファベット文字について伝え合おうとする。	

アルファベットについては、児童の負担を考えると、第3学年で大文字、第4学年で小文字を扱うのが適切です。そこで、大文字・小文字とも「共通単元」として毎年度繰り返し学習します。

《 3 学期 》

【同単元同内容同程度】

A 年度				B 年度					
教材	単元	時数	単元名	単元目標	教材	単元	時数	単元名	単元目標
2	5	4	Do you have a pen?	・文房具等の学校で使う物や、持ち物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・文房具等学校で使う物について、尋ねたり答えたりして伝え合う。 ・相手に配慮しながら、文房具等学校で使う物について伝え合おうとする。	2	7	5	What do you want?	・食材の言い方や、欲しい物を探ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。 ・欲しい食材等を探ねたり要求したりするとともに、考えたメニューを紹介し合う。 ・相手に配慮しながら、自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。
2	8	5	This is my favorite place.	・世界と日本の学校生活の共通点や相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、教科名、教室名や道案内の言い方に慣れ親しむ。 ・自分が気に入っている校内の場所に案内したりその場所について伝え合ったりする。 ・相手に配慮しながら、自分が気に入っている場所について伝え合おうとする。	2	9	4	This is my day. 【Story Time】	・日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付き、日課を表す表現に慣れ親しむ。 ・絵本等の短い話を聞いて反応したり、おおよその内容が分かったりする。 ・相手に配慮しながら、絵本等の短い話を聞いて反応しようとする。

第4学年が第5学年に進級することを考慮し、「Let's Try! 2」の単元を、A・B年度ともに配列する等の工夫が考えられます。

16 総合的な学習の時間

(折衷案：同単元異内容・同単元同内容同程度)

1 全体計画作成の際の留意点

総合的な学習の時間の目標は第3学年から第6学年まで共通で示されているので、その目標を踏まえて、各学校において目標と内容を定めます。つまり、複式学級であるなしに関わらず第3学年と第4学年、第5学年と第6学年が同じ目標、同じ内容で学習することもできますし、複式学級の2つの学年が、それぞれ異内容で学習することもできます。どのような内容をどの学年のまとまりで学習するのが、全て学校に任されています。

全体計画は「各学校における教育目標」、「各学校において定める目標」、「各学校において定める内容（「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力）」を明確にすることが重要です。さらに、基本的な内容や方針等を概括的・構造的に示すものとして「学習活動」「指導方法」「指導体制」「学習の評価」を考えて作成します。

全体計画を作成する際、以下の2点について配慮が必要です。

○各学校において定める目標は、『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』第2章第2節に示されている「第1の目標」の趣旨を適切に盛り込むよう配慮し、地域や学校、児童の実態や特性を踏まえ、各教科等との関連を視野に入れて作成することが求められます。具体的には、以下の二つを反映させることが要件となります。

- (1) 「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す」という、目標に示された二つの基本的な考え方を踏まえること。
- (2) 育成を目指す資質・能力については、「育成すべき資質・能力の三つの柱」である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つのそれぞれについて、第1の目標の趣旨を踏まえること。

○育成を目指す資質・能力には、各学校の目標が実現された際に現れる望ましい児童の成長の姿が示されます。望ましい姿には学年段階によって違いが出てきますから、育成を目指す資質・能力の設定に際しては、学年段階ごとに考えることが必要となってきます。この学年段階は、第3・4学年、第5・6学年をそれぞれ1つの段階とした2つの学年段階による設定が実践事例としても多く、また現実的な示し方です。

複式学級においては、第3・4学年、第5・6学年と2学年をひとまとまりとした学習の実践事例が多く見られます。その場合も、目標や内容は各学校が、同単元異内容指導、同単元同内容同程度指導、同単元同内容異程度指導等、児童・地域・学校の実態に合わせて独自に決めていくことができます。ただし、その際にも、上記の2点を踏まえていることが大切です。

2 年間指導計画作成の際の留意点

複式学級であるなしに関わらず、年間指導計画において単元を配列する際には、次に示すようなパターンが考えられます。それぞれの特徴を生かしながら作成することが望まれます。

- (1) 分散型…総合的な学習の時間の単元を学期ごと等いくつかの期間に分けて取り組むもの
- (2) 年間継続型…1年間を通じて同じテーマで継続的に取り組むもの
- (3) 集中型…季節や地域の行事等を中核にしてある期間に集中的に取り組むもの
- (4) 並列型…同じ時期に複数の単元に平行して取り組むもの
- (5) 複合型…学年単位の活動と学級単位の活動等、異なる学習形態や学習集団等を組み合わせて取り組むもの

また、「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」に示されている次のような年間指導計画作成上の留意点(1)～(4)に配慮する必要があります。

- (1) 児童の学習経験に配慮すること
 - ・児童のこれまでの学習経験やその経験から得られた成果について事前に把握し、それらを生かしながら計画を立てます。特に導入学年となる第3学年には、生活科等における学習経験について把握しておくことが大切です。その上で題材等を検討し、場合によっては学年による発達段階等を考慮して異内容にすることが考えられます。
- (2) 季節や行事等適切な活動時期を生かすこと
 - ・1年間の季節や行事の流れを生かすことが重要です。地域や校内の行事等について、時期と内容の両面から、その関連付けをあらかじめ検討することが大切です。地域の伝統行事、季節の変化、動植物との関わり等、学習活動を特定の時期に集中させることでその効果が一層高まるものもあります。
- (3) 各教科等との関連を明らかにすること
 - ・総合的な学習の時間では、各教科等で身に付けた資質・能力を十分に把握し、組織し直し、改めて現実の生活に関わる学習において活用することが求められています。このことから、総合的な学習の時間と各教科等との関連を意識した計画を作成することが重要となります。
- (4) 外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意識すること
 - ・保護者や地域の人、専門家等の多様な人々の協力、公民館や図書館といった施設・設備等、様々な教育資源を活用することが大切です。異校種との連携や交流活動を行う際には、児童にとって交流を行う必要感や必然性があるかどうか等を考慮する必要があります。

複式学級においては、これら4つの留意点に加えて次の点について配慮することが大切です。

- ・単元異内容指導において、2年続けて同じテーマの単元を行う場合、同じ活動の繰り返しとならないように配慮します。1年目に取り組んだ活動から新たな課題を見だし、次の探究的な学習活動につなげる等の工夫が必要です。
- ・年度によっては児童数が大きく変動する可能性があります。児童の実態を考慮した計画となるよう、毎年見直していく必要があります。
- ・教科等を同単元同内容同程度（A・B年度方式）で行う場合は、年度ごとに総合的な学習の時間と教科等との関連を確認する必要があります。

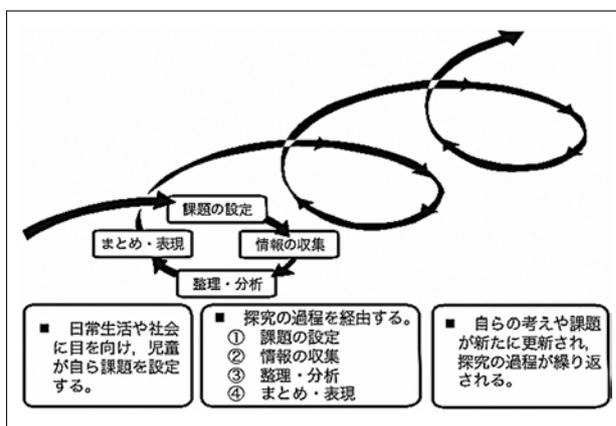
3 指導にあたって

総合的な学習の時間における学習指導のポイントは、「学習過程を探究的にすること」と「他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること」です。複式学級においても、そのポイントは同じです。

(1) 学習過程を探究的にすることについて

総合的な学習の時間では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えて

探究的な学習の時間における児童の学習の姿
(学習指導要領解説より)



いくための資質・能力を育成することを目標にしています。

そして、探究的な学習とするためには、「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現」の探究の過程を経由することが大切です。また、この探究の過程は図のように何度も繰り返され、高まっていく必要があります。

その際、以下の点について配慮が必要です。

①課題の設定

- ・総合的な学習の時間にあつては、児童が実社会や実生活に向き合う中で、自ら課題意識を持ちその意識が連続発展することが欠かせません。その際、教師はあらかじめ児童の発達や興味・関心を適切に把握し、意図的な働きかけをすることが重要です。

②情報の収集

- ・目的を明確にして図書資料やインターネットの利用、保護者・地域住民へのアンケートやインタビュー等を通して情報を収集する学習活動や、体験等を通して感覚的な情報を収集する学習活動から、児童が課題解決のための情報収集を自覚的に行えるようにすることが重要です。そして、収集した情報を適切な方法で蓄積することが大切です。

③整理・分析

- ・収集した情報を整理したり分析したりして、思考する活動へと高めていきます。その際、児童自身に情報を吟味させることが必要です。そして、どのような方法で整理・分析を行うのかを決めます。比較、分類、序列、類推、関連付け等「考えるための技法」を意識することがポイントです。そのために思考ツールを活用することも考えられます。

④まとめ・表現

- ・情報の整理・分析を行った後、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行います。児童の考えが明らかになったり、課題が一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりして、深まりのある探究的な学習活動を実現することにつながります。相手意識や目的意識を明確にすることが大切です。

少人数である複式学級の場合、「課題の設定」において、教師は児童一人一人の考えや課題を十分に把握することが比較的容易であると考えられます。その一方で、「まとめ・表現」においては、少人数であるため活動が制限されてしまう場合があります。学級内での発表だけでなく、合同学習、集合学習、交流学习、保育園等の地域に向けての発表を取り入れる等の工夫が望まれます。

(2) 他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすることについて

多様な考えをもつ他者と適切に関わり合ったり、社会に積極的に参画したり貢献したりする資質・能力の育成につながることから、総合的な学習の時間では、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動を重視します。そして、何のために学ぶのか、どのように学ぶのかということを見習い自身が考え、主体的に学ぶ学習が基盤にあることが重要です。

その際、以下の点について配慮が必要です。

①多様な情報を活用して協働的に学ぶ

情報交換しながら学級全体で考えたり話し合ったりすることで、探究的な学習の質を高めることが可能となります。

②異なる視点から考え協働的に学ぶ

児童の見方とは異なる資料を用意したり、専門家へのインタビューを取り入れたりする等の工夫が考えられます。

③力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ

集団で実現できる課題を設定したり、地域の人や専門家等と交流する場面を設定したりする等の工夫が必要です。

④主体的かつ協働的に学ぶ

協働的と主体的の両方をバランスよく意識し、それぞれの児童なりに主体的に学ぶこと、協働的に学ぶことの良いところを実感できるような工夫が必要です。

少人数である複式学級においては、他者との関わりに限りがあります。多様な情報が活用できるよう、学級の枠を越えた他学年や学校全体による学習活動・学習形態の工夫が必要です。場合によっては、近隣の学校との集合学習も考えられます。その際には、教員同士が各校の総合的な学習の時間の目標、内容等を十分に理解し、事前に計画したうえで学習に臨むことが大切です。

また、他の教科等における間接指導によって培われている自力解決の態度や能力、学び合う力を、総合的な学習の時間における探究の過程に生かして取り組むことを意識し、主体的・協働的に課題を解決していきけるように計画することが大切です。

4 学習状況の評価についての考え方

総合的な学習の時間の評価では「児童にどのような資質・能力が育成されたのか」を適切に評価します。教師は児童のよい点や進歩の状況の評価し、児童自身が学習したことの意義や価値を実感できるようにしたり、教師が学習活動をよりよく改善したりするものであることに十分配慮しなければなりません。各学校が定めた目標、内容に基づいた観点を設定し、観点別学習状況の評価を基本とします。そして、観点をもとに単元で実現が期待される育成を目指す資質・能力と評価規準を設定します。各観点到即して、単元の場面・学習を想起しながら、児童の姿を具体的にイメージします。評価の方法については、信頼される評価の方法（どの教師も同じように判断できる評価）であること、多面的な評価の方法（多様な評価方法や評価者を適切に組み合わせた評価）であること、学習状況の過程を評価する方法（各過程で計画的に位置付けた評価時期）であることが重要です。

複式学級においては、指導類型（同単元異内容指導、同単元同内容指導等）に沿った評価規準を設定します。設定にあたっては、学年段階と個々の児童の実態を踏まえる必要があります。同単元同内容指導においては、2学年とも同じテーマ、活動内容及び評価規準を設定し、同程度指導として活動を展開することができますが、異学年児童の学びの違いを発達特性と捉え、発達段階を考慮して評価規準を設定する異程度指導として展開することも可能です。

中学年総合的な学習の時間（折衷案：同単元異内容、同単元同内容同程度）年間指導計画（例）

		4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年生	単元名 (予定時数)	〇〇川探検隊 (35時間)										
	目標	ふるさとの川の体験活動(観察・調査)を通して、〇〇川には多くの生き物や植物がいることを知り、生き物や植物にすんで関わろうとする。										
3年生	主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生から〇〇川の話を聞き、〇〇川への関心を高める。 ・〇〇川探検に行き、魚をとる活動を行う ・探検からの気づきをカードに書き出し、さらに調べたい課題や行いたい活動を考える。 ・〇〇川水族館をオープンさせよう ・図書やインターネット、家族へのインタビュー等から情報を集める。 ・表やマップに調べたことをまとめ、今後の取組について考える。 ・地域の人や専門の人に話を聞く。(水族館) ・水族館をオープンさせる。 ・環境のことを考えながら魚を元の川に放す。 ・学習を振り返り、感想文にまとめる。 										
	教科等との関連	国語：「話すこと・聞くこと」「書くこと」 社会：「身近な地域や市」「地域の人の生活に必要な飲料水、電気、燃料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理」「災害及び事故の防止」「地域の人々の生活」「川の様子」 算数：「長さ」「重さ」「体積」「表やグラフ」 理科：「身近な自然の観察」「季節と生物」 道徳：A(3)、A(5)、B(8)、B(9)、D(18)、D(19)										
4年生	単元名 (予定時数)	4月～9月、同単元異内容の例 10月～3月は、同単元同内容同程度の例を示しています。										
	目標	ふるさとの川の体験活動(観察・調査)を通して、〇〇川には多くの生き物や植物がいることを知り、地域の方と〇〇川の自然を守っていかうとする。										
4年生	主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から話を聞き、〇〇川の環境への関心を高める。 ・〇〇探検に行き、環境を調べる活動を行う。 ・探検からの気づきをカードに書き出し、さらに調べたい課題や行いたい活動を考える。 ・〇〇川キラキラ作戦を考えよう ・図書やインターネット、家族へのインタビュー等から情報を集める。 ・表やマップに調べたことをまとめ、今後の取組について考える。 ・地域の人や専門の人に話を聞く。(環境課) ・キラキラ大作戦を行う。 ・学習を振り返り、感想文にまとめる。 										
	教科等との関連	国語：「話すこと・聞くこと」「書くこと」 社会：「身近な地域や市」「地域の人の生活に必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理」「地域の人の生活」「川の様子」 算数：「長さ」「重さ」「体積」「表やグラフ」 理科：「身近な自然の観察」「季節と生物」 道徳：A(3)、A(5)、B(8)、B(9)、D(18)、D(19)										

※他教科等で身に付けた資質・能力を適切に活用することを意識して計画することが重要です。
 ※3年生には初めての総合的な学習の時間の学習となるため、学習の進め方などを丁寧にすることが大切です。

※同単元で2年間行う場合、3年生が話をして関心を高めたり、3年生が困ったときには4年生にアドバイスを求めたりしながら進めることが考えられます。
 ※4年生には、同じ活動とならないように、前年度の活動で出された課題を解決していく展開とすることが大切です。

※原簿が様々な課題に取り組み始めるように、A・B年度で内容を表えて設定することが考えられます。
 ※教科等との関連については、年度によって確認する必要がある場合があります。

※足りない情報はさらに調査したり、新たな課題を提示したりするなど、探究のスパイラルを大切にしました指導を工夫します。

17 特別活動

(同内容同程度)

1 複式学級の特性を生かす

特別活動では、第1学年から第6学年まで共通の目標になっています。特別活動の内容は、学級活動、児童会活動、クラブ活動及び学校行事から構成されています。この4つの内容は、集団の単位、活動の形態や方法、時間の設定等において異なる特質をもっており、それぞれが固有の意義をもってしています。しかし、これらは、最終的に特別活動の目標の達成を目指して行われ、相互に関連し合っていることを理解し、児童の資質・能力を育成する活動を効果的に展開できるようにすることが大切です。

特別活動の計画・実施にあたっては、学校独自の創意・工夫が大切です。複式学級ならではの児童同士の密接な人間関係、異年齢の児童が共に生活する学級、全校児童を対象とした行事等の企画や、家庭や地域との連携のしやすさ等の特性を生かしながら、特色ある活動を計画します。特に、以下の活動については、複式学級の特性を生かしつつ、重点的に取り組む必要があります。

- (1) 合意形成を図ったり、意思決定をしたりする活動
- (2) 自分たちできまりをつくって守る活動
- (3) 異年齢集団や多様な他者との交流や対話をする活動
- (4) 振り返り活動

2 年間指導計画作成の留意点

特別活動の指導計画は、学校の教育目標を達成する上でも重要な役割を果たしているため、調和のとれた特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画を、全教職員の協力の下で作成することが必要です。全体計画及び各活動・学校行事の年間指導計画は、次の点に留意して作成します。

- (1) 学校の創意工夫を生かす
- (2) 学級や学校の実態や児童の発達等を考慮する
- (3) 各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間等の指導との関連を図る
- (4) 児童による自主的、実践的な活動を助長させるようにする
- (5) 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用等を工夫する

3 実際の指導における留意点

(1) 学級活動

複式学級では、特に「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」という特別活動の特質を意識しながら実践していくことが大切です。

○低学年や中学年における学級活動は、学級を単位とした議題や題材を取り上げます。しかし、複式学級は少人数であり、学級の児童数が少ないため、学級生活における課題が限られる場合があります。高学年と同様に、取り上げる議題や題材は学校生活全体や幼保小連携活動等、広がりをもたせるよう工夫することが大切です。

○複式学級にあっては学級活動「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容の特質に応じて、学級

の実態に合った議題や題材を工夫する必要があります。

(2) 児童会活動

- 異年齢集団による自発的、自治的な活動の場や機会を多く設定し、高学年のリーダーシップを育て、学校集団としての活力を高め、楽しく豊かな学校生活をつくるよう努めます。
- 児童の自発的、自治的な活動において、児童数が少ないことにより教師に依存してしまうことのないよう、活動に関しては可能な限り児童に任せるという態度が大切です。
- 児童会の計画や運営は、主として高学年の児童が行うこととなっていますが、児童の発達の段階等を考慮しながら、中学年の児童が運営に参加できるように配慮したり、低学年の意見が児童会に反映されるよう工夫したりすることも考えられます。

(3) クラブ活動

- 児童の自発的、自治的な活動になるよう、教師の適切な指導の下、年間や学期、月ごと等に上学年の児童が中心になって活動計画を立て、役割を分担し、協力して運営に当たることが大切です。
- 小規模校においては、第3学年や低学年からクラブ活動に参加できるようにしたり、その人数に見合ったクラブの数を組織したりすることが考えられます。その場合、特に児童の発達の段階等を考慮し、学級や学年が異なる仲間と協力して活動を進めることができた喜び等が実感できるよう指導します。
- 必要に応じて社会教育施設をはじめとする学校外に活動の場を求めたり、地域の人々をはじめとする専門的な外部講師の協力を得たりする等、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用を工夫することによって、様々な人との出会いを大切に活動した活動を工夫することが考えられます。

(4) 学校行事

- 地域を理解し、郷土への愛着を深める観点から、地域の伝統や文化に触れる機会を積極的に設定します。
- 学校行事の指導計画作成に関して、地域社会との連携を図るうえで、次のことに考慮します。
 - ・学校行事の年間指導計画の立案にあたっては、地域の実態に即した特色ある行事の創造を意識し、地域社会との連携を生かすことが大切です。連携を進めるために、例えば地域の人々が参観しやすい期日に授業公開日を設定したり、地域の伝統文化に触れる活動や地域の行事との関連を図ったりすることが考えられます。
 - ・勤労生産・奉仕的行事等を実施する際には、積極的に保護者や地域の関係団体と連携をとります。例えば幼稚園や保育所等、介護施設等と交流し、多様な人々と人間関係を築こうとする態度の育成を図ります。
 - ・学校行事としてのねらいを地域の方に示しながら、学校行事としてふさわしい活動にします。

4 複式学級における学級活動の年間指導計画作成の留意点

学校や学級、児童の実態に即し、学校行事との効果的な連携を図りながら計画を立てます。また、学級会の「話し合い活動」の指導は、低学年、中学年、高学年の系統性をもって取り組みます。

児童の自主性を伸ばし、学校生活を一層楽しくするために学級活動(1)に重点を置き、低・中・高学年の実態や発達の課題を踏まえて指導内容の重点化を図ることが大切です。特に、学級活動(2)や(3)については、取り上げる指導内容の重点化を図り、前年の内容と重複しないよう系統性を踏まえ、年間指導計画を適切に設定する必要があります。

低学年学級活動（同内容同程度）年間指導計画（例）

月	議題・題材		内容	活動形態	学校行事
	A年度	B年度			
4	新しい学年になって・学級のめあてをきめよう		(3)-ア	話	・始業式、入学式
	つくろう係活動		2年生には、1年生をあたたく迎え、一緒に学校生活を過ごす意識が高まるよう働きかけ、1年生が集団で活動する楽しさを味わい、安心して学校に通えるようにします。		
	正しい道の歩き方	登下校の楽しい給食			
5	学校のきまりを知ろう		(1)-ア	話	
	クラス集会をしよう1（計画・実践・振り返り）		(3)-イ		
	そうじ上手になろう				
6	図書館と仲良くなろう		教師が司会役となり、「①課題発見」→「②解決方法の話合い」→「③解決方法の決定」→「④決めたことの実践」→「⑤振り返り」のような学習過程を経験することで、話合いの進め方を理解することも大切です。低学年では、1単位時間の前半で①～③の話合いを行い、後半は「④決めたことの実践」「⑤振り返り」を行うことも考えられます。		
	議題箱から学級会・きまったこと				
	雨の日の過ごし方	言葉づかいを考えよう			
7	クラス集会の計画を立てよう2				
	クラス集会をしよう2				
	楽しい夏休み				
9	工夫しよう係活動		(3)-イ		・始業式 ・運動会
	運動会を盛り上げる工夫をしよう		(1)-ウ	話	
	議題箱から学級会・きまったことに取り組みよう2		(1)-ア	話集	
10	楽しい遠足にしよう		(2)-イ	話	・遠足
	本をたくさん読もう		複式学級では、学年差や生活経験の差があります。児童一人一人の実態を十分把握し、指導していくことが大切です。		
	議題箱から学級会3				
11	きまったことに取り組みよう3		(1)-ア	集	・学習発表会
	学習発表会を成功させよう		(1)-ウ	話	
	整理整頓をしよう	忘れ物0をめざそう	(2)-ア	話	
12	クラス集会の計画を立てよう3		(1)-ア	話	・卒業式
	クラス集会をしよう3		学級活動の内容【(1)ア～ウ、(2)ア～エ、(3)ア～ウの10項目】は全て、いずれの学年においても取扱います。		
	かぜを予防しよう				
1	工夫しよう係活動		(1)-イ	係	・始業式
	いろいろ食べよう	給食は栄養がいっぱい	(2)-エ		
	議題箱から学級会4		(1)-ア	話	
2	きまったことに取り組みよう4		(1)-ア	集	・1日入学
	たいせつなからだ	さそわれたらどうしよう	(2)-ウ	議題によって内容や活動形態が変わることがあります。	
	6年生を送る会の準備をしよう		(1)-ア		
3	クラス集会の計画を立てよう4		(1)-ア		・卒業式、修了式
	クラス集会をしよう4		(1)-ア	集	
	次の学年に向けて		(3)-ア	話	

「議題箱から学級会」の議題例

- 「学級の〇〇を作ろう（マーク、キャラクター、歌、旗など）」 「係の発表会をしよう」
 「夏休み発表会をしよう」 「〇〇（学級の問題など）を解決しよう」
 「学習発表会であることを考えよう」 「送る会の出し物を決めよう」
 「1日入学のメニューを決めよう」 「児童総会の議題を話し合おう」 「学級目標を振り返ろう」

※中・高学年の年間指導計画（例）の留意事項（吹き出し等）も併せてご確認ください。

中学年学級活動（同内容同程度）年間指導計画（例）

月	議題・題材		内容	活動態	学校行事		
	A 年度	B 年度					
4	新しい学年になって		(3)-ア	話	・始業式、入学式 ・学年集会		
	学級のめあてをきめよう		下学年の児童の発言も尊重し、全員参加 の話し合いができるようにします。				
	つくろう係や当番活動						
	クラス集会の計画を立てよう 1						
5	そうじの仕方を考えよう		(3)-イ	話	・家庭訪問		
	学校のきまりを守ろう		1 単位時間を使って話し合い、「④決めたことの実践」（集 会活動等）は休み時間や放課後を利用することもできます。				
	家庭学習について考えよう						
	バランスの良い食事	食生活を考えよう				(2)-エ	話
6	議題箱から学級会 1		(1)-ア	話			
	きまったことに取り組もう 1		(1)-ア	集			
	友だちのよいところを見つけよう	友だちのことを	「①課題発見」～「⑤振り返り」のような学習過程 を繰り返し経験することで児童が主体的に話し合う ことができるよう指導します。				
野菜を食べよう	好き嫌いをなく						
7	クラス集会の計画を立てよう 2						
	クラス集会をしよう 2						
	係や当番活動を見直そう					(3)-イ	
運動会を盛り上げる工夫をしよう		(1)-ウ	話				
議題箱から学級会 2		よりよい運動会をめざして、高学年と協力し、主体的に かかわっていきこうという意欲が高まるよう働きかけます。					
きまったことに取り組もう 2							
10	むし歯を予防しよう	生活リズム					
	議題箱から学級会 3					(1)-ア	話
	きまったことに取り組もう 3					(1)-ア	集
学習発表会を成功させよう		(1)-ウ	話				
図書館を利用しよう		(3)-ウ					
12	教室をきれいにしよう	室内での過ごし方	(2)-ア	話	・終業式		
	クラス集会の計画を立てよう 3		(1)-ア	話			
	クラス集会をしよう 3		(1)-ア	集			
1	係や当番活動を充実させよう		(1)-イ	係	・始業式		
	丈夫なからだをつくろう	ウイルスからからだを守ろう	(2)-ウ				
	みんなで協力	相手の気持ちを考えて	(2)-イ				
2	議題箱から学級会 4		(1)-ア	話	・1 日入学		
	きまったことに取り組もう 4		(1)-ア	集			
	男女のからだの変化	心とからだの成長	(2)-ウ				
3	クラス集会の計画を立てよう 4		(1)-ア	話	・6 年生を送る会 ・卒業式、修了式		
	クラス集会をしよう 4		(1)-ア	集			
	次の学年に向けて		(3)-ア	話			

「議題箱から学級会」の議題例

「学級の〇〇を作ろう（マーク、キャラクター、歌、旗など）」 「係の発表会をしよう」
 「夏休み発表会をしよう」 「〇〇（学級の問題など）を解決しよう」
 「お世話になった〇〇さんへ感謝の気持ちを伝えよう」 「学習発表会の内容を考えよう」
 「送る会の出し物を決めよう」 「児童総会の議題を話し合おう」 「学級目標を振り返ろう」

※低・高学年の 年間指導計画（例）の留意事項（吹き出し等）も併せてご確認ください。

高学年学級活動（同内容同程度）年間指導計画（例）

月	議題・題材		内容	活動形態	学校行事
	A 年度	B 年度			
4	新しい学年になって・学級のめあてをきめよう		(3)ーア	話	・始業式、入学式
	つくろう係や当番活動		学級のめあてに合わせて、6年生は最上級生として学校全体をリードしていく自覚、5年生は高学年として6年生と協力していく心構えについて、自分の目標を自己決定できるようにします。		
	安全な自転車の乗り方	登下校の安全			
	クラス集会の計画を立てよう 1				
5	クラス集会をしよう 1		(2)ーア	話	
	そうじの仕方を工夫しよう		(2)ーエ	話	
	学校のきまりを考えよう				
	栄養のバランスを考えよう	給食に感謝しよう			
6	議題箱から学級会・きまったことに取り組みよう 1		(1)ーア	話集	
	家庭学習の仕方を工夫しよう		児童が主体的に話し合い、合意形成や意思決定ができるよう指導します。「④決めたことの実践」は、休み時間や放課後等、課外の時間に実施することも考えられます。		
	高学年らしさとは	自分			
7	クラス集会の計画を立てよう 2		(3)ーア		
	クラス集会をしよう 2				
	夏休みの計画を立てよう				
9	係や当番活動を見直そう		(3)ーイ		・始業式
	運動会を盛り上げる工夫をしよう		(1)ーウ	話	・運動会
	議題箱から学級会 2		(1)ーア	話	
10	きまったことに取り組みよう 2		(1)ーア	集	・遠足
	宿泊研修に出かけよう	修学旅行に出かけよう	(3)ーイ	話	
	タバコと健康	飲酒や薬物と健康	(2)ーウ	話	
11	議題箱から学級会・きまったことに取り組みよう 3		(1)ーア	話集	・学習発表会
	学習発表会を成功させよう		(1)ーウ	話	
	上手な情報の集め方	著作権に気をつけよう	(3)ーウ		
12	学校をきれいにしよう	室内での安全な過ごし方	(2)ーア	話	・終業式
	クラス集会の計画を立てよう 3		(1)ーア	話	
	クラス集会をしよう 3		(1)ーア	集	
1	係や当番活動を充実させよう		(1)ーイ	係	・始業式
	病気から身体を守ろう	感染症の予防	(2)ーウ		
	楽しい給食の工夫	健康と食事	(2)ーエ		
2	議題箱から学級会 4		(1)ーア	話	・1日入学
	きまったことに取り組みよう 4		(1)ーア	集	
	気持ちの良い言葉	相手の	6年生は中学校に向けての意欲、5年生は最上級生になり、学校全体をリードしていく自覚が高まるようにします。		
おやつのととり方	朝ごはん				
3	感謝の気持ちを伝えよう		(3)ーイ	話	・卒業式、修了式
	次の学年に向けて		(3)ーア	話	

「議題箱から学級会」の議題例

- 「児童会の〇〇を作ろう（マーク、キャラクター、歌、旗など）」 「係の発表会をしよう」
 「1年生を迎える会を計画しよう」 「〇〇（学級・学校の問題など）を解決しよう」
 「運動会（学習発表会）のスローガンに決め方を考えよう」 「全校集会を企画しよう」
 「児童総会の準備をしよう」 「学級目標を振り返ろう」

※低・中学年の 年間指導計画（例）の留意事項（吹き出し等）も併せてご確認ください。

◇参考文献・引用文献等

- 小学校学習指導要領（文部科学省、平成20年3月告示）
- 小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省、平成20年8月）
- 小学校学習指導要領解説各教科編（文部科学省、平成20年8月）
- 小学校複式学級指導資料理科編（文部省、平成6年）
- 小学校複式学級指導資料生活編（文部省、平成6年12月）
- 小学校複式学級指導資料音楽編（文部省、平成7年10月）
- 小学校複式学級指導資料家庭編（文部省、平成7年10月）
- へき地教育資料第52号（文部省、平成7年3月）
- へき地教育資料第51号（文部省、平成5年3月）
- 文部科学省学校基本調査
- 教育の未来を拓く学習指導要領の変遷
（別冊初等教育資料、文部科学省教育課程課／幼児教育課、東洋館出版社、平成25年5月22日）
- 改訂複式学級の指導（島根県教育委員会、昭和61年度再版）
- 平成27年度各教科の指導の重点（島根県教育委員会、平成27年3月）
- 学習評価を生かした授業改善、授業づくりのためのハンドブック〔小学校〕（島根県教育委員会、平成23年3月）
- 小学校・中学校教育課程の編成・実施の手引―Q&A―（島根県教育委員会、平成22年3月）
- 複式学級指導事例集第20集（島根県教育委員会、平成9年4月）
- 国と島根の教育（島根県教育委員会、昭和40年、昭和45年）
- 島根の教育（島根県教育委員会、昭和50年、昭和55年、昭和60年、平成元年、平成5年、平成10年、平成15年、平成20年、平成25年、平成27年）
- 複式学級における学習指導の在り方【改訂版】（北海道立教育研究所・北海道教育大学、平成24年3月）
- 複式学級を有する学校のために―複式学級指導資料―（宮崎県教育委員会、平成23年3月）
- 複式学級指導の手引（天草郡市教育委員会連絡協議会、平成22年3月）
- へき地・複式教育ハンドブック（一般編）（青森県教育委員会、平成19年3月）
- 入門 複式授業―始めよう複式学習の指導―
（岩手大学教育学部 岩手県小規模・複式学校教育研究連盟、平成17年3月）
- 岩手の小規模・複式指導ハンドブック―生活・音楽・図工・家庭・体育―（岩手県教育委員会、平成16年1月9日）
- 平成26年版（平成25年度実践事例集）「明日を拓く」―へき地・複式・小規模校からの発信 - ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成―（全国へき地教育研究連盟、平成26年3月31日）
- ふるさと発『生きる力』を育む教育の創造―へき地・複式・小規模学校の課題解明へのアプローチ―
（全国へき地教育研究連盟、平成13年8月1日）
- へき地・複式・小規模学校Q&A―新学習指導要領に添う新しい研究推進のために―
（全国へき地教育研究連盟、平成12年9月25日）
- これだけは知っておきたいへき地教育ガイドブック（全国へき地教育研究連盟、平成7年8月20日）
- へき地・小規模・複式学校の特性を生かした学習指導（指導方法）（全国へき地教育研究連盟、平成元年3月31日）
- へき地・複式教育ハンドブック（全国へき地教育研究連盟、昭和60年1月25日）
- 学習指導方法の工夫・改善（全国へき地教育研究連盟、平成10年10月10日）
- 複式教育ハンドブック―異学年が同時に学び合うよさを生かした学習指導―
（広島大学附属東雲小学校、平成22年6月25日）
- 複式学級指導法―単式学級内の学力差に対応した現場の工夫にも役立つ指導法―
（長崎・鹿児島・琉球3大学連携研究「複式学級指導法」編集委員会編、東京教学社、平成21年3月31日）
- 小学校家庭科の授業づくりと評価（筒井恭子、明治図書、平成24年2月）
- 平成20年改訂小学校教育課程講座家庭（長澤由喜子・鈴木明子、ぎょうせい、平成20年11月15日）
- へき地・複式教育の基礎的研究―社会科を中心に―（有馬毅一郎、平成14年3月2日）
- 小は大をかねる（玉木国寿、平成13年12月17日）
- 複式指導における年間指導計画案について―作成の方針・使用上の留意点―（光村図書出版）

- 小学校学習指導要領（文部科学省、平成29年3月告示）
- 小学校学習指導要領解説総則編・各教科等編（文部科学省、平成29年7月）
- 令和2年度小学校複式学級用『新しい国語』指導計画作成資料年間指導計画編（東京書籍）
- 令和2年度年間指導計画作成資料 社会（東京書籍）
- 2020年度用 算数 カリキュラム作成資料 年間指導計画（複式カリキュラム）（啓林館）
- 令和2年度年間指導計画作成資料 算数（東京書籍）
- 令和2年度年間指導計画作成資料 理科（東京書籍）
- 令和2年度用小学校音楽 年間学習指導計画作成資料（暫定版）（教育芸術社）
- 令和2年度年間指導計画作成資料 家庭（東京書籍）
- 令和2年度「わたしたちの体育」年間指導計画例（文教社）
- 令和2年度「みんなの体育」年間指導計画例（学研教育みらい）
- 小学校英語 New Horizon Elementary 異学年が学び合う良さを活かして～複式学級指導計画を作る～（東京書籍）
- One World Smiles 年間指導計画表（教育出版）
- 令和2年度年間指導計画作成資料 新・みんなの道徳（学研）
- 令和2年度年間指導計画作成資料 小学校外国語活動教材「Let's Try!1」「Let's Try!2」（文部科学省）

